

緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集

Vol. 14



森林体験学習支援事業（山口県）

はじめに

昭和 63 年に 3 月に「緑と水の森林基金」が創設されてから、38 年余の歳月が経過しました。平成 23 年 7 月には、機構の組織が社団法人から公益社団法人に変更となったことに伴い「緑と水の森林基金」は「緑の水の森林ファンド」に名称を変更し、ファンドの運用収入を活用して森林資源の整備や水源かん養等の課題を中心に、「国民参加の森林づくり運動」推進のため幅広い事業を展開してまいりました。

平成 27 年 9 月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標 (SDGs) の達成や、人生 100 年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林空間利用の促進、さらに 2030 年ネイチャーポジティブ、2050 年カーボンニュートラルの実現等を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災、能登半島地震及び気障害では森林が多大な被害を受け、その復興への支援が引き続き求められています。

このような中で、当事業は、「国民参加の森林づくり」の一層の推進のための普及啓発、森林ボランティア活動への支援、森林環境教育を通じた次世代の育成などの課題を重点に、実施主体により中央事業、都道府県事業、公募事業の 3 つに区分し実施してまいりました。

本報告書は、このうち都道府県事業（令和 6 年度）の成果を報告集として取りまとめたもので、事業内容は多種多様な課題にわたっております。ご高覧いただき皆様の活動の一助としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本冊子のとりまとめに当たりまして、ご協力いただきました皆様方に心から御礼申しあげます。

令和 8 年 3 月

公益社団法人国土緑化推進機構

緑と水の森林基金・ファンド 刊行物一覧

「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成2年版	(1992.4)
「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成3・4年版	(1994.8)
「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成5・6年版	(1996.3)

緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL1	緑と水のサイエンス	(1996.8)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL2	緑と水のサイエンス	(2001.7)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL3	緑と水のサイエンス	(2004.6)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL4	緑と水のサイエンス	(2007.8)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL5	緑と水のサイエンス	(2009.5)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL6	緑と水のサイエンス	(2010.4)

緑と水の森林基金	緑と水の森林基金公募事業報告集	VOL1	(2011.3)
緑と水の森林基金	緑と水の森林基金公募事業報告集	VOL2	(2012.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL3	(2012.12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL4	(2013.12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL5	(2015.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL6	(2016.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL7	(2017.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL8	(2018.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL9	(2019.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL10	(2020.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL11	(2021.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL12	(2022.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL13	(2023.6)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL14	(2024.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL15	(2025.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL16	(2026.3)

緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL1	(2013.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL2	(2013.12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL3	(2014.12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL4	(2016.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL5	(2017.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL6	(2018.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL7	(2019.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL8	(2020.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL9	(2021.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL10	(2022.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL11	(2023.6)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL12	(2024.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL13	(2025.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL14	(2026.3)

目次

北海道森と緑の会

令和6年度「美遊の森」体験学習会 (A-1)	9
青少年育成事業 (A-3)	9
イベント家族きのお観察会 (A-4)	10
森林ボランティア活動推進事業 (A-5)	10
旭山希少種・保護 生物多様性保全事業 (A-6)	11
旧豊平川河岸に原始の森を創る 150年プロジェクト (A-8)	12
森林学習とツリークライミング体験会 (A-9)	12
「羊蹄里山の森」における森づくり・森林空間利用事業 (A-10)	13
原始の森を再生する 150年プロジェクト (A-11)	14
松恵小学校緑の少年団育成事業 (A-12)	14
羊を使った森作り事業 (A-13)	15
木になるフェスティバル (A-14)	16
普及啓発事業「森林(もり)の市(いち)」(A-15)	16
東川町キトウシの森ボランティアリーダー育成事業 (A-16)	17
日曜大工事業 (A-17)	17
生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業 (A-18)	18
森林及び木製遊具体験事業 (A-19)	18
動物の力を活かした森づくり事業 (A-20)	19
北海道木育フェスタ推進事業 (A-21)	19
木育ひろば in チ・カ・ホ (A-22)	20
森林環境教育推進事業 (A-23)	21
次世代に引き継ぐ森林づくり事業 (A-24)	22
野付湾の流域河川の河畔林づくり事業 (B-1)	23
馬追自然の森整備事業 (C-1)	24
森林保全整備で地域環境へ寄与する！ (C-2)	24
野幌の森再生事業と親子による植樹祭 (C-3)	26
ルルマップ自然公園ふれらんど植栽事業 (C-4)	27
令和6年度里見緑地内植樹・環境整備保全事業 (C-5)	28
市街地緑化事業 (C-7)	28
第30回サケの上る森づくり植樹祭 (C-8)	29
ユネスコの森づくり (C-9)	29
「帯広の森」づくり事業 (C-10)	30
十勝牧場白樺並木再生事業 (C-11)	30
釧路湿原周辺丘陵地の自然林再生事業 (C-12)	31

青森県緑化推進委員会

「未来の青い森県民植樹祭」実施事業 (A-25)	32
木と森と人とのふれあい事業 (A-26)	33

岩手県緑化推進委員会

令和7年度遠野市緑化祭『里山フェスタ2025』(A-27)	34
一関地方育樹祭 (A-28)	34
緑の少年団育成事業 (A-29)	35
木工工作キット配布事業 (A-30)	35
ふるさとの巨樹・名木観察会 (A-31)	36
第55回岩手県緑の少年団大会 (A-32)	36

宮城県緑化推進委員会

宮城県みどりの少年団大会開催事業 (A-13)	37
-------------------------	----

秋田県緑化推進委員会

緑と水のキャンペーン事業 (A-33)	38
市民グループ森林づくり事業 (A-34)	38
緑の少年団育成事業 (C-14)	39
森林活動指導者支援事業 (C-15)	39

やまがた森林と緑の推進機構

山形県林業まつり開催事業 (A-35)	40
庄内森とみどりのフェスティバル開催事業 (A-36)	40
山形県緑の少年団連盟交流研修支援事業 (A-38)	41

福島県森林・林業・緑化協会

緑化普及啓発事業 (第 33 回みどりの作文コンクール) (A-39)	42
普及啓発事業 (第 49 回福島県林業祭) (A-40)	43
ファミリー緑の教室の開催事業 (A-41)	43
ふくしま緑の醸成事業 (A-42)	44
都市と農村の交流事業 (第 37 回ふくしま緑の百景歩こう会) (C-16)	44
都市と農村の交流事業 (第 36 回ふくしま緑の百景歩こう会) (C-20)	45

茨城県森林・林業協会

青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業 (A-43)	46
緑の体験教室開催事業 (A-44)	46
グリーンフェスティバル開催事業 (A-45)	47
森林ボランティア育成事業 (C-17)	47
山村地域づくり活動助成事業 (C-18)	48
緑化樹木等苗木無償配布事業 (C-19)	48

とちぎ環境・みどり推進機構

「緑や水」「森林と木材の利用」「震災復興支援」など森林の総合的利用の促進 (A-46)	49
---	----

群馬県緑化推進委員会

群馬県植樹祭開催 (A-47)	50
「木育」活動促進事業 (A-48)	50
巨樹・古木巡りツアー事業 (A-49)	51
森と木のまつり (A-50)	51

埼玉県緑化推進委員会

さいたま森林フォトコンテスト事業 (A-51)	52
緑の少年団活動支援事業 (A-52)	52
緑化普及啓発事業 (A-53)	53

千葉県緑化推進委員会

令和 6 年度国土緑化運動ポスター原画コンクール (A-54)	54
---------------------------------------	----

東京都農林水産振興財団

ふるさとの杜活力調査事業 (B-2)	55
--------------------------	----

にいがた緑の百年物語緑化推進委員会

普及啓発卒寿の森づくり事業 (A-55)	56
「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業 (秋期) (A-56)	56
「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業 (春期) (A-57)	57
すが池ビオトープ観察ポイント整備設計・調査委託事 (A-58)	57

とやま緑化推進機構

森林・木材等普及啓発事業 (A-59)	58
花とみどりの少年団活動支援事業 (C-20)	59

石川県緑化推進委員会

緑化思想の普及啓発事業 (A-60)	60
県内産緑化苗木無償配布事業 (C-21)	60

森づくりボランティア・キャンペーン事業 (C-22)	61
福井県緑化推進委員会	
もりとふれあい推進事業 (普及啓発事業) (A-61)	62
ふくいの森林づくり推進事業 (活動基盤の整備) (C-23)	62
山梨県緑化推進機構	
普及啓発事業 教職員森林・林業研修 (A-62)	63
普及啓発事業 緑化ポスターコンクール等開催 (A-64)	63
普及啓発事業 子ども樹木博士認定事業 (A-65)	64
普及啓発事業 親子緑の集い (A-66)	64
普及啓発事業 森林環境教育・木育支援事業 (A-67)	65
長野県緑の基金	
緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業 (A-68)	66
岐阜県緑化推進委員会	
緑化推進キャンペーンと資材供給事業 (A-69)	67
恵みの森づくり事業 (C-24)	67
静岡県グリーンバンク	
森づくり県民大作戦支援事業 (A-70)	68
森林ESD推進事業 (C-25)	69
愛知県緑化推進委員会	
普及啓発 みどりに親しむ集い事業 (A-71)	70
みどりフェスティバル 24秋・25春 事業 (A-72)	71
苗木の育成と配布事業 (愛知県植樹祭) (A-73)	71
調査研究 ふるさと樹木診断事業 (B-3)	72
活動基盤整備 (活動基盤の整備) (C-26)	72
三重県緑化推進協会	
みどりの少年隊活動推進 (A-74)	73
森林教室開催 (A-75)	73
森林ボランティア活動促進 (A-76)	74
県民参加の森林づくり運動推進 (巨樹・古木見学会、クマノザクラ観察会) (A-77)	75
海・山連携植樹活動実施 (A-78)	75
滋賀県緑化推進会	
活動基盤整備・緑の少年団育成強化事業 (C-27)	76
京都モデルフォレスト協会	
京都モデルフォレスト運動連携強化事業 (A-79)	77
大阪みどりのトラスト協会	
府民参加の森づくり (A-80)	78
兵庫県緑化推進協会	
地域緑化イベント開催事業 (A-81)	79
ひょうご木材フェアの開催 (A-82)	79
緑の少年団活動支援事業 (C-28)	80
奈良県緑化推進協会	
森の文化活動事業 (A-83)	81
ボランティア緑化活動事業 (C-29)	81
和歌山県緑化推進会	
普及啓発事業 (A-84)	82
活動基盤の整備 (C-30)	82
鳥取県緑化推進委員会	
活動基盤整備事業「樹名板設置事業」(A-85)	83
活動基盤整備事業「木工工作キット配布事業」(A-86)	83

活動基盤整備事業「青少年・民間活動グループ育成事業」(C-31)	84
活動基盤整備事業「森林空間活用推進事業」(C-32)	84
島根県緑化推進委員会	
「森の誕生日」2025事業(A-87)	85
緑の少年団育成強化事業(C-33)	86
岡山県緑化推進協会	
第23回森林を考える岡山県民のつどい(A-88)	87
県産木材フェア開催事業(A-89)	87
第40回くらしき都市緑化フェア(A-90)	88
緑化普及推進事業(C-34)	89
広島県みどり推進機構	
「みどりの集い」開催事業(A-34)	90
木材利用に係る人材育成支援事業(A-92)	91
緑の少年団交流集会開催事業(C-34)	91
やまぐち農林振興公社	
森林体験学習支援事業(A-93)	92
都市と山村ふれあい交流促進事業(C-36)	92
記念の森造成事業(C-37)	93
徳島森林づくり推進機構	
企業の森づくり普及啓発イベント(C-38)	94
かかわ水と緑の財団	
緑化普及活動事業(A-94)	95
愛媛の森林基金	
木工作品製作キット配布事業(A-95)	96
愛媛の森林友の会育成及び現地研修会開催事業(A-96)	96
高知県森と緑の会	
森のようちえん推進事業(A-98)	97
高知県森林インストラクター養成講座(A-99)	97
森の魅力普及啓発事業(A-100)	98
福岡県水源の森基金	
森林ふれあい交流(A-101)	99
グリーンフェスティバル2025(A-102)	100
第34回世界子ども愛樹祭コンクール(A-103)	100
第12回もりもり広がる森林づくり(A-104)	101
花立山の里山保全作業(A-105)	101
里まちサイクルプロジェクト(A-106)	102
森を五感で感じよう(森林体験活動)(A-107)	103
さが緑の基金	
木になるフェス開催事業(A-108)	104
緑の探検学習会(C-40)	104
長崎県緑化推進協会	
森林のつどい事業(A-109)	105
緑の少年団活動活性化事業(C-41)	106
森のめぐみいきいき活用促進事業(C-42)	106
熊本県緑化推進委員会	
くまもと森づくり普及・啓発事業(A-110)	107
緑の少年団活動育成事業(C-43)	107
シンボル森林の活用促進事業(C-44)	108
シンボル森林の活用促進事業(C-44)	109

森林ネットおおいた

ふれあい森林教室 (A-111)	110
大分県農林水産祭林業部門 (木と暮らしのフェア) (A-112)	111
大分県みどりの少年団のつどい (A-113)	112
名木保全事業 (B-4)	112
森林ボランティアリーダー養成研修 (C-45)	113

宮崎県緑化推進機構

緑と花のふれあい推進事業 (A-114)	114
森林浴癒しの集い事業 (A-115)	114

かごしまみどりの基金

かごしまの緑・元気な森林体験事業 (A-116)	115
活力のある緑の少年団活動促進事業 (C-46)	115
森林ボランティア活動促進事業 (C-47)	116

沖縄県緑化推進委員会

令和6年度緑の育樹祭開催事業 (A-117)	117
学校環境特別事業	117

令和6年度「美遊の森」体験学習会（A-1）

1. 活動の概要

美唄市立中央小学校にて、子供達に木や森との関わりについて学習する体験学習会を実施した。体験学習会の内容は、防風林内の機能や役割についての講義と、林内の植物を使用したしおり作りを行い、自然に触れる体験を通して、森林の大切さや自然への理解を深めてもらい、子供達の豊かな心を育むことを目的とした活動。

2. 活動の成果

今回の学習会では、子供達が木育マイスターの講義を熱心に聞き入り、座学や林内植物を使用した創作活動を通じて木や森の役割を学ぶ機会を提供することができた。

3. 参加者の声

- ・様々な落ち葉を使って作成したしおりが上手にできて嬉しかった。
- ・今回は室内学習だったが、勉強したことをもとに林内を散策してみたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月4日	合計
事業量	体験学習活動の実施	
参加者数	53名	53名
実施場所	美唄市立中央小学校	

青少年育成事業（A-3）

1. 活動の概要

（緑の体験学習）

市内小学生を対象に、道民の森において緑の体験学習を実施した。

体験学習の内容は、森の緑について学び、自然にある木の枝や実を使っての工作活動や、自然の植物の仕組みを模した遊びを行う中で、植物を身近に感じ、自然に対する意識の向上を図ったもの。

（学校緑化）

地域の核ともいえる市内小・中学校の環境緑化を実施し、児童生徒が校庭林など、緑への理解と愛情を深めたもの。

（青空園芸教室）

市内小学生を対象に、北海道深川東高等学校において青空園芸教室を実施した。

園芸教室の内容は、高校生を講師として緑に関する知識を学び、自分で選んだ花苗と野菜苗で寄せ植えを作成し、緑への理解と愛情を深めたもの。

2. 活動の成果

（緑の体験学習）

体験学習を通して、森の緑と触れ合いながら、自然の仕組みや、人間と自然との正しい関係について理解を深め、自然に対する愛情とモラルの高揚となり、緑化思想の普及活動の一環となった。

（学校緑化）

校庭林等を植えて育てることによって、身近な緑を慈しむ心と自然の恵みに感謝する心を育て、これからの街づくりを担う子供たちへの緑化思想の普及となり、花と緑あふれる美しい環境づくりを推進できた。

（青空園芸教室）

今回の園芸教室を通して、花や野菜、木についての知識を身につけ、自ら植えて育てることによって、身近な緑を慈しむ心と自然の恵みに感謝する心を育て、これからの街づくりを担う子供たちへの緑化思想の普及となり、花と緑あふれる美しい環境づくりの推進に貢献した。

3. 参加者の声

（緑の体験学習）

参加者は、自然との触れ合いを楽しんでおり、自然との関わりの中楽しさを見つけて、緑への興味を深めたようであった。

（学校緑化）

校庭等の緑化を行う中で緑の大切さを学び、緑への関心を高めたようであった。

（青空園芸教室）

参加者は、緑の大切さを学び、緑の知識をより多く得たいと思ってくれたようであった。高校生との交流の中で、緑を育てる喜びを知り、緑の街づくりへの意欲を感じられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2024/8/2	5月～6月	6/6・10・11	合計
事業量	みどりの体験学習	学校緑化	青空園芸教室	
参加者数	35人	*	110人	145人
実施場所	道民の森 神居尻地区 森林学習センター	市内小中学校	北海道深川東 高等学校	

イベント家族きのご観察会（A-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

イベント家族きのご観察会、実施目的。

森林を大切にすることを心を持っていただきたく、キノコが発生する森林環境づくりのため、ゴミ拾いをしながらのキノコ観察。

また、秋の実りであるキノコを安心、安全に食していただきたいので、毒キノコによる食中毒防止の目的もある。

9月22日に札幌市民を対象に旭山記念公園と旭山都市環境林においてきのご観察会を実施した。

一般参加者と当団体の家族会員も含めて親子40名ほどが森林に入り、発生きのこを手に取り、楽しく学んだ。

森林内での観察終了後は中田洋子さんのアドバイザーと小林孝人先生によるきのこの生態解説・説明に参加者皆さんが熱心に耳を傾けていました。

2. 活動の成果

きのご観察会を通して、キノコをとりまく自然環境とキノコの形態と食・毒の見分け方などを学んだので、きのこを食しての中毒防止につながったと思います。

また、森林を育て守ることの大切さを知り、森づくりに参加していただくきっかけとなったと思われます。森づくりへの普及効果が考えられます。

3. 参加者の声

1. 沢山のきのこが発生していると思わなかった。来て良かった。
2. きのこの説明が分かりやすかった。
3. みんなと楽しかった。
4. 生のボルチーニ（ヤマドリタケ）とタマゴタケなどが見れて参加してよかった。
5. きのこはなかなか難しい、名前について無い不明種が多い、とのこと初めて知る。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月22日	合計
事業量	当日きのご採集、計85種 きのこの食毒などや森林の機能と併せた説明	
参加者数	45人	45人
実施場所	北海道札幌市旭山記念公園、旭山都市環境林	

森林ボランティア活動推進事業（A-5）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

令和6年度の活動は、①自動車燃料や貸切バス借上げ料の高騰による遠出の敬遠 ②猛暑による熱中症をおそれての山中歩行観察の回避などにより来園者が回復しない中、道民の森の指定管理者から要請のあった森の観察会、「キノコの日」、「親子でキャンプ」などの催事支援及び会員相互のスキルアップを図る研修事業を、感染防止を徹底して取り組んだ。また、来園者の回復を図るために道民の森内の活動エリアの拡大を目的に現地検討会を月形地区で開催した。

なお、学校観察会の参加者減により児童に配布していた「森の観察ガイド」に来園者減による想定外の在庫が生じた他、観察用資材も当面は在庫で対応可能なので印刷及び購入を見合わせることにし、その費用を研修事業に充てた。

2. 活動の成果

道民の森において「森の観察」及び小学校児童の森林環境学習時に森林の生き立ちとその大切さ、及び人と森との関わり合いについて解説し、理解を深めることができた。また、水源の森ではトドマツ、ミズナラ等の郷土樹種の植樹指導を実施し、森林整備の大切さを実感していただいた。

さらに、道民の森の各種催事に参加し、森と触れ合うことによるやすらぎと楽しさ、森が人に与えてくれる役割の大切さを感じてもらったための支援活動を実施した。

3. 参加者の声

森の観察会の参加者からは森林に立ち入ることにより、森の中での生物間の生き残るための闘い、弱肉強食と食物連鎖、子孫を残すための知恵比べ、共存共栄の様子を観察し、森林の懐の深さと大きさを再認識していただいた。樹木への愛情が育まれ、森林造成が地球温暖化の防止に役立つことを理解してもらったことができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年7月7日～令和7年6月22日	合計
事業量	森の観察会（野鳥観察会） 現地検討会（解説ポイントなどの検討）など	
参加者数	594人	594人
実施場所	道民の森神居尻・月形・一番川地区	

旭山希少種・保護 生物多様性保全事業（A-6）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

希少種が生息する樹林や水場を整備し、生き物の世代交代を助ける活動を行う。

オオムラサキ（蝶）やエゾサンショウウオ、エゾアカガエル、ニホンザリガニといった指標昆虫の保護を通じ生物多様性を守る活動を行う。

体験型自然観察会の主催や生き物調査を行う。

緑のサポーター活動として生き物ルールやモラルの浸透を図る。

啓発活動として生き物ルールの掲示や近隣小学校の自然体験学習（総合学習）の支援を行う。

森のフェスティバル参加により自然との触れ合い体験の場を創出。

2. 活動の成果

希少種保護：オオムラサキの幼虫のエサであるエゾエノキの更新に成功。園内に点在した植樹に幼虫を確認。緑の回廊計画が完成。

水辺の命の保護としてふしぎ池の池底の改良を継続的に実施。土砂の流入を防ぐことに成功。

体験型自然観察会・生き物調査：月1回定期的に体験型自然観察会を実施。準備日に生き物調査を行うなど年間を通じ計画的かつ効果的に継続し活動を実施。

旭山ウォーカーや緑のサポーター活動を通じ活動の輪が広がった。

園内看板の作成や緑のサポーター活動のしおりなど多くの人に活動内容を広報、浸透することができた。

自然体験の場を創出することができた。

継続した草の根運動が認められ報道や功労者表彰など評価を得た。

3. 参加者の声

生き物が観察できて嬉しい。次も参加したい。入隊希望。カエルやサンショウウオを初めて見た。池の底の泥はくさい、でもおもしろかった。ヤゴの種類をたしかめたい。今年も幼虫がいてよかった。コウモリをつかまえない。もっと遅くまで観察したい。とまりもやってほしい。貴重な体験をありがとうございました。次回も楽しみにしています。こどもよりも私の方が興奮していました。隊長と話してたのしかったです。木の切り方を教えてもらいました。中心の取り方がうまくてびっくりしました。みんなで作ったウインドチャイムが生き物ルールを飾っていて嬉しかったです。オオムラサキ（成虫・幼虫や蛹）を捕って行ってしまふ心無い人がいるのはとても残念です。見守り活動の効果があればいいですね。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～6月	7月6月	7.8.9.11. 2.4.5.6月	10月5日	2025/2/9	合計
事業量	森のたんけん隊	旭山ウォーカー	緑のサポーター	旭山ウォーカー 展示会	森のフェスティバル 他	
参加者数	326人	432人	120人	50人	50人	978人
実施場所	旭山記念公園と 周辺の都市環境林	旭山記念公園 小学校	旭山記念公園と 周辺の都市環境林	旭山記念公園 森の家	旭山記念公園	

旧豊平川河岸に原始の森を創る150年プロジェクト（A-8）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

札幌市・白幡山の自然林等より実生株を採取、育成し、バイオブロック工法で旧豊平川河岸に植樹し、原始の森を再生。この事業を『緑を守り育てる「緑の少年団」の設立、育成、指導等による次世代の育成』で実施。児童が主体的に地域の緑化と歴史を学ぶ機会とする取り組みを支援する（全区間10km、40000本の内）

2. 活動の成果

①『実生株を採取等』では、自然の生態より実生株を採取し、育成することの体験を通じ、現有の森林資源の存在の貴重さを体感 ②『緑を守り育てる指導等による次世代の育成』→『札幌市手稲区・富丘小学校』では、イラスト付きのカミネッコン植樹の目的、児童への植樹活動の取り組み意識の醸成の気運が生まれた。バイオブロック作成では児童に達成感が生まれ、将来の職業として林業を考える児童や、自宅の庭に植樹を希望する児童が現れた ③『バイオブロック工法植樹』→植樹地の土壌が旧河川作業での作業車両駐車地であるため、非常に困難であったが、やり終え、今後の植樹について真剣な討議がなされ、次年度への取り組みが協議されつつある。

3. 参加者の声

①新川保育園の子供達が楽しそうにポッド作りをしていた。②富岡小学校の子供達は植樹に興味を持ち、カミネッコン活動についての講演の後で沢山の質問をしてくれ嬉しかった。③次年度以降、龍谷高校のボランティア活動をしているクラブ（インターアクトクラブ）にも参加してもらい、次年度以降にお手伝いしてもらえればと思います。④ポッド作りだけでなく、定植も子供達と一緒にやりたい。⑤旧豊平川河岸での定植は地盤や雑草の問題があり、今後の進め方を考える必要があるのではと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2024/6月	2024/7月	2024/8月	2024/8月	2024/9月	合計
事業量	実生株・15本、 育成株260本搬送	植樹地下草刈	札幌市・新川保育 所バイオブロック 作成	札幌市・富丘小学 校バイオブロック 作成	植樹地下草刈、 クラブ内バイオブ ロック作成、 植樹地定植	
参加者数	4名	6名	40名	96名	60名	206名
実施場所	札幌市・白旗山、 長沼町・石田農園 等	札幌市・東雁来 旧豊平川植樹地	札幌市・ 新川保育所	札幌市・ 富丘小学校	会員施設、 札幌市・東雁来 旧豊平川植樹地	

森林学習とツリークライミング体験会（A-9）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

小学生等を対象に森林学習とツリークライミング（木登り）体験、焚火体験を実施しました。

森林学習では、森の魅力、楽しさ、注意すべきことなどを森の中で学習し、ウッドコーンを敷き詰めた森林の散策を楽しみました。その後の、木登り体験では高所から札幌市内を眺望し木登りの魅力を伝え楽しみました。

焚火体験では、森に落ちている枝や松ぼっくりを活用し、自然の恵みに感謝しながら、火を起こすという原始的な体験を通じて、環境への関心やアウトドアの楽しさを再認識してもらいました。森林学習と木登り体験及び焚火体験は年7回実施し合計102名の参加となりました。

2. 活動の成果

これらの体験で、森の豊かさや奥深さを味わい、豊かな自然や森の中で種々の生物が息づいている様子を五感で体感し、快適さを味わうことで、森林の存在がいかに重要か再認識し、なによりも楽しむ中で、森や自然を大切にすることを心がけることができた活動でした。

3. 参加者の声

「木登り体験は子供がとても喜んでいました。体験させられてよかったです。説明やサポートには感動しました」「木登りがとても良い体験になりました。森林学習も森の楽しさが伝わってきてよかったです」「子供は木登りがとても楽しかったそうです。焚火体験も自分で火をおこすことができ感動していました」「普段中々体験することができない木登りを体験でき、楽しかったです。ロープ一本で登っていきけるしぐみに驚いていました。」「木登り体験では待ち時間の間も飽きない工夫をしていただき、笑顔でたくさん遊んでいただいたり森の大切さのお話をいただきありがとうございます」「木登り体験は初めての体験で勉強になりました。森の学習も飽きないような工夫があり、ためになりました」「木登りは本格的で本人のチャレンジする気持ちが出てきてとてもよかったです」「木登り体験をさせていただき、自分の力で登るといった体験がとても楽しかったようでした」

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月20日	8月17日	8月25日	9月7日	9月21日	10月12日	6月15日	合計
事業量	森林学習とツリークライミング体験会							※
参加者数	10人	17人	15人	18人	15人	13人	14人	102人
実施場所	札幌アスレチックパーク（札幌市豊平区西岡）							※

「羊蹄里山の森」における森づくり・森林空間利用事業（A-10）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

持続可能な森林経営に向け新たな森林利用の方法を検討・実施し、その普及を図りながら森林の公益的機能が発揮できるように努めることを目的とし、京極町字錦にある「ようてい木育倶楽部所有林」において、次のことを実施した。

1 森カフェ&コンサート

1 森林散策&木こり体験

森林散策をしながら樹名板を設置し、さらに木を切る体験も行う

また、普段は目にすることのない高所伐採を見学

2 削り馬など使いながら木工体験

切った木を使って木工体験を実施

3 森で奏でよう！

森カフェ：シラカバ樹液の飲み物を提供

森のコンサート：手作り楽器で皆さんに素敵な音色を届けます

2 森カフェビフォーアフター事業

森カフェ事業を一過性のものにならないため、森カフェ参加者等に呼びかけをし、森林整備体験&樹液採取体験や木育体験等を実施した。

2. 活動の成果

昨年、一昨年と実施した森カフェ事業ですが、今年度は地元後志管内からの参加者に加えて、木育を学ぶ大学生の参加もあり、より幅広い方々に木や森のを知ってもらいさらに発展できる可能性を実感しました。また、森カフェビフォーアフター事業においても、森カフェ参加者等に森林整備体験を行ってもらうなど森と人が近づいて来た実感することが出来ました。

様々なメニューを提供した結果、私有林においても木材生産だけが森林の利用方法でないことは参加された皆さんに理解していただいたと思います。

また、専門誌ですが、民有林新聞にも取り上げていただきました。

さらに、北星学園大学のホームページにも掲載されております。<https://www.hokusei.ac.jp/news/212037/>

3. 参加者の声

- ・現存している貴重な自然を守り、育んでいく活動の必要性を身をもって体感できました
- ・ノーズフルートと大和ハープの音色が森林と合っていて綺麗でとても落ち着いた
- ・森の中を歩くだけでなく、木や葉、森に住む動物についてのお話もしてくださって、興味深かったです
- ・高所伐採のデモンストレーションも見学させていただき、木を切ることは悪いことばかりではなく、森林を守ることもつながるのだということを考えさせられました
- ・風の音や揺れる木々の音、鳥の鳴き声がとても心地よかったです。今回このイベントに参加できて本当に良かったです

実績報告とりまとめ表

実施時期	8/1～8/25	2025/9/8	9/27～11/16	4/27～5/4	6/28	合計
事業量	所有林整備 木育事業	森カフェ& コンサート	所有林整備 木育事業	シラカバ樹液 採取体験	シラカバ樹皮 採取体験	
参加者数	16名	59名	7名	19名	3名	104名
実施場所	ようてい木育 倶楽部所有林	ようてい木育 倶楽部所有林	ようてい木育 倶楽部所有林	ようてい木育 倶楽部所有林	ようてい木育 倶楽部所有林	

原始の森を再生する150年プロジェクト（A-11）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

野幌森林公園の自然林より実生株を採取、育成し、バイオブロック工法で江別市榎本公園に植樹し、原始の森を再生。この事業を『緑を守り育てる「緑の少年団」の設立、育成、指導等による次世代の育成』で実施。児童が主体的に地域の緑化と歴史を学ぶ機会とする取り組みを支援する準備中です。

2. 活動の成果

①『実生株を採取』では、自然の生態より実生株を採取し、育成することの体験を通じ、現有の森林資源の存在の貴重さを体感 ②『緑を守り育てる指導等による次世代の育成』→『江別市第一小学校』には、イラスト付きのカミネッコ植樹の目的を次年度への取り組みが協議されつつある。

3. 参加者の声

①実生株採取が初めての経験なのでとても楽しかった。②苗木の名前が分からず森づくりの会のメンバーに聞きながら採取しました。③実生株採取で肌が荒れてしまったメンバーがいました。④下草刈りで植樹した株を切ってしまった事もあった。⑤5年前に植樹した木が150cm位に伸びて凄くてこれからの楽しみ。⑥これからの150年が楽しみだね。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2024/6月	2024/7月	2024/9月	2024/9月	2024/10月	合計
事業量	実生株・100本採取 ビニールポットへ移植	植樹地下草刈	ビニールポットから バイオブロックに移植	植樹地下草刈り	バイオブロックを 植樹地定植	
参加者数	16名	1名	15名	1名	16名	49名
実施場所	野幌森林公園→ 安孫子邸	江別榎本公園	安孫子邸	江別榎本公園	安孫子邸→ 榎本公園	

松恵小学校緑の少年団育成事業（A-12）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本校は特色ある学習活動の取組として、北海道の恵まれた自然環境の中で緑の大切さを学ぶ学習を行っている。今年度は5年生の宿泊学習での野外活動と、全校縦割り班で緑のフィールドワークという野外活動を行った。宿泊学習では行事名を「林間宿泊学習」とし、登別市ネイチャーセンターふおれすと鉾山にて、リポートレッキングと森林の働きについて学ぶ活動を行った。緑のフィールドワークでは、恵庭市盤尻地区にある緑のふるさと森林公園にて支笏ガイドハウスかの方を講師に招き、森の観察を中心としたネイチャーゲームを行った。

2. 活動の成果

5年生の林間宿泊学習ではリポートレッキングにて、自然に親しみながら流れる水の働きと、地学的見地から北海道の自然について学んだ。また、施設職員を講師に、樹木の炭素量を調べる活動や土をつくる活動を通して、地球温暖化やエネルギー循環の観点から森林の働きについての学びを深めた。

全校縦割りで緑のフィールドワークでは、森で見つけた植物を教材とした野外活動を行い、自然の不思議に気づきながら森林について学ぶことができた。残念ながら活動中に雨脚が強まり、短縮日程となってしまったが、今後は数年越しで段階的に学びを深める活動としていきたい。

3. 参加者の声

- ・森の栄養を川が運んで、海が豊かになることを教えてもらって良かった。
- ・森を大切にするというのは、木を切らないという事だと思っていたけど、古くなった木は切り、新しい木を植えていくことで、森の働きが維持されることを知って驚いた。
- ・カナヘビがたくさんいて驚いた。身近に生き物がいる事を知った。
- ・緑のピンゴゲームで、色々な形の葉っぱや種が見つかった。森には色々な種類の植物があることに気づいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月	7月	7月	合計
事業名	緑の羽根募金	林間宿泊学習	緑のフィールドワーク	
参加者数	34名	18名	101名	153名
実施場所	道と川の駅 花ロードえにわ	登別市ネイチャー センター ふおれすと鉾山	恵庭溪谷（恵庭市盤尻 緑のふるさと森林公園）	

羊を使った森作り事業（A-13）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本事業では、幼稚園の園児たちに、羊とのふれあいを通じて森林がもたらす自然の恵みや、命の循環を学ぶ新しい体験を提供しました。この幼稚園では、これまでも自然体験プログラムを母親主催で毎年行われていましたが、今年度はさらに動物を通じて自然を身近に感じられる取り組みとして、羊を使ったプログラムを企画しました。

事業実施に向けて、活動担当者は事前に羊の飼育に関する研修に参加し、動物を扱う責任や飼育方法について学びました。また、子どもたちの安全を第一に考え、幼稚園敷地内で羊が過ごすのに適した場所を検討し、先生方と協力して環境整備を行いました。羊は5月末から飼育を開始し、朝晩の餌やりや水やりなど、定期的なケアをしながら羊が健康に過ごせるよう努めました。プログラム当日には、羊にまつわる絵本の読み聞かせを行い、羊の鳴き声が聞こえる広場に子どもたちを案内して実際に羊とふれあう機会を提供しました。

プログラムの中では、羊の食べ物や行動を観察し、草や木の葉が羊の栄養源になること、羊の糞が土壌に還元されることで自然の循環が生まれることについて話をしました。子どもたちは羊のために葉を集めたり、餌をあげたりしながら、普段何気なく見ている木や植物が動物にとって大切な存在であることに気づき、命のつながりを身近に感じる経験を得ることができました。その後10月、1月にも同じフィールドで子どもたちに季節の変化を感じることで自然遊びや体験を提供し幼稚園の豊かな自然の恵みの中で体を動かし五感で感じる充実した時間となりました。

2. 活動の成果

この活動を通じて、園児たちは自然や命の大切さについて理解を深め、日々の生活で意識する機会が増えました。羊とのふれあいを通じて、「草が栄養となり、命を育むこと」「動物の世話には責任があること」を体験的に学ぶことができました。また、羊が普段食べている草を探したり、餌をあげる際の小さな喜びや発見があり、動物との触れ合いの中で命が育まれる過程や土壌に還元される循環を自然に学ぶ機会となりました。

さらに、秋、冬には同じ広場で再度プログラムを実施し、夏の鮮やかな緑から秋の紅葉へと変化する葉の色を観察しました。羊が食べていた植物が枯れ、季節の移ろいによって自然が変化していく様子を目の当たりにし、四季の存在をより深く理解できる時間となりました。春から秋にかけて異なる森林を含めた自然の姿を感じることで、日常生活における季節の変化や自然の大切さについて強く印象付けられ、動物を通じて自然の豊かさ美しさを学び感動一層深まったと感じています。

3. 参加者の声

- ・羊は「かわいかった、触ってみて温かかった」「食べられちゃうなんて悲しい」
- ・山ぶどうは「山ぶどうの実は種が入っていてオエーッってしたけど、ジャムはめっちゃ美味しかった！」
- ・室蘭民放にて体験活動が掲載されました

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月9日	7月31日	10月8日	1月28日	合計
事業量	niti	羊飼育に関する講習会	幼稚園での体験プログラム	幼稚園での体験プログラム	
参加者数	40名	20名	40名	40名	140名
実施場所	室蘭市文化学園大学附属幼稚園	室蘭市天神町	室蘭市文化学園大学附属幼稚園	室蘭市文化学園大学附属幼稚園	

木になるフェスティバル (A-14)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 1) 木材を用いる6種類*の工作・実験を実施した。
 - *: ①浮いてる? 不思議なオブジェを作ってみよう、②小鳥の鳴き声がするバードコールを作ろう!
 - ③木のしおり作り、④小物入れを作ろう! ~お母さんも喜ぶ!~
 - ⑤北森カレッジの木の校舎で木のコースターを作ってみよう!
 - ⑥積み木の街
- 2) 木になるフェスティバルの延長として「夏休み木工体験」を、8月10日~31日、実施した。木工体験は「積み木の街」とした。
- 3) 「積み木の街」の実施会場には下記のようなパネルを展示し、森林認証に関するPRも行った。「森林認証制度とは」「身近な森林認証製品」「上川地域の森林認証への取組」など
- 4) 「積み木の街」の概要は、ウッドイエジ2024年9月号に掲載し、広く公開した。

2. 活動の成果

参加者アンケートには、「3. 参加者の声」に示す感想が記載されている。参加した子供も大人も、木工のおもしろさを実感し、木材に対する親しみを深めたことが推察される。このような機会を積み重ねていくことで、森林の適正な活用への理解、道産木材の利用推進が期待される。

3. 参加者の声

<参加した子供たちから>

- ・木のことを知れたり触れたりできて楽しかった
- ・いろいろな人が優しくしてくれて嬉しかったのと、初めてやったことがいっぱいあって楽しかった
- ・いろいろな体験ができてよかったと思ったので、また開いてほしいと思いました
- ・暑くても元気にできました

<大人から>

- ・木に触れ合うことがなかなか無いのですごく良かった
- ・とても楽しくて子ども達がニコニコしていた。将来の進路の一つとして経験できてよかった
- ・優しく教えて頂けて、子ども達も楽しく体験できた

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月20日	8月10日~31日	合計
事業量	木になるフェスティバル	夏休み木工体験	
参加者数	100名	40名	140名
実施場所	木と暮らしの情報館、林産試験場構内	木と暮らしの情報館	

普及啓発事業「森林(もり)の市(いち)」(A-15)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

私たちの日常生活と深い関わりを持つ森林から生産される木材の良さを広く市民に理解を深めたく、関係団体・木育マイスターと共に「木に触れ、木と遊びながら木の持つ優しさ・暖かさが実感できる参加型・体験型のイベント、道産材・間伐材の使用・紹介・パネル展示、木材・木製品等の展示・販売等」を通じて、森林や木の持つ素晴らしさ及び利用への理解を促し、併せて森林の持つ多面的機能及び地球温暖化対策の理解、さらに林業・林産業の振興を目指し開催した。

2. 活動の成果

現在・未来の世代のため、全てのタイプの森林の持続可能な森林経営、保全、開発を強化することについて、あらゆるレベルでの認識を高めるよう努力すべきとされている。

子供から大人まで市民の方に環境エネルギー資源の問題解決に木材が中核的な役割を果たすことを期待し暮らしに直結する身近な生活の中に木を取り入れてこそ癒されると、木材・木製品等の展示・販売、そして木工体験を通し関心を持っていただけた。

また、ポスターを各所へ掲示、チラシの配布、ホームページに掲載、ネット配信、タウン情報紙掲載等、広くPRに努めた結果、参加体験者が増えたことは森林・林業の重要性についての普及啓発の一翼を担ったと思う。さらに木育マイスターの普及宣伝にも効果があったと思われる。

今後も、森林・林業の普及啓発活動を展開していきたいと考えている。

3. 参加者の声

- ①アートボードづくりをしました。色々な材料を使う事ができて楽しかったです。
- ②木組のコースターを親子でつくりました。家でたくさん使おうと思います。
- ③丸太切り大会に参加し、優勝できなかったので来年も参加して優勝を目指します。
- ④木工品を買いました。毎年木工品を買うのを楽しみにしています。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月28日	合計
事業量	「森林(もり)の市(いち)」開催 (170万円)	
参加者数	800名	800名
実施場所	旭川林業会館構内	

東川町キトウシの森ボランティアリーダー育成事業（A-16）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本活動は、東川町キトウシ森林公園において月1回の定期的な森づくり活動を実施し、その活動を担うボランティアリーダーを育成することを目的としています。具体的には、下草刈り、間伐、作業道の整備、活動拠点の整備、枯損木の搬出、薪づくりなどの現場作業を通じて、「安全管理」「生態系に関する知識」「参加者のマネジメント」などの技能・知識を習得します。

2. 活動の成果

1. 森林整備を継続的に行う体制の構築

森づくりに取り組むボランティア人材を確保し、定期的に活動できる体制を整えました。また、新たな人材を呼び込む魅力的な活動拠点として、ウッドデッキや薪棚などの施設整備を行いました。

2. 多様な参加者

地元小学校のPTA、日本語学校に通う留学生、町の健康福祉事業に参加する高齢者など、幅広い層の参加がありました。地域の多様なネットワークを活用し、さまざまな人々に森づくり活動を経験していただくことができました。

3. 活動の広がりや継続的な関わりへの促進

今回の参加者には、大雪山国立公園の保全活動や近隣市町村での森林整備など、他の活動に参画する動きも見られました。本事業は、地域内での環境活動への広がりや、市民参加を促す契機となりました。

3. 参加者の声

- ・安全を第一に作業を進める大切さを学んだ。
- ・森づくりとは一般的な林業作業だけではなく、多様な人が森に関われる場づくりであることを実感した。
- ・自分が作業をするだけでなく、いかに多様な人が無理なく森で過ごせるか、各自で仕事を見つけることができるか、そのコーディネートが重要であることがわかった。
- ・自然について詳しくなった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7,8,9月 計3回	10,11月 計2回	1,2,3月 計3回	4,5,6月 計4回	合計
事業量	散策路整備、草刈り、薪割り、焚き火	散策路整備、搬出、薪割り、焚き火	樹木調査、薪割り、雪かき、焚き火	散策路整備、薪割り、ウッドデッキ整備等	
参加者数	31名	40名	18名	33名	122名
実施場所	キトウシ 森林公園	キトウシ 森林公園	キトウシ 森林公園	キトウシ 森林公園	

日曜大工事業（A-17）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

日曜大工を通じて地域材（カラマツ材）を活用したことで、森林や材料に対する関心を深めるとともに、家族や地域・グループ等のコミュニケーション形成の場の提供を目的とする。

当地区内の一般家庭（子育て世帯等）に対し、新聞にチラシ折り込みにて周知し募集を募る。多数の場合は抽選し、対象者を決める。当日はてっぽう虫の会会員の敷地内にて日曜大工を行う。

2. 活動の成果

8月4日に開催し、9組・21名の参加となった。親子での参加やシルバー世代等幅広く参加してもらい、家族間及び世帯間でのコミュニケーションが取れた。また、地域材を使った製品として説明し、作成過程や完成品の保存方法等を説明する事で、材木に対する興味・関心を持った。

3. 参加者の声

- ・夫婦で参加したがとても楽しかった。トランスフォーマーベンチを作成したのですが、スタッフが親切に教えてくれ、無事完成した。ガーデニングが趣味なのでお花など飾りたいです。
- ・親子4人で参加しました。中学生がいるので基本子供たちに任せ、出来ないところだけ手伝いました。途中で投げ出さないかなと心配しておりましたが、無事完成しました。家族で日曜大工をやる機会はほとんどないので、とても有意義な時間となりました。
- ・一人で参加しました。隣の人と一緒に進めて解らないところはスタッフさんに聞きました。無事完成し、お庭まで運んでくれました。とても楽しい時間でした。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月4日	合計
参加者数	21名	21名
実施場所	美瑛町森林組合	

生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業（A-18）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

ボランティア活動による森林づくりを通じて、森林に対する理解を深め、その仲間の輪を広げることを目的として活動しています。

具体的には、森林管理署との「ふれあいの森」協定に基づく活動、遊歩道等の整備、森林散策会などを行っています。

また、常呂川森林ふれあい推進センター等が行っている針広混交林をめざす自然再生事業等への参加・森林教室等での協力活動を行っています。

2. 活動の成果

ボランティア活動を通じて、森林・林業、自然、環境等に関心が高まり、知識が深まるとともに積極的な一般市民への働きかけ（啓蒙・普及）が行われるようになっていきます。

また、高齢化による退会者が出る中で森林散策会等を通じて新規入会者を確保でき、ほぼ同数の会員数を維持できました。

3. 参加者の声

- ・自然を楽しむ機会を与えていただいたことに感謝（森林散策会）
- ・スノーシューを初体験、楽しい！（冬の自然観察会）
- ・今まで知らなかったことを知ることができた。自然は驚きがいっぱい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7～10月	7・10・2月	7月	10月	9月	合計
事業量	森づくり活動3回	森林散策会2回 事前勉強会3回	こども探検隊	炭づくり体験	パネル展	
参加者数	30名	80名	29名（含スタッフ）	19名	226名（来場者）	384名
実施場所	オホーツクの森	オホーツクの森 白湯山 ノンの森	オホーツクの森	オホーツクの森	北見市緑のセンター	

森林及び木製遊具体験事業（A-19）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林を散策することで、森林の役割・大切さを知ってもらい、参加者の木への関心を高めるとともに、木製遊具を外で遊ぶ体験をしてもらうことにより、木材の利用拡大を身近なところから推進していく。

- ・森林散策（森林のお話と森の端材集め）
- ・育樹活動
- ・木工体験事業
- ・木製ボーリング
- ・つべつ町ノンの森散策

2. 活動の成果

日時 令和5年9月22日（日）津別町・ノンの森

参加人数18名、森林散策、森林の説明、クイズ等を行い森の仕組みを理解することができた。また、専門家からの育樹体験を行い樹木の役割を理解することができた。地域材で製作した「木製ボーリング」により木材の利用拡大を理解することができた。津別町ノンの森にて森林散策を行い、木工体験をおこなうことができた。

3. 参加者の声

とても楽しく森の仕組みがわかることができた。

ノンの森を歩いて、森の大切さが分かった

木製ボーリングが楽しかった

ノンの森が癒された

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月22日	合計
参加者数	18名	11名
実施場所	津別町	

動物の力を活かした森づくり事業（A-20）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

○馬、羊の放牧による「耕蹄法」の考え方をういた森林整備

人間が重機や草刈り機で下草刈りをするのではなく、地表面を覆う（クマザサ、フキ、イタドリ、よもぎ）など多様なグラウンドカバーとなる植物を馬・羊が食べ、フンをし、生物多様性を増す森林管理を実施する。実際に、在来の植物が芽吹き、野鳥も増えているためこの手法で継続していきたい。

○動物のお世話をはじめとした活動を地域の子どもたちと行い、動物を通して森を身近に感じる体験活動を行う

地元の小学生（川北小学校）や子ども園（認定こども園にじろ）の児童が体験に訪れ、森の管理（動物とのふれあい・お世話・遊び体験・木育体験）を一緒に行う。

・「放課後ちいきあそび」という川北小学校のPTA活動・クラブ活動にフィールド提供を行い地学共同で森づくりを進めていく。

2. 活動の成果

馬や羊を電気牧柵を用いた放牧区域に定期的に位置を移動させながら放牧していった。森のスタートとも言えるシラカバやヤナギの若木をはじめとした小さな樹木をはじめ、フキやイタドリといった下草もきれいに食べてくれたため、放牧区域は動物たちの力で除草され、子どもたちが活動しやすい空間づくりにも効果を発揮した。また、身近な森に動物たちがいることで「森遊びは楽しい」「動物たちとまた会いたい」と森林への興味関心を育むとともに、学校の探究学習とも連動させて学びを深める姿を創出することができた。学習の成果を「まちづくりプロジェクト」として地域に公開し、ネイチャーガイドの扮する子どもたちが学びを地域に発信する姿も見られた。

3. 参加者の声

- ・毎回ちいきあそびに行くごとに新発見の祭りだった。（6年男子）
- ・この町は何もなく自然しかないと思っていたが、葉を使ってお茶を作ったり、木を使って箸をつくったり、悪いと思っていたことも良いことに感じてみると新しいことに気づいた。
- ・これからもこの町の良さに気づけるようにしたいと思った。（6年男子）
- ・初めて羊の毛を刈るのを見て、こんなふうに刈るんだーと思った。（4年生女子）
- ・羊の毛を刈るのはかわいそうと思ったけれどかわいい石鹸が作れた。（4年生女子）
- ・あそびでいっぱい疑問が出てきて、あそびってこんなに学べるんだなーと心に残った。（4年生男子）
- ・ちいきあそびで、馬、火、雪、森など川北の自然のことがさらにわかったし、結局はすべて自然から生まれているということがわかりました。（6年生女子）

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月16日	5月29日	7月18日	9月27日	2月7日	合計
事業内容	動物とのふれあい・お世話・遊び体験・木育体験活動の実施					
参加者数	32名	19名	16名	32名	17名	116名
実施場所	川北きつつきの森	川北きつつきの森	川北きつつきの森	川北きつつきの森	川北小学校	

北海道木育フェスタ推進事業（A-21）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林づくりを初めとする緑化活動を道民全体で支えていくという意識の醸成を図るため、普及啓発誌の作成・配布、キックオフイベントや北海道植樹祭の開催など普及啓発事業を総合的に展開する。

2. 活動の成果

○イベントの実施

・緑の募金出発式、北海道植樹祭、森カフェ&コンサート

○普及啓発の取り組み

・ワークショップ用布（緑の募金マーク入り）、募金者へのノベルティー（木製のしまえなが、木の家、木のチャーム）、子供たちに林業の仕組みを楽しく教える「森のボードゲーム」、募金を活用した苗木を植樹

上記の取り組みを行い、緑の募金の使い道、さらには森林の大切さや二酸化炭素排出抑制などの意識啓発が出来た。

3. 参加者の声

- ・緑の募金を初めてしたが、募金の仕組みや募金の使いみちを理解できた。
- ・緑の募金を行うことの大切さがわかった。
- ・募金して「しまえなが」などの木で出来たノベルティーをもらったが、木を使うことも二酸化炭素を削減できるということがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R6.9.8	R6.10.5	R7.4.26	R6.5.11	合計
事業量	「森カフェ&コンサート」	道民森づくりの集い	北海道木育フェスタ開会式及び緑の募金出発式	第75回北海道植樹祭	
参加者数	20人	995人	260人	80人	1,355人
実施場所	京極町 もぐもぐの森	札幌市 さっぽろさとらんど	札幌市 道庁	函館市 道立道南四季の杜公園	

木育ひろばinチ・カ・ホ (A-22)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

会場では、「クリスマス」をキーワードに、各団体の活動紹介や木工ワークショップ、「ガチャ」による緑の募金活動のブースを設置するなど、木育マイスターや企業等の多様な主体と連携した木育活動を展開したところ。また、このイベント開催にあたり2024ミス日本「みどりの大使」安藤きりさんをお招きし、イベントのPR活動のため関係団体等を表敬訪問したほか、イベント開催時には「緑の募金」コーナーでの普及・啓発活動などにより、イベントを盛り上げていただいた。

2. 活動の成果

普段は森や木にふれる事の少ない都市の子どもたちに、木とふれあう事の出来る機会を提供することにより、木の暖かみや柔らかさを実感していただくとともに、森の働きなどの理解を促進できた。

さらに、様々なワークショップを実施するため、道内各地で活動している木育マイスターが、講師として集まってきた事により、それぞれの地域や活動状況などの情報交換も進められ、今後の活動の糧となった。

また、昨年に引き続き「ガチャ」による募金活動を行ったが、ガチャの中に、クリスマスにちなんだ木で作った「ツリー」や「ベル」をはじめとしたノベルティーを入れたところ、子供の好奇心をつかみ多くの方に募金を頂いたことから、「ガチャ」による活動は効果があったものとする。加えて、募金者に配布した「花のタネ」が果たしおりは、誰一人「いらない」という方はおらず、今後、緑の募金の配布アイテムになるものとする。

3. 参加者の声

- ・このイベントを体験し「木育」ということばを初めて知った。すごく良い取組。
- ・自宅の周りには木が無く触れる機会が少ないので、とても貴重な経験ができて良かった。
- ・「ガチャ」に入っていたツリーに色を塗って家のクリスマスツリーに飾りたい。
- ・子どもたちが木に親しむ姿が真剣そのもの。森の大切さを少しでも分かったと思う。(保護者)
- ・この募金はどのように役立てられているのかの話を知りたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	1月21日	1月22日	合計
事業量	活動紹介パネル展示、PR動画の放映等		
参加者数	2,001人	2,127人	4,128人
実施場所	札幌駅前通地下歩行空間北3条交差点広場(西)		

森林環境教育推進事業（A-23）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

札幌市立幌南小学校、札幌市立藤の沢小学校、江別市立野幌小学校、江別市立上江別小学校、江別市立文京台小学校の5校から森林環境教育（総合学習）の要請を受け、総合学習の支援として実施するもの。

（5校中の藤の沢小学校・野幌小学校は緑の少年団活動に取り組んでいる。）

2. 活動の成果

各校共通して、生徒が自然（樹木・植物、小鳥、昆虫など）に、直接目で見て、手で触れて、香りを嗅ぐなど五感を通してその不思議さや多様性に感動し、体験することを目的とする。この目的の達成に向けて、活動日に散策するフィールドの樹木や動植物を事前に調査し、これらを踏まえてガイド用及び生徒用の配布資料を作成し、森林環境教育推進事業を実施した。

3. 参加者の声

- ・外は暑かったけど、森の中は涼しく良い香りもして気持ちよかった。森が好きになりました。
- ・森の役割（いい空気や水の供給など）を教えてもらいましたが、すごいと思ったので森のことをもっと知りたいです。
- ・熊も餌がなくなると町に出てくるけど、殺さないようにする方法を考えてほしいです。

実績報告とりまとめ表

令和6年9月・10月実施

市町村	学校名	事業量	環境教育実施場所	事前調査（下見）	開催日	参加者数
江別市	文京台小学校	総合学習支援	文京台小学校周辺	令和6年9月7日	令和6年9月10日	55人
江別市	野幌小学校	総合学習支援	野幌森林公園	令和6年10月2日	令和6年10月8日	83人
江別市	上江別小学校	総合学習支援				
札幌市	藤の沢小学校	総合学習支援	藤の沢小学校林	令和6年10月23日	令和6年10月29日	33人
札幌市	幌南小学校	総合学習支援	幌南小体育館、事前調査は、森林にて木の葉収集を実施	令和6年10月27日	令和6年10月30日	99人
合計						270人

令和7年5月～6月実施

市町村	学校名	事業量	環境教育実施場所	事前調査（下見）	開催日	参加者
江別市	野幌小学校	総合学習支援	野幌森林公園	令和7年5月9日	令和7年5月13日	90人
江別市	文京台小学校					
江別市	上江別小学校	総合学習支援	野幌森林公園	令和7年6月1日	令和7年6月10日	101人
札幌市	幌南小学校					
札幌市	藤の沢小学校	総合学習支援	藤の沢小学校林	令和7年6月8日	令和7年6月12日	35人
合計						226人

次世代に引き継ぐ森林づくり事業（A-24）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・池田町において、町内等の森林管理関係者と森づくりに関する勉強会を開催し、地域住民と協働するモニタリング手法について理解を深め、生物多様性保全に向けた取組の普及啓発を図った。
- ・音更町において、地域住民（児童・生徒・親子）を対象に木工教室を開催し、森林・林業、木材利用に関する体験活動を実施した。
- ・置戸町において、地元中学生を対象とした植樹作業・森林作業現場体験学習を開催し、森林づくりの体験活動を開催し、森林整備や木材利用の周知を図った。
- ・新ひだか町・浦河町において日高産広葉樹の原板を天板とする木製テーブルを製作するワークショップを開催し、様々な場で披露（展示）することで、日高産広葉樹の有効活用事例として紹介した。
- ・足寄町において、林地未利用材を活用したツリーイルミネーション、ウッドキャンドルで「小さな森」を演出し、森林整備・木材利用について普及啓発を行った。

2. 活動の成果

- ・現地検討会では自然共生サイト申請地（町有林）にて地域住民とともにモニタリング手法について理解を深めたことにより、生物多様性保全に向けた活動への機運が醸成された。
- ・木工教室を通じて、地域の木材に触れ親しむことで、森林・林業、木材利用について、理解促進を図ることができた。
- ・児童・生徒等が体験学習を通じて、森林の働きや森林づくりの方法等を学び、森林への関心を持つとともに森林の大切さや森林整備の重要性を理解してもらうことができた。
- ・地域材を使用したワークショップ実施により、地域住民（子供等を含む）への地域材利用の普及・定着が図られた。また、地域展示、林産技術セミナーでの展示することで、地域住民に日高産木材の魅力PRが図られた。
- ・ウッドキャンドルナイトを通じて、地域の基幹産業である林業や森林について理解してもらい、自然環境の重要性を身近に感じてもらうことができた。

3. 参加者の声

- ・「講演に加え実際に現地も見たことにより、生物多様性保全に対する理解が深まった。」
- ・丸太切り、薪割りのよい体験を子供にさせることが出来た。（保護者）
- ・植樹作業で、「思ったより大変だった。気候変動など環境保全への思いにつながった。」
- ・「日高産の広葉樹材の使われ方が理解できた、こういう活動はいいことだね。」
- ・「林地残材の有効利用の理解できた。木のぬくもりが感じられ、癒やされた。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月8日	7月9日	8月4日	11月11日	11月11日	合計
事業量	森林づくり勉強会	森林づくり勉強会	木工教室（薪割り・丸太切り体験）	植樹体験植栽面積0.67ha	（地域材を使用したテーブル制作）	
参加者数	25人	16人	28人	45人	7人	121人
実施場所	池田町（社会福祉センター会議室）	池田町（大森地区町有林現地）	音更町（十勝エコロジーパーク）	置戸町字置戸9林班87小班	新ひだか町（ふれあい生活館）	

野付湾の流域河川の河畔林づくり事業（B-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

野付湾に流入する主な4河川（当幌川・茶志骨川・飛雁川・春別川）の河畔林を健全に育成する目的で、2022/2023年度に引き続き2024年度も当幌川水系の河畔林に植樹を行った。

その植樹活動は、野付湾を主とする野付漁業協同組合と当幌川沿いの酪農家を管理する計根別農業協同組合、その2団体を繋ぐ役割の特定非営利活動法人野付・エコ・ネットワークの三者による協働事業として3年連続で河畔林育成の為に植樹活動を行うことが出来たのは、野付湾とその流域の「森林保全活動の啓発」と「自然環境保全への意識向上」に大きく寄与することができたと考えている。

また、野付湾に流入する4河川（茶志骨川・当幌川・飛雁川・春別川）の河口部で8月から11月まで水質検査も3年間実施しているが、野付湾の水質のモニタリング調査として大きな実績となったと考えている。

2. 活動の成果

今年度は、野付湾に流入する4河川のうちの当幌川水系に植樹を実施した。その植樹の成果には以下のものがあると考えています。

- ①最終的な流入先である野付湾を主な生産活動の場として活動している野付漁協と上流・中流域を主な生産活動の場として活動している計根別農協という二大基幹産業とが連携して森づくりを行うことで自然環境保全に関する活動を協働して行うことができたのは大変価値がある。
- ②漁業協同組合と農業協同組合とのつなぎ役として、地域の環境保全を推進する目的で設立された特定非営利活動法人がその役割を果たせたのは、今後の環境保全活動の活性化に繋がる活動となった。
- ③今回の植樹を行った当幌川水系の河畔林は、単年度の植樹活動ではなく3年間の継続した森づくりを計画的に進めること出来、地域住民に植樹活動によって森づくりの大切さを啓発できる場となったに考える。
- ④植樹活動と合わせて今回実施した水質調査で、野付湾に流入する4河川のデータをもとに、重点的に河畔林の植樹活動に取り組むべき河川を明らかにできた。

3. 参加者の声

- * 3年続けて植樹活動を行うことができとても良かった。
- * 以前植えた苗木が枯れていなかったので安心した。
- * 漁業者として、農協と協働で植樹活動ができるのは大きな成果だと思う。漁業資源の減少が心配される中、漁業者自らも環境保全につながる活動を大事にしていきたい。
- * 水産業と酪農であるが、この二つの産業は密接に関わっているので、今回のようにお互いが協力して植樹することは大変意義が高いことだと思う。
- * 国内最大級のアマモ場である野付湾を守ることは、上流に広がる国内有数の酪農地帯の各河川の水質を良くすることが大切。河畔林の植樹を行うことは水質浄化にも大きく役立つと思う。
- * 過去に植えた樹が大きくなって森になってくれたら良いと思う。
- * 漁業者と農業者、一般市民が協力して植樹活動を行うのはとても良い活動だった。
- * 植える場所がいくつもあるので、今後も続けてやった方が良いと思います。
- * 今後はシマフクロウの生息している河川の植樹もできたら良いと思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月24日	8～12月	合計
事業量	植樹活動80本 (ヤチダモポット苗) 80平方メートル	水質検査 32回	植樹80本 水質検査32回
参加者数	17人	調査員 のべ64人	参加者 のべ81人
実施場所	中標津町 計根別地区の当幌川水系	標津町 別海町	標津町・別海町・中標津町

馬追自然の森整備事業（C-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

長沼馬追山自然の森環境保護整備と自然愛護精神の高揚。

自然の森遊歩道の笹や草刈り作業、又、清掃作業と風倒木の処理及び登山口（6か所）の粗大ゴミ清掃処理、教育委員会主催「生涯学習」登山事業協力など、年数回実行して環境保護と整備に努めている。

2. 活動の成果

遊歩道の整備をする事で、山野草が増え季節ごとに可憐な花を咲かせてくれ、登山者に和やかな気持ちになってもらえているようで喜んでおります。

毎年実施している登山口の清掃も、2か所が道々に接しているため、モラルの無い人が捨てる粗大ごみは無くなりません。減少はしていますが油断成りません。看板などで不法投棄を呼びかけるなどが今後の課題です。

3. 参加者の声

「浄台」に設置してある登山記帳簿に、遊歩道整備への感謝の言葉や、安全に楽しく歩けたとか、綺麗な花が沢山咲いていた…などの感想を見て、皆、作業した甲斐があったと喜んでます。又、環境省レッドデータブックに記載されている花が6種類確認されるようになり、それを目当てに登りに来る方も増えました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月27日	4月9日	4月19日	5月31日	6月7日	合計
事業量	倒木処理	倒木処理	登山口清掃	遊歩道草刈り	遊歩道草刈り	
参加者数	2人	3人	14人	11人	10人	40人
実施場所	馬追山遊歩道	馬追山遊歩道	馬追山各登山口	馬追山遊歩道	馬追山遊歩道	

森林保全整備で地域環境へ寄与する！（C-2）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

札幌市、江別市、小樽市、千歳市など9か所の森林フィールドにおいて、下草刈り、間伐等の作業を行った。市町村の防風林（江別、新篠津）では間伐作業により、防風林の荒廃を防ぎ、畑の作物育成や近隣住宅地の風による土の被害など、防風林の役目を保全する。また教育関連施設（滝野自然学園、江別市内小学校）では、周辺木や森の整備を行い、教育現場の手助けをする。

2. 活動の成果

概要の通り年間計画を実施することで、各地域の問題を解消する役割を果たしている。

江別市では予算の付かない小学校敷地の除伐を行い、滝野自然学園と岩見沢ちゅぶの丘では間伐することにより、明るい森を作り、子供たちが安全に遊べる環境整備のお手伝いできた。

小樽・高川山林では、長年に渡る整備の成果で、近年多発するクマの目撃情報が現地では聞かれることが無くなった。農村地帯の防風林は、防風林の手入れを行い、風倒木を防ぎ、農作物の育成に役立てた。

3. 参加者の声

・指示が無くて、てきぱきと自分の作業をする会員の姿がかっこいい。・月に二回の活動日が楽しみで待ち遠しい。・地元小学校の周辺木を伐採し、地域に役に立っていると思うと誇らしい。・間伐することで自然環境が良くなると思うと嬉しい。・仕事ばかりで体を動かす機会が無いので、参加して汗を流すのが楽しい。

実績報告とりまとめ表

実施時期 参加者数	7月13日 13人	8月10日 23人	8月26日 29人 9月14日 21人 9月29日 18人	9月8日 12人	10月12日 21人 10月27日 29人	11月9日 26人 11月24日 28人
事業内容	作業道及び植林木周辺の草刈灌木の間伐	笹刈り アカシアの一部皆伐	江別市所有林を間伐 2025年度以降も関与	係り木処理、間伐	前年に続き防風林で伐採 100本以上有り	間伐・除伐・整理伐 薪材としての活用 林床整理
実施場所	22世紀の森（支援・当別町）	ちゅぶの丘（岩見沢）	江別市防風林	滝野自然学園（札幌市）	新篠津村	苫東（苫小牧市）
実施時期 参加者数	4月12日 23人 4月27日 25人	5月25日 24人 6月22日 29人	6月14日 21人			15回 342人
事業内容	遊歩道作り 山頂遊具付近の笹刈り 間伐・薪作り	江別市所有林を間伐 2025年度以降も関与	係り木処理、間伐			
実施場所	高川山林（小樽市）	江別市防風林	滝野自然学園（札幌市）			5箇所

2024～2025年度活動報告 札幌ウッディーズ

施業場所	目的	進捗状況	施業内容	2024年度			2025年度		
				回数	月日	人数	回数	月日	人数
高川山林 (小樽市)	会員所有林であり、整備することにより近隣住民の憩いの場とする。また、子供たちの遊び場として心身の生育に寄与するとともに、森林に対する興味を醸成する。	2021年度より作業道作設に取り掛かった。笹狩りは定期的に行い、数年ごとに施行。新しい遊歩道を作るとともに、従来の遊歩道の整備も進行する。	遊歩道作り 山頂遊具付近の笹刈り 間伐・薪作り	4回	4月13日 4月21日 6月8日 6月23日	96	2回	4月12日 4月27日	23 25
北山山林 (千歳市)	森林組合が施業しない場所の作業を担うことで、健全な山林の保全を行う。	エリアが広いため目標は設けていない。枝打ちは徐々に進めているが、天然林はほぼ手つかず。2024年度は赤エゾ松の枝打ち作業を行った。	赤エゾ松の枝打ち 枯損木処理	2回	5月11日 5月26日	51	雨天中止		
柴原山林 (札幌市)	2004年の台風18号による被害復旧を目指す。また、幼木保全や笹刈り等により、多様性のある森を目指す。	当初目標は達成されつつある。2024年度は雨天により中止。倒木や未処理の玉切り材が散乱している。	林内の片づけ、整理 作業道の草刈	雨天中止			1回		
苫東 (苫小牧市)	苫東環境コンモズが主催する育林コンペに参加。景観の良い森づくりを行い、間伐材の有効利用を目的とする。	2018年度に初参加。枯損木処理、萌芽を整理して薪材採集を主に行う。林床は整理整頓し、入りやすい環境を目指す。	間伐・除伐・整理伐薪材としての活用。 林床整理	2回	11月9日 11月24日	26 28	2回		
ちゅぶの丘 (岩見沢)	「森の幼稚園ちゅぶの丘」の支援活動として草刈、間伐等の環境保全のお手伝い。	2024年度より活動を始める。森の保全活動。(草刈、笹狩、一部皆伐)	笹刈り アカシアの一部皆伐	1回	8月10日	23	2回		
江別市防風林	江別市依頼による防風林の間伐。(石狩振興局森林室のマッチング事業)	2023年度は三原エリアの白樺林の皆伐・薪材搬出。2024年度は江別市所有林の間伐、草刈。2025年度は市内小学校の外周部の除間伐。	江別市所有林の間伐 2025年度以降も関与	3回	8月26日 9月14日 9月29日	29 21 18	2回	5月25日 6月22日	24 29
滝野自然学園 (札幌市)	札幌市の外郭団体が運営している林間学校。子供たちが安全に遊べる環境作りを目的とする。	2024年度より活動開始。2024年度は係り木処理。2025年度は程よく光を入れるために間伐処理。	係り木処理、 間伐	1回	9月8日	12	1回	6月14日	21
22世紀の森 (支援・当別町)	「新山川草木を育てる集い」の支援活動として、どろ亀先生の遺志が継がれた森林造成に寄与する。	植樹後の保育を目的とした草刈及び作業道の草刈を継続している。	作業道及び植林木周辺の草刈 灌木の間伐	1回	7月13日	13	1回		
新篠津村	新篠津村依頼による施業。(石狩振興局森林室のマッチング事業)	2022年度は防風林のヤチダモ伐採25本程度。2023年度は防風林のヤチダモ伐採100本程度。2024年度は防風林の白樺伐採50本程度。	前年に続き防風林で伐採100本以上有り	2回	10月12日 10月27日	21 29	2回		
合計		(1回活動平均参加人数22.4人)		16回		367	13回		122

対象期間年間合計15回/337名

※太字が対象期間

野幌の森再生事業と親子による植樹祭（C-3）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

2018年の台風で被災した野幌森林公園道有林の森の再生事業5年目である。今年度は既植樹地の下草刈りと新たな区画の植樹を行った。

下草刈りは、2020～2023年度に植樹した169林班85小班1.33ha、87小班0.35haを、事業実施期間外（2024年5月17日）を含めて3回行った。

植樹は新たに87小班的中央部（0.35ha）で9月8日に当協会の主催する親子森林教室参加者による植樹祭を行った。協会員による下準備として自生稚樹の優先保育と草刈り、地拵え、防草シートの敷設を行った。また、協会員により10月11日に追加植樹を行った。針・広葉樹の苗木各30本、合計60本の苗木を植え、今後の草刈りの労力低減を目指し1.5m角の防草シートを敷設し、広葉樹には食害防止措置として高さ1.7mのハイトシェルターを設置した。

2. 活動の成果

既植樹地は概ね順調に生育しており、特にハイトシェルターの防獣・保育効果が特筆される。新たに0.35haに植樹し、これまで裸地であったところが確実に緑を回復している。

3. 参加者の声

- ・今年度も猛暑の中での作業となり体力の消耗が著しかった。
- ・今年ヒグマ出没注意報が出ずにホッとしたが、それだけに地球温暖化防止と生態系保全の一助となる育林活動に力を入れなければならない。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月1日	8月21日	9月3日	9月8日	その他7/22、10/11	合計
事業量	2020～2023年度の植樹地1.68haの下草刈り。自生苗の確認。	今年度植樹予定地0.35ha、130カ所の地拵え。	植樹祭の準備として、資材搬入、仮設トイレ設置、会場周辺草刈り。	親子森林教室参加者を主体とした植樹祭開催、60本植樹。	7/22今年度植樹予定地0.35haの笹・草刈り。植樹位置に竹支柱設置。 10/11澄川苗畑で養生した広葉樹を70本植樹しツリーシェルターを設置。標準地樹高調査。	<ul style="list-style-type: none"> ・1.68haの下草刈り ・0.35haに針葉樹30本、広葉樹100本、計130本植樹。 ・植樹箇所には1.5m角の防草シート敷設し草刈り作業の軽減を図る。 ・広葉樹苗には動物食害防止のツリーシェルター設置
参加者数	協会員7名	協会員7名	協会員9名	協会員10名、親子森林教室25名、自治体関係者2名、計37名	7/22協会員5名 10/11協会員6名	71名
実施場所	北海道江別市野幌森林公園道有林（169林班85、87小班）					

ルルマップ自然公園ふれらんど植栽事業（C-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

恵庭市緑化推進委員会が植樹活動を支援する「恵庭一万本桜植樹市民の会」は、「花のまち」に相応しい桜並木を作り、恵庭市を北海道一の桜の名所にするを目標とし、平成27年に設立された。植樹場所については、恵庭市が漁川を始めとする多くの河川があり、河川とともにまち並みが形成されてきた地理・歴史的経緯から、河川敷地を優先的に植樹していき、中でも漁川河川敷地への植樹が最も効果があると考え、漁川から植樹を行っていき、昨年度に完了し、今年度より観光施設である公園敷地（ふれらんど）へ植樹場所を移行した。

「花のまち」と呼ばれている恵庭だが、50年ほど前に植樹した桜が徐々に病気等により伐採され減少傾向であることから、「花のまち恵庭」に相応しい桜を今後も継続していく。

※過去の活動実績

- ・令和2年10月10日に「恵庭市市制施行50周年記念事業」で行った事業で、かわまちエリアにおいて、アーコレド15本の記念植樹活動を実施した。令和3年、令和4年、令和5年において恵庭市緑化推進委員会と「恵庭一万本桜植樹市民の会」が協力して行った事業で、かわまちエリアにおいて、八重桜（関山）、計38本の植樹活動を実施した。

2. 活動の成果

令和3年度から恵庭市緑化推進委員会（恵庭市経済部花と緑・観光課事務局）と恵庭一万本桜植樹市民の会が協力して桜の植樹活動を行っており、令和6年11月14日に八重桜（関山）8本の植樹を実施した。

当日は始めに、恵庭一万本桜植樹市民の会会長より、連日の桜の活動のお礼や近年の恵庭市の桜の厳しい状況について言及された。その後、事務局より今回の桜の植樹事業は緑の募金や「緑と水の森林ファンド」の補助金により実施できることを伝え、周りや知り合いにも広めるよう依頼した。

植樹の際には、会の熟練者を講師として研修を兼ねて実施し、会員の能力向上にも効果があった。

3. 参加者の声

近年、植樹する場面が少なく、恵庭市のグリーンベルトでは桜の病気や枯損により伐採や強剪定が行われている。このような状況になってから植樹するのでは桜の生長を考えると遅く、計画的に植樹することが今後必要との意見があった。

今回の植樹は研修としても技術向上できた。植樹する機会が減り、少ないことから貴重な時間であった。桜の数が減っているので、植樹場所があれば継続していきたい事業である。恵庭市緑化推進委員会にも継続的に植樹ができるようにと依頼があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月10日	10月4日	11/14	合計
事業量	現地下見	現地下見	桜植樹	
参加者数	2名	2名	8名	12名
実施場所	ルルマップ自然公園ふれらんど			

令和6年度里見緑地内植樹・環境整備保全事業（C-5）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 植樹事業：令和6年3月29日～10月10日、里見町7丁目地先の傾斜地約1,200㎡にカラマツ、ミズナラ、ブナなど10種・70本の苗木を植樹した。作業は、①地拵え、②穴掘り、③一輪車で植樹穴ごとに黒土と腐葉土を運搬・投入、④苗木の植付け、⑤マウンド造り、⑥支柱立て、⑦水遣りを行い、その後、下草刈りを3回行った。
- 公園施設整備保全事業：①令和6年9月4日～6日、遊歩道の山側に素掘側溝を掘り、塩ビ管を敷設して雨水処理を行った。②8月上旬と10月中旬に、遊歩道上の木橋6橋、広場や遊歩道脇に設置した木製テーブル3卓、ベンチ8脚、丸太ベンチ16脚、展望柵5柵等に防腐剤を塗った。③7月3日～7月20日、遊歩道約660m区間に木質粉碎チップ34㎡を一輪車で運搬・敷均した。同様に8月3日～8月16日、チップ17㎡を約340mの区間に敷均した。
- 地域活性化事業：10月20日に下見調査をし、10月26日に地先住民を対象とした「里見緑地内の自然観察と遊歩道散歩の会」を実施した。日本自然保護協会認定自然観察指導員を講師にして、参加者9名に対して遊歩道沿いの木本（樹木）・草本（山野草）について説明と質問・応答があり、好天にも恵まれ、好評を得て終了した。

2. 活動の成果

- 植樹事業：里見町7丁目地先の傾斜地は北広島団地造成地の捨土個所であり、一部区間に植樹がなされた他は大部分がススキに覆われていた。当会が3年間継続して行った植樹により、将来、①地盤が安定化して土砂崩壊を防止し、②春先の強風による被害を大幅に緩和し、③針葉混交林の形成により生物多様性保全が図られ、④住宅地や遊歩道からの景観が向上し、⑤木本や草本の自然観察、社会教育の場となることが期待される。
- 公園施設整備保全事業：①丸太ベンチの設置により、遊歩道の休憩場所や眺望カ所として利用されること、②木橋や丸太ベンチ等に防腐剤を塗ることによって木製工作物を延命させ、着色によって美化されたこと、③遊歩道路面に木質粉碎チップを敷均すことによって、遊歩道歩行者の安全・安心・快適性・美化が図られたこと。
- 地域活性化事業：地域住民を対象にした秋季の「里見緑地自然観察・遊歩道散歩の会」実施は、当会としては初めてのイベントであった。PRが不足して参加者は少なかったが、参加者の反応は好評であった。

3. 参加者の声

- 植樹事業：会員のみで植樹を行っているため、市民の参加者はいない。また、市民からの植樹に関する声（要望・意見等）もない。
- 公園施設整備保全事業：1. と同じ理由で参加者はいない。遊歩道や広場の利用者からは、作業現場で当会の野外作業員に対して、感謝やねぎらいの言葉を発している。また、遊歩道に木質粉碎チップを敷均したことについては、クッション効果があって膝に優しく歩き易いとの発言が多かった。木橋はデザインが良い、安全な構造で幅が広くて歩きやすいとの声が多かった。丸太ベンチはデザインもよく、座り易い、設置位置が良いとの声があった。
- 地域活性化事業：参加者からは、講師の説明がユニークで大変勉強になったとの声があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	植樹事業	公園施設事業	活性化事業	合計
事業量	10種70本	遊歩道整備	森林等の役割の説明会	
参加者数	3名	9名	3名	15名
実施場所	7丁目地先傾斜地	里見緑地内	里見緑地内	

市街地緑化事業（C-7）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

会員および関係団体の協力を得ながら、函館市南茅部地域内で植樹活動を行い、森林の整備および環境保全に取り組んでいる。令和3年度から世界遺産登録された史跡垣ノ島遺跡内に植樹を行っており、令和6年度においても植樹を行い、史跡内の環境保全を図る。

2. 活動の成果

植樹面積：960㎡ 樹種および本数：ヤマザクラ 18本

3. 参加者の声

「毎年参加しているが、過去に植えた苗木の生育状況を確認するのが楽しみである。また、参加者の中には子どもを連れてくる方もいるので、木育にも繋がり、非常に良い取り組みだと感じている。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月下旬	合計
事業量	植樹面積：960㎡ ヤマザクラ 18本	
参加者数	36名	36名
実施場所	史跡垣ノ島遺跡内	

第30回サケの上る森づくり植樹祭（C-8）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林と海との密接な関わりに着目し、魚の成育環境・自然回帰を図り、豊かな海づくりに繋がる植樹活動を行うことを目的とする。

2. 活動の成果

豊かな森作りは豊かな海づくりにつながるとの観点から、魚の生息環境への自然回帰等を図り、「山・川・海」の緑化思想の普及啓蒙が図られた。

3. 参加者の声

町内の緑の少年団3団体が参加しており、植樹指導及び植樹作業について、真剣に学ぶ姿が伺えたり、楽しく行えた等の声が聞かれた。また、児童からは「植樹した木が成長し、たくさんお魚が増えてほしい、山くずれ等から町を守ってほしい」との声もあった。

その他、各企業・団体の参加もあり、子ども達をサポートしながら苗木が大きく育つように心を込めて植樹している様子だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月21日	10月30日	合計
事業量	地拵え	植樹祭	
参加者数		94人	94人
実施場所	せたな町北檜山区丹羽町有林	せたな町北檜山区丹羽町有林	植樹祭開催地

ユネスコの森づくり（C-9）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

従来の大雪山国有林植樹は熊対策のため断念し、活動場所を旭川市西神楽ホテルの里に移して、事業の継続・発展を工夫した。

- 「ユネスコの森」の活動区域作成。
- ホテルの会と下草刈り等で協働。
- 今後コロナ収束後に、児童生徒の体験学習計画の立案予定。

2. 活動の成果

新しい実習場所の「ホテルの里」は自然環境保護の目標が当会と一致しているため、次の成果が生じている。

- 協働できる学校・地域団体の増加。
- 近郊なので、成育状況の観察や森林保護の実習がしやすい。

3. 参加者の声

- 旭川ユネスコ協会会員「植樹の後のホテルの幼虫飼育施設見学がとても充実した体験だった。」
- ホテルの会役員「念願の小学生の参加が本年度は実現してとても嬉しい。今後も年間計画に位置付けて協力し合いたい。」
- 参加した学童クラブ員「木を植えるのは森と水を守ることだとわかった。ホテルはきれいな水がないと生きていけないので、大事な活動だと思った。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	2024/7/01～7/31		10月12日	合計
事業量	下草刈り・間伐	穴掘り・資材買い物・運搬	植樹 (ミズナラ20本・桜10本)	
参加者数	10名	16名	17名	43名
実施場所	西神楽ホテルの里			

「帯広の森」づくり事業（C-10）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

帯広の森サポーターの会（以下、当会）は、帯広市の承認を受けた森づくり団体であり、帯広の森を拠点に自然豊かな郷土の森を育て後世に残す活動を行っている。

当会の担当するエリアは植樹後20年以上経過の広葉樹区域、および約40年経過の針葉樹区域で構成されているが、植樹後殆ど人の手が入っていなかったことから、本来残すべき樹種が健全に育たなかったり、逆に十勝地方には無い樹種が育ちすぎたりするなど、不健全な状態が目立っている。

その為当会では、下草刈り、枝打ち、不良木除去や除間伐、外来種の除去等の保育活動を徹底して行っている。

また市民を対象として、森の恵みと利活用に対する理解を深める研修会なども開催している。

2. 活動の成果

1. 当会活動エリアの拡大

- ・順次活動面積を拡げている。一昨年に続き本年4月にも新たに3haの活動面積拡大を市に申請中である。
- ・当会の活動エリア拡大は、帯広の森の中で人手が入らず放置されている面積が減少することである。

2. 市民の認知度が向上

- ・当会の活動で森の整備が進んだエリアを、年に2回一般市民に開放するイベントを実施している。
- ・当会の活動が活発になることにより、帯広の森の認知度が上がり、市民に利活用されやすくなる。

3. 森づくりや、自然を大切にする人材の増加

- ・当会の会員数が増加し活動量が増え、また森を訪れる市民の数が増えることは森づくりや自然を大切にしたい人材の増加に直結する。

3. 参加者の声

森の工作体験会（やじろべいづくり）

- ・小学生でも楽しめるイベントなので参加できてよかった。
- ・素材の種類が沢山あり楽しかった。
- ・講習時間内で完成出来なかったのが、家で続きをやりたいが工具が無いので難しい。
- ・また機会があれば参加したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R6年8月31日	R7年2月15日	R7年4月20日	R6年7月 ～R7年6月	合計
事業量	森の工作体験会	森の工作体験会	白樺樹液採取体験会	年間を通じた活動 (左記以外)	
参加者数	雨天中止	9人	雨天中止	417人	426人
実施場所	「帯広の森」 第8ブロック 帯広市西25条 南6丁目	帯広の森 はぐくむ 帯広市南町南9線 49番地1	「帯広の森」 第8ブロック 帯広市西25条 南6丁目	「帯広の森」 第7-8ブロック 帯広市西25条 南5～6丁目	

十勝牧場白樺並木再生事業（C-11）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

十勝牧場白樺並木において、老木化した木を伐採・伐根を行い、苗木を植樹して再生を図っている。

当初、平成26年から10年計画で執り進めており、令和5年度で10年目となったが、アブラムシの被害などにより計画通りに進んでいない状況。

そこで、3年計画を延長し、令和8年度まで更新工事を行うこととしている。

更新工事の際は、観光協会職員のほか、町職員などで植樹を行っている。

2. 活動の成果

伐採・伐根8本、苗木植樹20本を行った。

そのほかに、これまでの被害状況から、アブラムシの被害が出ないように防除剤を散布して成長を保護した。

町職員による苗木の植樹を業者の手を借りながら行った。

3. 参加者の声

【植樹に参加した町職員の声】

植樹は初めての経験であった。

今回、植えた細くて小さな苗木が成長し、いつの日か立派な成木となるのが楽しみ。

今の子どもたちや未来の世代に白樺並木更新を傳承し、これから先もこの素晴らしい景色が見られるように守ってもらいたいと思った。

貴重な経験をありがとうございました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月17日	合計
事業量	白樺苗木20本	
参加者数	20名	20名
実施場所	十勝牧場白樺並木	

釧路湿原周辺丘陵地の自然林再生事業（C-12）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑化活動の内容は、①地元産広葉樹の種子から育てた苗木を作る、②育った苗を所有する保護地内に植栽する、③下草刈り・シカによる食害防止など植栽地を維持管理する、という三つに分けられる。会員等のボランティアやイベント時に参加する一般市民による緑化作業を行い、並行して防鹿柵の老朽化からネットやポールの修正を実施している。しかし、財源不足で完全な修繕が行えず、修繕が十分でないところから鹿の侵入が起り、毎年食害が発生している現状である。令和6年は新たな試みとしてツリーシェルターによって植林した苗の食害を防ぐ試みを実施する。

2. 活動の成果

9月から10月に草刈りと植樹場所の設定を行った。10月6日植樹イベント「どんぐり記念日」を実施した。富士フィルムビジネスイノベーションのボランティア団体「端数クラブ」、こどもエコクラブくしろ、一般市民など合計56名の参加者があり、67本の植樹を行った。緑と森の会資金提供のツリーシェルターはミズナラ18本、ヤチダモ15本に設置した。

ツリーシェルターを設置した苗に関して、樹種、高さを計測した。

3. 参加者の声

ボランティアで植樹活動を行い防鹿柵の補修を行っている方より「ネットや柵に費用がかかる。人手も多く必要であるからツリーシェルターは簡単で鹿の食害が防げるからよいと思う。」

エコクラブの子供たちより「楽しかった。」

エコクラブの保護者より「貴重な経験ができた。」

一般参加者「穴を掘るのが大変だった。よい経験だった。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月29日	10月6日	10月20日	合計
事業量	草刈り 植樹場所の設定	植樹イベント 「どんぐり記念日」 を実施	樹種、高さを 計測	
参加者数	5名	56名	3名	64名
実施場所	釧路町達古武	釧路町達古武	釧路町達古武	

「未来の青い森県民植樹祭」実施事業（A-25）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

開会式、オリエンテーション、地元少年団による「誓いの言葉」の宣言、2024「ミス日本みどりの大使」安藤きりりさんからのメッセージ、青森県にちなんだ樹種（ブナ外）の植樹体験活動、チェーンソーアート制作実演及び作品のオークションの実施（オークションで落札された落札金は全額緑の募金に寄付）。体験教室は森林・緑に関する①青森県産材（青森ヒバ）を使用した木工教室、②森林インストラクターによる森林教室の2教室を実施した。県民に郷土の森づくりのほか、県土の保全や多様な生態系等に資する森林の役割や林業の重要性について再認識して頂くことを目的に体験会を実施した。

2. 活動の成果

植樹体験では、ブナ外を植樹することにより地元地域の特性や環境、生態系や森林機能の重要性について再認識していただくことが出来た。

木工教室では、青森ヒバ材を使用することにより、青森ヒバの木材としての特性や利用価値、林業の重要性について普及啓発することが出来た。

森林教室では、植樹会場付近を散策し、森林インストラクターから森林機能などについて説明を受け、参加者に森林や緑化・水資源の重要性等について普及啓発することが出来た。

3. 参加者の声

- ・植えたブナの公益的機能についていろいろな機能があることを知りました。
- ・青森ヒバは育つまで時間がかかることがわかりました。
- ・村の木であるトチノキがすくすくと大きく育つことを祈ります。
- ・木工教室の講師の説明がとてもわかりやすかったです。
- ・植物の名前や特徴などとても勉強になりました。
- ・木が地球温暖化に役に立っていることがわかりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月13日	計
事業量	未来の青い森県民植樹祭2024in新郷	
参加者数	168人	168人
実施場所	青森県 新郷村	

木と森と人とのふれあい事業（A-26）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 県内6地区18箇所で開催された木工教室や森林教室等を実施しました。
- 東青地区では少年団による木工教室や地元小学生による夏休み木工教室、親子木工教室等を実施しました。
- 中南地区では少年団による森林学習会の中での木工教室、地元小学生による木工教室を実施しました。
- 西北地区では少年団交流会の中での木工教室を実施しました。
- 三八地区では少幼年団による木工教室を実施しました。
- 上北地区では地元小学生と少年団による木工教室を実施しました。
- 下北地区ではむつグラマラスフェスティバルで地域の森林・林業をPRする一環としてPRブースと木とふれあう体験コーナーを設置、東通村産業まつりでは木工教室を実施しました。

2. 活動の成果（スタッフの声）

- どの子供たちもとても一生懸命ラックの制作に取り組んでいた。たくさんのスタッフの見守りのもと、安全に「何かを作った」という経験は楽しかった思い出として子供たちの心に残ると思う。
- 多少形が悪くても、自分たちでラックを作り上げたことに充実感を得ていた。
- ゲームやメディアと関わる時間が増加している今の子どもたちにとって、自然と関わる時間はとても貴重だと感じています。特に、このような自然の物を使って遊んだり散策したりしながら「自然を楽しむ」体験は、一人一人の子どもたちにとっても今後の学校教育活動にとっても貴重な体験であると感じるので、ぜひ、今後とも続けていただければ幸いです。
- 低学年の参加者が多く、釘を打つ作業があったことから、絵本読み聞かせによる導入や分かりやすい説明、スタッフの数を増やす等の配慮をしたことにより、全員が作品を完成させることができた。
- 木とふれあう体験コーナーでは小さな子どもたちがいつまでも積み木で遊び、親御さんが帰りがたらない子どもを連れだすのが大変な場面も見受けられました。

3. 参加者の声

- 木を大切にしたいと思った。
- 先生方も釘の打ち方や作り方を詳しく教えてくれてわかりやすかった。楽しかった。
- また来年もやってほしい。
- 木を大切に使うって、森のサイクルをし、二酸化炭素をどんどん吸収できるよう貢献したい。
- 木のキーホルダーや、木で組み立てるロボットを作ってみたい。
- がんばって作ることが出来てよかった。
- 木の肌触りが気持ちいい。
- スギも貴重な資源であることがわかった。大切に使いたい。
- もっと作る時間がほしい。

実績報告とりまとめ表

県内6地区18箇所

東青地区	7/20	青森市「青森市北部市民センター」	17名
	8/8	青森市「青森市中央市民センター」	17名
	8/21	今別町「今別小学校」	17名
	10/2	青森市「北小学校」	11名
	12/8	青森市「青森市森林博物館」	24名
	12/21	青森市「青森市西部市民センター」	30名
中南地区	7/29	弘前市「岩木青少年スポーツセンター」	34名
	8/24	西目屋村「白神山地ビジターセンター」	15名
	9/7	西目屋村「白神山地ビジターセンター」	14名
	7/24	弘前市「東部公民館」	24名
西北地区	9/5	つがる市「つがる地球村」	255名
三八地区	7/13	新郷村「間木の平グリーンパーク」	37名
	11/28	五戸町「くらいしこども園」	20名
上北地区	7/20	七戸町「七戸小学校」	100名
	9/13	十和田市「深持小学校」	4名
	9/26	六ヶ所村「尾駈小学校」	25名
下北地区	10/19	むつ市「しもきた克雪ドーム」	150名
	11/3	東通村「東通村役場」	86名
	11/30	むつ市「小川町集会場」	20名
参加者合計		900名	

令和7年度遠野市緑化祭『里山フェスタ2025』（A-27）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

皆伐跡地において、新たな森林を造成するための植栽を行い、市民が森林を身近に感じられるイベントとする。また、森林の整備体験などを通じ、森林の多面的な機能などの重要な役割への理解を深めるとともに、緑化意識の高揚を図ることを目的とする。

2. 活動の成果

今年度は、遠野市宮守町下宮守にある銀河の森総合運動公園において開催した。

遠野市内の森林愛護少年団員や企業、市民や林業関係団体、郷土芸能団体からも参加頂き、協力し合いながら、約2,000本のカラマツ及び郷土芸能関係木の植栽を行った。

開会式中の「緑の誓い」では、今年度結成50周年を迎える小友小学校森林愛護少年団の代表である5年生が誓いを行った。

その他、高性能林業機械による伐採及び造材の実演やドローンによる作業効率の向上を説明し作業の様子を撮影した。

3. 参加者の声

森林愛護少年団の参加者は親子での参加者が多かった。

少年団員からは、「森林や林業のことを学ぶことができて楽しかった。」「いっぱい植えるのを頑張りました。楽しかったからまたやりたい。」等の声が聞かれた。

また、郷土芸能団体の参加者からは、「身近な郷土芸能を資源を含め守り伝承して行ってほしい」といった機体の込められた声が聞かれ、森林の大切さや森林整備を学ぶ機会、素晴らしい郷土文化を再認識する機会を作ることができたと感じた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月14日	計	備考
事業量	・カラマツ及び郷土芸能関係木の植栽 ・高性能林業機械の見学等		
参加者数	408人	408人	事務局による公式発表人数は約410名
実施場所	岩手県遠野市		

一関地方育樹祭（A-28）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

住民一人一人が、それぞれの立場で森林づくりに参加する気持ちを育み、人と森林が共生する心豊かな社会を構築することを目指して令和5年度一関地方育樹祭を開催した。

2. 活動の成果

「石蔵山林間広場」を会場に、ヤマザクラの記念植樹及び記念標柱建立のほか、3年生以下の参加児童は、木工工作体験（バードコール作り）、4年生以上の児童は、育樹に関する指導を受けながらつる切りや間引きといった育樹体験をそれぞれ体験した。

体験後は、開催地域の伝統芸能である布佐神楽を鑑賞し、児童だけでなく、開催場所である「石蔵山」に関係する多くの住民が参加した。

記念植樹や育樹体験を通じて、森林整備の重要性や森林づくりに対する意識の向上とともに、地元の児童や生徒が参加したことで森林環境教育の推進が図られた。

3. 参加者の声

- ・もっと木が増えて自然が豊かになればいい
- ・動物たちがちゃんと住める環境になってほしい
- ・おばあちゃんの家で切ったことはあるけど、こういう山でやったことはなかった。つるとかを切るのは楽しい

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年9月30日	計
事業量	・記念植樹 ・木工工作体験 ・育樹体験	
参加者数	106人	106人
実施場所	石蔵山林間広場（一関市川崎町門崎字石蔵地内）	

緑の少年団育成事業（A-29）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団の結成及び活動を支援し、育成する。

2. 活動の成果

岩手県緑の少年団大会参加経費等、緑の少年団活動に要する経費の助成を行い、陸前高田市において令和5年に開催された全国植樹祭によって高まった緑化推進に対する意識の継続に努めた。

3. 参加者の声

- ・今後も緑豊かな学校・地域にするため、自分たちができることを考えながら、全校児童で取り組んでいきたいです。
- ・植樹は木を立つように植えるのが難しかった。
- ・山に登り、葉の観察をする活動で葉についてたくさん知ることができました。（米崎緑の少年団）

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年7月28日	令和5年10月2日	令和6年6月13日	計
事業量	岩手県緑の少年団大会 （米崎緑の少年団）	ボランティア活動 （米崎緑の少年団）	ボランティア活動 （横田自然愛護少年団）	
参加者数	6人	95人	25人	のべ126人
実施場所	陸前高田市内ほか			

木工工作キット配布事業（A-30）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

木材の利活用を促進するため、次代を担う小学生を対象に、町、県産材を使用した木工作品製作キットを木工体験教室を開催する団体に提供し、木の良さを啓発することで、町、県産木材の利用拡大を図る。

2. 活動の成果

体験を行うことにより、木材の良さ、町産材及び町内の森林の役割をPRでき、町産材等の需要拡大が図られ、それに伴い森林の整備促進が期待される。

3. 参加者の声

参加した小学生からは、「ボンドをつけるところがむずかしかった。」「木材はサラサラしたかんじとザラザラしたかんじがしました。」「次も作ってみたい。」といった感想が見られました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年7月29日	令和6年7月30日	計
事業量	木工教室	木工教室	
参加者数	小学生6人、主催者等5人	小学生40人、主催者等12人	のべ63人
実施場所	大槌町こども教育センター（OLAI）	大槌町吉里吉里公民館	

ふるさとの巨樹・名木観察会（A-31）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域における巨樹・名木を観察するとともに、居住地における歴史や自然環境を理解することにより、自然の恩恵に感謝する心を育むことを目的に宮古市・山田町内で観察会を開催した。

2. 活動の成果

参加者は、定員20名に対し、16名の参加があり、観察地は、宮古市～山田町の5ヶ所、6種類の巨樹・名木を講師の岩手大学名誉教授橋本良二氏の解説により観察会を行った。

講師の巨樹・名木に係る幅広い知識と経験を交えて、具体的で分かりやすい説明と歴史にも造詣が深く、巨樹から歴史を学び伝える言葉は意味が深く、講師の解説は参加者からも分かり易くとても良かったと好評であった。

毎年、県内各地で実施しているが、参加者から好評で継続要望も多く、今後も継続して実施することとしている。

3. 参加者の声

- ・知らなかったことが多々あって参考になった。
- ・次回も参加したいです。大変楽しかったです。
- ・年数の経った木にエネルギーをもらいました。ただ木を見て歩いていましたが、勉強をしてわかりました。参加してよかったです。
- ・毎年1度は開催してほしい。
- ・全部の巨樹・名木が印象に残った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年11月2日（土）
事業量	巨樹・名木5カ所6種類 道の駅やまだおいすた⇒宮古駅バスロータリー⇒宮古市・山田町内（5ヶ所） ⇒道の駅やまだおいすた⇒宮古駅バスロータリー
参加者数	16名
実施場所	宮古市・山田町内

第55回岩手県緑の少年団大会（A-32）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

岩手県内外の森林（自然）愛護少年団等が一堂に会し、森林を中心とする自然の中で、体験学習等を通して相互に交流し、仲間の連携と理解を深めると共に、緑を愛し育てる豊かな心を育むことを目的に、第55回岩手県緑の少年団大会を開催した。

さらに、秋田県・福島県からの参加を得て、県外少年団とも交流することができた。

2. 活動の成果

今年度は、植樹体験や様々な森林体験学習等の活動を通して、他の少年団員との交流が促され仲間との連携と理解が深まった。

また、林業の現場で使用される重機を見学する貴重な体験もでき、木のおもちゃ体験など一連の活動を通して、人や動植物は豊かな自然環境によって生かされていることや、生活に欠かせない木材の大切さなど、森林や自然を守る重要性の理解と緑化意識の醸成が図られた。

3. 参加者の声 参加少年団員の感想を短くまとめたもの

- ・はじめての参加だったけどみんなと木を植えるのが楽しかったです。
- ・色々な葉っぱや木を知ることができたと、大きさ、色とかを見ることができてよかったです。
- ・木のガチャで出てきたゾウに色をぬるのが楽しかったです。けん玉やコマもして楽しい思い出がたくさんできました。
- ・機械が木を切っているところがおもしろかったので、また違うことも見たり、知りたいです。
- ・全部すごく楽しかったし、自然が守られていく感じがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年7月26日（金）
事業量	(1) 開会式 ①周年記念表彰 ②活動事例発表 ③緑の誓い (2) 全体交流会 ①植樹会 ②森林体験学習（林業機械の実演見学、樹木観察、木のおもちゃ体験、全国植樹祭の紹介）
参加者数	356名（緑の少年団16団188名、育成会79名 その他関係者）
実施場所	岩手県八幡平市「岩手県民の森」

宮城県みどりの少年団大会開催事業（A-13）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

少年団が一堂に会し、共通の認識と連携を深め、少年団活動の一層の発展と健全な育成を図るため、第49回（令和6年）宮城県みどりの少年団大会を開催した。

平成9年に開催された第48回全国植樹祭開催地である白石市福岡深谷地区「南蔵王野営場」で、かつては荒野であった場所を県民協働により、豊かな森林に甦った場所で高校生やボランティア団体の指導を受けながら、枝打や除伐などの保育活動を行ったほか、樹名板を設置しながら自然観察及びネイチャークラフトなどのレクリエーションに興じた。併せて大会会場にて、令和7年第48回全国育樹祭でのおもてなし用の県産材使用のプランターカバーの製作を行うとともに、チラシ等を配布し機運を盛り上げた。また、式典では新たに設立した少年団に団旗とスカーフの贈呈が行われた。

2. 活動の成果

少年団員たちは、当大会の各イベントへの参加を通じて、緑や森林の役割を直接触れ五感で感じるにより、みどりを守り育てることの重要性を再認識するとともに、参加した各少年団との相互交流により、共通認識を図り、連携を深めることが出来たほか、新たに設立した少年団に対して、参加者皆で祝福を分かち合うことが出来た。また、全国育樹祭における少年団活動発表会に向けた機運の向上が図られ、大会の実施は有意義であった。

3. 参加者の声

- ・森林散策による森林学習は大変好評で、様々な木々や生きものに触れることが出来てとても楽しく1日を過ごせた。
- ・大会会場が荒野から、かつての豊かな森林に見事に甦った状況を実際に見ることが出来て良かったとの声が寄せられた。
- ・育樹祭のおもてなし用県産材使用のプランターカバーの製作体験は丁寧な説明でわかりやすく、楽しく作ることが出来た。
- ・団員及び育成会などの引率者からも「仲間づくりが出来た」、「森林の重要性を再認識出来た」などの声が寄せられた。
- ・普段、交流出来ない世代の人との交流や普段体験出来ないことが体験できた。
- ・令和7年開催の全国育樹祭に是非参加してみたいなどの声が寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年9月28日（土）	計
事業量	「未来の森」の保育活動 枝打・除伐作業0.2ha 式典 自然観察 交流会 ネイチャークラフト等	
参加者数	少年団19団 136人 育成会 99人 大会関係者 110人 計 345人	345人
実施場所	宮城県白石市（南蔵王野営場）蔵王町（宮城県蔵王自然の家）	

緑と水のキャンペーン事業（A-33）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県土の豊かな水と緑を育み、県民の緑に対する関心をより一層向上させるため、県内各地で緑の募金街頭キャンペーンを実施した。

2. 活動の成果

緑の少年団、ボーイスカウト、高校生とともに地球温暖化防止や緑化推進を呼びかけることにより、緑の大切さをPRする良い機会となった。

3. 参加者の声

- ・当日はあいにくの雨で大変だったが、募金活動を通して、緑の大切さを伝えることができたので良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業内容	実施場所
令和7年5月10日	緑の募金街頭キャンペーン 街頭募金 ○花苗プレゼント 600本、苗木プレゼント 180本、 花の種 1,200袋	秋田市 JR秋田駅東西連絡自由通路
令和7年4月20日 ・27日	緑の募金街頭キャンペーン 街頭募金 苗木プレゼント 150本	五城目町
令和7年4月26日	緑の募金街頭キャンペーン 街頭募金 花苗プレゼント 300本	大館市

市民グループ森林づくり事業（A-34）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくりや環境緑化に対する県民参加の促進と緑化思想の普及啓発を図るため、市民グループ等が行う植樹、育樹及び環境緑化活動に助成する。

2. 活動の成果

植樹をすることで地域住民の憩いの場として蘇るとともに、緑豊かな郷土づくりを推進することができた。

3. 参加者の声

- ・大きく育ってきれいな花を咲かせてほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業内容	参加者数	実施場所
11月7日	サクラの植樹 (環境林の造成)	30人	湯沢市稲川町下川原地区 ポロの森づくり
11月2日	サクラの植樹 (環境林の造成)	30人	大仙市内小友余目地内 内小友地域森林愛護推進協議会
11月30日	被害木伐採と炭やき (防風林の整備)	332人	秋田市下新城字街道端西地内 炭やきで夕日の松原まもり隊
11月10日	山桜、ブナ等の植樹 (環境林の造成)	30人	北秋田市上杉字長根下地内 トープ・木こりっこ

緑の少年団育成事業（C-14）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

次代を担う児童生徒の組織基盤の強化と地域における少年団活動の一層の活性化を図るため緑の少年団交流集会を開催した。児童生徒の緑化への関心を高めるため、児童生徒が行う植樹活動に対して助成した。また、地域単位の緑の少年団が行う森づくりや森林学習などの活動を支援した。

2. 活動の成果

部活動や学校行事などに様々な制限がある中で、児童生徒にとっても有意義な取り組みとなった。植樹体験や校庭を生徒の手で整備し完成させるなど、将来に繋がる環境教育となった。

3. 参加者の声

- ・これからも自然や樹木の様子によく気をつけて、いつまでも花を咲かせられるように大切にしていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業内容	参加者数	実施主体
7月26日	岩手県緑の少年団大会参加交流	12人	MV東北秋田緑の少年団
11月22日	地域貢献活動～プランター寄贈～	90人	秋田市立將軍野中学校
7月3日	花苗プランターの緑化活動	80人	秋田市立河辺中学校
10月30日	学校前庭花壇の緑化活動及び 大植学園緑化支援交流活動	178人	大仙市立太田中学校
10月28日	樹木の整枝・剪定体験活動	50人	大仙市立中仙中学校

森林活動指導者支援事業（C-15）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民が森林、林業体験活動や森林をフィールドとした保健休養、文化教育等の多様な活動を行う際に支援する指導的人材を育成するため、森林ボランティアを各種研修に派遣した。

また、森林ボランティア個人登録者約600名への情報提供を行った。

2. 活動の成果

各種研修に森林ボランティアを派遣することにより、森林ボランティアの資質の向上を図った。また、他県や他団体の取り組みに触れることにより、新たなボランティア活動への刺激となった。

3. 参加者の声

子どもたちが元気に安心して緑化活動が出来るよう、今後もお手伝いしていきたい。

山形県林業まつり開催事業（A-35）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 事業主体：【山形県林業まつり実行委員会】
- 事業目的：県民の森林・林業さらには環境に対する理解を深め、木材や林産物の利用を促進するため「山形県林業まつり」において、「木に触れる体験・木製品展示事業」を開催。
- 事業内容
 - 【各種体験コーナー】
 - ①積木遊び体験（木のノベルティ配布）
 - ②木製輪ゴム鉄砲体験
 - ③やまがた木育体験プログラム（森や木材に関する講和とスギ製ストラップ製作）
 - ④その他体験ブース（カンナ削り、巣箱づくり、木工クラフトなど）
 - 【木製品展示コーナー】
 - ⑤木製パズル・玩具等の展示
 - ⑥広葉樹材のパネル展示

2. 活動の成果

- ・様々な体験コーナーを通じ、木や森への理解の醸成や木材利用の意義、地域材の利用促進に対する意欲を高めることができた。
- ・特に、やまがた木育体験プログラムなど具体的な手法で子供たちに木材や森林の良さをPRすることができた。
- ・樹種や部位による色や質感の違いを体感し、木の良さ森の良さを理解することができた。
- ・県内にある様々な広葉樹を活用した製品を展示することで、広葉樹に対する関心や利用に対する関心を高めることができた。

3. 参加者の声

- ・「積木遊びや、巣箱づくり、クラフト体験」など子ども達が普段体験できない楽しいを体験することが出来てよかった。
- ・木育プログラム等で、森林の価値や地域の木の大切さを理解できた。
- ・広葉樹の色と肌触りなど、ホンモノの広葉樹の良さを体験することが出来た。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月19日	10月20日	計	備考
事業量	木に触れる体験・木製品等の展示		2日間	
参加者数	400人	400人	800人	体験者数 会場来場者数5千人
実施場所	山形市（やまぎん県民ホールイベント広場）			

庄内森とみどりのフェスティバル開催事業（A-36）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

庄内地域における森林の適正な管理を推進するとともに、再生可能な地域産木材の利用拡大を図るため、地域住民による森林保全活動や木材等林産物と触れ合う機会を提供し、森林・林業の役割やみどり豊かな森林環境の重要性について広く県民にPRすることを目的として開催した。

主な事業内容として、木製品等林産物や特用林産物の展示・販売、参加者が直接木に触れながらその手触りや香りなどを体感できる木工クラフト、木のおもちゃに触れる木育コーナー、その他森林・林業・木材に親しむイベントを実施した。

2. 活動の成果

地域住民が木製品等に直接触れ、その良さを感じる機会を幅広い世代に提供でき、地域産木材及び木製品の認知度向上等による需要拡大や森づくり活動の契機となることが期待できる。また、森林・林業の重要性についても広く周知できた。

今後も同様のフェスティバルを開催し、地域住民による森林保全活動や木材等林産物と触れ合う機会を提供し、森林・林業の役割やみどり豊かな森林環境の重要性について広く県民にPRしていく。

3. 参加者の声

- ・日常では知ることができないことが今回知れて良かった。
- ・色々なことを学べていい。
- ・いつも楽しみにしています。今年は雨で残念。
- ・子どもの遊びがたくさんあって楽しい。
- ・こういったイベントによって緑豊かな古里を大切にしたい。
- ・森林活動応援しています。
- ・毎年楽しみにしている。続けて行ってほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月19・20日 (鶴岡会場)	計
事業量	・木工品等の展示 ・体験コーナー	
参加者数 (内クラフト村等)	23,000人 (250人)	23,000人
実施場所	鶴岡会場：鶴岡市小真木原公園内 酒田会場：中止	

山形県緑の少年団連盟交流研修支援事業（A-38）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団が相集い、自然の中で体験活動を通じて、相互の交流や資質の向上を図ることを目的に、交流研修事業を行った。山形県緑の少年団交流研修大会（月山弓張平サマージャンボリー）は西川町志津月山弓張平公園を会場に開催し、県内13少年団106名が参加した。当日は班ごとに分かれて、森林散策を必修プログラムとし、ツリークライミング・ネイチャーゲーム、魚のつかみ取り、昆虫調査を場所を分けて活動を行った。山形県緑の少年団地区交流研修会は、県内2地区2会場で開催し、森林体験や木工クラフトなどを体験した。

- ・村山地区：10/16大石田町田沢大堤親水公園60名参加
- ・最上地区：10/5最上町最上町ふれあいの里49名参加

また、緑の少年団の健全な発展と活動内容の充実を図るため、各市町村に組織された3つの緑の少年団運営協議会が行う緑の少年団を育成する事業及び2つの緑の少年団運営協議会で実施する出前講座に要する経費を助成した。

- ・出前教室
 - 5/17飯豊町緑の少年団運営協議会（34名参加）
 - 5/22白鷹町緑の少年団運営協議会（33名参加）
- ・緑の少年団育成事業
 - 舟形町みどりの少年団運営協議会
 - 鮭川村みどりの少年団運営協議会
 - 戸沢村みどりの少年団運営協議会

2. 活動の成果

郷土の自然の中での活動を通じて、緑と親しみ、緑を愛し、緑を未来につなぐ心を育むことに寄与した。
また、他の少年団のメンバーとの班活動などを通じて、団員相互の交流につながった。

3. 参加者の声

- ・魚に初めて触った。焼いて食べるとおいしくて、自然の力はすごいと思った。
- ・キノコの菌打ち体験を初めて体験し、キノコの作り方を学べてよかった。
- ・色々な植物や実を発見できて楽しかった。
- ・枝打等の体験を通して、自分たちの学校林がきれいになってよかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月1日	5～10月	計
事業量	山形県緑の少年団交流研修大会	山形県緑の少年団地区交流研修会及び出前教室	
参加者数	団員106人	団員176人	団員282人
実施場所	山形県西川町、大石田町、最上町、白鷹町、飯豊町、舟形町、鮭川村、戸沢村		

緑化普及啓発事業（第33回みどりの作文コンクール）（A-39）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本県は多くの湖沼や温泉資源、すぐれた景観・自然環境に恵まれ、人情味あふれる県民性ともあいまって全国の人々から愛され、親しまれてきました。

緑は本県のかげがえのない財産であり、これを守り育て次の世代に引き継ぐことが私たち県民に課せられた大きな使命です。森林資源をとりまく諸情勢は厳しく、地球的な問題を抱えている現在、「緑の大切さ」「森林と自然の保全」を啓発することが急務となっています。このため、県民の「緑」に対する関心と意識を高めることを目的に、広く県内の児童・生徒から提言と作文を募集し、優れた作品を表彰・発表するものです。

2. 活動の成果

令和6年11月から作品の募集を開始し、令和7年1月14日まで募集を行い、小学校から200点、中学校から125点の計325点の応募がありました。2月14日に福島民友新聞社で実施した審査会で、全部門合わせて32名の入賞者と学校賞6校を選び、翌日15日付けの福島民友本紙で結果を発表、3月中旬までに賞状・副賞を学校宛に発送しました。

また、5月4日付「みどりの日特集」で金賞・銀賞入賞作品を掲載し、栄誉をたたえとともに、自然の大切さ・身近な環境問題意識の啓発をしました。

作品からは、子どもたちが日常を過ごす中で森やみどりに触れた経験や家族との会話などから、美しい自然や豊かな森林の大切さを未来に向けて守っていきたい、いこう、としている強い意志が伝わってきました。

今後も、福島県の未来をどのように考えていくか、未来を担う小中学生の考え方を同コンクールを通して、伝えていきたいと考えます。

3. 参加者の声

「作品に対する審査員の感想」

■低学年

自身の体験から書き進められており、みどりや自然をよく見た様子が生き生きと表現され、森を守る気持ちが伝わってきた。

■中学年

植樹祭や緑の少年団などの活動を通して、森や自然を考える様子が伝わってきた。

■高学年

森から人が受ける恩恵や森の管理について、自身が考えるアイデアなどさまざまな表現がされた作品が多く、驚かされた。

■中学校

自身が住む地域の話から、現状や問題点を分析して、対策を考え、ふるさとの森を守る意識の高さが伝わる作品が多く、迫力があつた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年11月1日	令和7年1月15日	令和7年2月15日
事業量	作品募集開始	作品締め切り 作品整理	本審査会
参加者数		325人	8人
実施場所	本審査会は、福島民友新聞社で実施（事前審査は、附属小・中で実施）		

普及啓発事業（第49回福島県林業祭）（A-40）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

林業関係者だけでなく林業を知らない世代、これから林業の担い手となる世代等へ森林・林業の役割やその重要性について、広くPRを図り、林業という仕事の魅力について関心を持っていただくことを目的に、令和6年10月26日に第49回福島県林業祭を開催した。

イベント内容としては、併催行事である林業コンクール等表彰式を開催するとともに、林業アカデミーふくしまのPR、高性能林業機械展示、ハーベスタシミュレーターの操作などの豊富な林業体験コーナーの設置や林業のチェーンソー技術を競う「第3回ふくしま伐木チャンピオンシップ」のほか、県の取組に関するパネル展示など県政PRや各林業関係団体PR、各種相談、木工体験コーナー、チェーンソーアート、きのこ品評会、森のオークション、木工品、農林産物の展示・販売などのイベントを実施し、県内外問わず、若年層から高齢層まで幅広い年齢層での参加があった。

2. 活動の成果

林業機械の体験や伐木造材技術を競う「第3回ふくしま伐木チャンピオンシップ」を開催したことにより、林業という仕事がイメージしやすいプログラムとなり、就業促進に向け効果的にPRを図ることができた。

また、イベントには約2,500名の方が来場し、林業の魅力やその重要性が感じられる機会を提供したことで林業に対する意識の醸成、担い手確保の推進につながった。

3. 参加者の声

来場者に実施したアンケートでは「いろいろなイベントがあり楽しかった」、「県の取り組みや林業について学べるので勉強になる」などの感想が寄せられた。

また、イベント全体を通して、「楽しかった。林業という仕事に興味を持った。また来年も来たい」などの声があり、イベントの趣旨に合致するものとなった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年10月26日	計
事業量	第49回福島県林業祭の開催	
参加者数	2,500人	2,500人
実施場所	福島県郡山市安積町成田西島坂1（福島県林業研究センター）	

ファミリー緑の教室の開催事業（A-41）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【目的】

家族が共通の課題をテーマに、一日一緒に自然に親しみながら地球温暖化防止等の緑の重要性を認識するため、森林・林業体験等を通じて、緑に対する愛護の心情と豊かな郷土を後世に引き継ぐ自覚を促進することを目的とする。

【内容】

休日を利用して親子での参加者を募集し、木工工作キット等による木工教室（ひのきのイスづくり、引き出し付き本立てづくり、組子細工づくり体験）や製材工場の見学や森林樹木の重要性等に関する座学講座を行った。

2. 活動の成果

森林に触れたり、木材を使って何かを作成する機会はあまりなく、家族と一緒に参加することで、普段の生活とは違ったコミュニケーションを図る機会を創出できた。

また、木工工作や森林学習を通して、親子で木のぬくもりに触れることで、地球温暖化防止等に対する緑の重要性を再認識するとともに、緑に対する愛護の心情と緑豊かな郷土を後世に引き継ぐ自覚を促進できた。

3. 参加者の声

- ・工場見学で木を切るところを初めて見て楽しかった。
- ・木が色々なところに使われていることを知れた。
- ・なかなか見ることのできない製材工場の見学ができてよかった。
- ・普段あまり森林について考えることがなかったので、今回森林学習に参加してみて森林の大切さが実感できた。
- ・地球温暖化の対策として木を使うことを意識したい。
- ・親子で工作することなどなかなかない機会なので是非継続してもらいたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年11月2日	令和6年11月24日	令和7年3月15日	計
事業量	製材工場見学 座学講座 木工教室	木工教室	木工教室	
参加者数	14人	46人	40人	100人
実施場所	いわき市	南相馬市	伊達郡国見町	

ふくしま緑の醸成事業（A-42）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「緑の募金」へ寄付のご協力をいただいた方や企業への領収書発行時に、「ふくしま緑の写真コンクール」優秀作品のポストカードを作製配布し、緑の醸成の拡大を図る。

2. 活動の成果

「第39回ふくしま緑の写真コンクール（令和6年度）」の特選1点、金賞5点、銀賞6点、計12枚のポストカードを作製しました。パッケージデザインは、シンプルな白地のものと写真をあしらったものを2種類を用意し、ポストカード本体は、森の香り付きで爽やかな香りを写真とともに楽しんでいただけるようにしました。また緑の募金キャッシュレス決済のQRコードもつけました。

作製したポストカードは、緑の募金寄付協力企業等へ領収書と併せて配布しました。

また、会議開催時等にも配布し、緑の醸成の拡大を図るためPRを行いました。

ポストカードのデザインは、「ふくしま緑の写真コンクール」の優秀作品を使用していることから、福島県内の美しい緑の風景や自然の力強さを感じさせる作品が多く、ポストカードの配布をとおして、県内の緑への親しみやすさが再認識されるとともに、写真を楽しんでいただいた後、ポストカードとして使用することにより更なる波及効果も期待される。

3. 参加者の声

- ・福島にこんな場所があるんだと初めて知った。行ってみたいくなる。
- ・森の香りが良い。
- ・綺麗な写真でとても良い、飾っておく。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年11月～令和7年3月
事業量	ポストカード 700組
参加者数	-
実施場所	福島県全域

都市と農村の交流事業（第37回ふくしま緑の百景歩こう会）（C-16）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

昭和60年に「国際森林年」を記念して、福島県内の緑の景勝地100箇所を選ぶ「ふくしま緑の百景」選定事業を実施。その記念事業として実施しています。

緑あふれるコースを歩き、自然と緑の大切さを再認識し、環境保全に対する意識の高揚を目的に、毎年開催しております。緑化の推進と参加者の健康増進と開催自治体の活性化を図るために歩こう会という形をとっております。

今回は福島県の県南地方に位置する棚倉町で開催しました。棚倉町のふくしま緑の百景の選定地「山本不動尊」を中心とした特設コース全行程約10^{キロ}を設定しました。

『八槻都々古別神社』や町の名所など歴史と文化の町並みとともに豊かな自然を満喫していただきながら、途中3箇所のチェックポイントを回りました。

ゴール後はブルーベリー、サザンカ、ツバキ、センリョウ、クチナシの5種類の苗木から1つを参加者に配布しました。その他、冷凍ブルーベリー、まんじゅう、アップルパイなどのふるまいや、参加賞としておばけせんべいや棚倉藩（和菓子）など、棚倉町の産品を配布しました。

参加料は無料とし、参加者には任意で「緑の募金」を呼びかけました。集まった浄財は福島民報教育福祉事業団を通じ、棚倉町の緑化推進委員会に寄付しました。イベントの開催告知や実施記事は「ふくしま緑の百景歩こう会」の大会ポスター、チラシや地元で一番の発行部数をもつ県民紙である福島民報紙面など媒体を通じて福島県内全域に展開しました。

2. 活動の成果

棚倉町の歴史と文化の町並みとともに豊かな自然を満喫しながら、途中3箇所のチェックポイントを回り、町の魅力を再発見していただきました。

当日は天候にも巡まれ、大きな怪我人もなく、無事実施することができました。

今後も緑の百景の選定地を巡りながら、安全で安心なウォーキング大会を継続できるよう事務局として努めます。

また、多くの方の善意により、緑の募金は8万193円集まりました。浄財は棚倉町緑化推進委員会へ寄付されました。

3. 参加者の声

- ・ふるまいがたくさん嬉しかった。歩きがよいあるコースだった。また次回も参加したい。
- ・チェックポイントでのふるまいや、町の方の対応が好印象だった。
- ・棚倉町の山本不動尊が緑の百景の選定地だったことを知らなかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和7年6月22日
事業名	第37回ふくしま緑の百景歩こう会
参加者数	約600人
実施場所	福島県棚倉町

都市と農村の交流事業（第36回ふくしま緑の百景歩こう会）（C-20）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

昭和60年に「国際森林年」を記念して、福島県内の緑の景勝地100箇所を選ぶ「ふくしま緑の百景」選定事業を実施。その記念事業として実施しています。

緑あふれるコースを歩き、自然と緑の大切さを再認識し、環境保全に対する意識の高揚を目的に、毎年開催しております。緑化の推進と参加者の健康増進と開催自治体の活性化を図るために歩こう会という形をとっております。

今回は福島県の県南地方に位置する鏡石町で開催しました。鏡石町のふくしま緑の百景の選定地「鳥見山公園」を中心とした特設コース 全行程約10^{km}を設定しました。

『岩瀬牧場』や町の名所『鏡石鹿嶋神社』など歴史と文化の町並みとともに豊かな自然を満喫していただきながら、途中4箇所のチェックポイントを回りました。

ゴール後は、ムラサキシキブ、コムラサキ、ブルーベリー、ヤマボウシ、ローリエ、マユミの6種類の苗木から1つを参加者に配布しました。その他、ヨーグルト、チーズケーキ、ヤクルトなどのふるまいや、りんごどらやきやくらげうどんなど、鏡石町の産品を配布しました。

参加料は無料とし、参加者には任意で「緑の募金」を呼びかけました。集まった浄財は福島民報教育福祉事業団を通じ、鏡石町の緑化推進委員会に寄付しました。

イベントの開催告知や実施記事は「ふくしま緑の百景歩こう会」の大会ポスター、チラシや地元で一番の発行部数をもつ県民紙である福島民報紙面など媒体を通じて福島県内全域に展開しました。

2. 活動の成果

鏡石町の歴史と文化の町並みとともに豊かな自然を満喫しながら、途中4箇所のチェックポイントを回り、町の魅力を再発見していただきました。

当日は天候にも巡まれ、大きな怪我人もなく、無事実施することができました。

今後も緑の百景の選定地を巡りながら、安全で安心なウォーキング大会を継続できるよう努めます。

また、多くの方の善意により、緑の募金は9万7974円集まりました。浄財は鏡石町緑化推進委員会へ寄付されます。

3. 参加者の声

- ・ふるまいがたくさんで嬉しかった。歩きがよいあるコースだった。また次回も参加したい。
- ・チェックポイントでの麦茶のふるまいや、町の方の対応が好印象だった。
- ・鏡石町の鳥見山公園が緑の百景の選定地だったことを知らなかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年10月13日
事業名	第36回ふくしま 緑の百景歩こう会
参加者数	約600人
実施場所	福島県鏡石町

青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業（A-43）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林・林業に対する理解を深めるため、県内の教育・学校関係者を対象として、本県の林業普及誌である「林業いばらき」に緑化だより欄を設け、教材として配布した。

2. 活動の成果

林業体験学習の募集、実施状況、緑の少年団の指導者に対する情報提供活動などの広まりに効果があった。

3. 参加者の声

緑化だよりで森林整備についてボランティア団体の活動情報や緑化に関わるイベント等の開催について情報を得て参加することができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2,300部/月		計
事業量 又は 事業内容	R6.4 ～ R7.3	県内の教育・学校 関係者に無償配布	毎月 857枚 10,284部
参加者数	県内	857人	10,284人
	県外	0人	0人
	計	857人	10,284人
実施場所	茨城県一円		

緑の体験教室開催事業（A-44）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

子供たちが自然と親しみ、豊かな自然環境を守る心を育成し、森林・緑化への理解を深めることを目的に緑の体験教室を開催した。

2. 活動の成果

自然観察会を通して、子供たちが自然環境を守る心を育むことができた。

3. 参加者の声

（わかな保育園先生）子供たちも自分たちで植えた芝桜や、どんぐりの苗の成長が楽しみに思っています。子供たちと一緒に大切に育てていきます。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月～3月	3月	7月～2月
事業量 又は 事業内容	わかな保育園での、 芝桜植樹・木製プランター へのどんぐり苗植栽	自立奉仕会での芝桜植栽し、 木製ベンチを設置・	県内の森林や自然の観察、 木工工作、丸太切り等の 体験学習 (22回/年)
参加者数	県内	15人	806人
	県外	0人	0人
	計	15人	806人
実施場所	水戸市	笠間市	潮来市 (水郷県民の森)

グリーンフェスティバル開催事業（A-45）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・適正な森林管理の重要性や、利用期を迎えた人工林を有効に活用することが森林の整備にもつながることなど、広く県民に森林や木材利用の大切さについて理解と関心を深めるため「グリーンフェスティバル2024」を開催した。
- ・茨城県内の少年団が集まり活動等の意見交換や、自然観察・木工工作を行った。
- ・閉校する学校内のシンボルの樹木で鉛筆を作り生徒に贈呈した。

2. 活動の成果

- ・多数の林業関係団体等が木工工作や重機の模擬運転、展示等を行い、広く県民に森林や木材利用の大切さについて理解と関心を深めてもらった。

3. 参加者の声

閉校する生瀬中学校、桜川中学校のシンボル「サクラ」利用して「サクラ鉛筆」を贈呈し、「学校生活での思い出となるととても嬉しい贈り物」と感謝された。

実績報告とりまとめ表

実施期間	11月16日	3月7日	3月31日	計
事業内容	グリーンフェスティバル ・木工体験、VR間伐体験、 ブース案内板、コンクール表彰 式看板作成 ・緑の募金運動他	・生瀬中学校のシンボル「サ クラ」の枝条を利用して鉛 筆を作成して贈呈 ・生瀬小学校にヒノキの「リ ンゴチャーム」贈呈	・桜川中学校のシンボル「サ クラ」の枝条を利用して 鉛筆を作成して贈呈	
参加者数	約3,500名	約85名	約125名	3,710名
実施場所	茨城県林業技術センター（那珂市）	大子町立生瀬中学校 大子町立生瀬小学校（大子町）	桜川市立桜川中学校 （桜川市）	

森林ボランティア育成事業（C-17）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林ボランティア団体のスキルアップを図るため、公募により指導者養成講座等を開催し、ボランティア活動の意義と技術の習得を目的に、指導者の育成・確保の学習及び交流を行った。

2. 活動の成果

他団体の活動情報の交換を通じ、今後の活動に生かせることができ、参加ボランティア団体のスキルアップと活動意識の高揚が図れた。

3. 参加者の声

初めてチェーンソーを使った参加者の女性は、「器具の操作方法や注意事項を詳しく教えてもらい伐倒できた事が、大変だったがとても勉強になった。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月8日	計
事業量 又は 事業内容	ボランティア養成講座 除伐、間伐、植樹、記念植樹	1回
参加者数	県内	27人
	県外	2人
	計	29人
実施場所	茨城県水戸市（水戸市森林公園）	

山村地域づくり活動助成事業（C-18）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山村地域の活性化を図るため、地域づくりを実践する森林整備グループ（団体）活動に対して支援を行うことを目的として、公募により助成金を交付する。

2. 活動の成果

県内一円の森林整備を行う団体等に助成金を交付した。

地域住民が自然と触れ合う機会を作り、環境の理解を深めた。また、里山を整備し、再生する一端を担うことが出来た。

今後とも、森林への深い関心を持っていただける取り組みを行う。

3. 参加者の声

ホタル観賞会で50名集合。雨が降り、中止となったが、どうしても見たい10名が現地に向かう。ホタルの数は少なかったが、雨の中の鑑賞を喜び、ホタルが生育できる環境を大切にしたいとの感想がありました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～3月	3月8日	計	備考
事業量 又は 事業内容	森林整備等の活動を行う 団体へ助成金交付	ボランティア養成講座 ・刈り払い等		公募
参加者数	県内 10団体	27人	10団体+27人	
	県外 計 10団体	2人 29人	2人 10団体+29人	
実施場所	茨城県内一円			

緑化樹木等苗木無償配布事業（C-19）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民の緑化意識を向上するため、市町村が開催するイベント等の参加者に対し苗木や花苗等の無償配布を実施して、緑化思想の普及啓発を行った。

2. 活動の成果

無償配布したことにより、各家庭、地域の緑化意識の啓発、高揚を図ることができた。また、無料では申し訳ないと、緑の募金に協力していただいた。

3. 参加者の声

苗木無償配布で頂いた樹木を植えることで、子どもたちに苗木に触れ森林を守る心を育てるきっかけになれば良いと思い参加し有意義な体験ができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月	9月	10月	11月	2月	3月	計
事業量 又は 事業内容	(取手市) ・こども天国 イベント・鯉 のぼりプロ ジェクト	(小美玉市) おみたま大 空マルシェ	(常陸太田市) メープルリー フの森づくり	(土浦市) 土浦市産業祭 (那珂市) グリーンフェ スティバル	(水戸市) ホーリーホック 開幕戦	(神栖市) 白砂青松再生 プロジェクト (水戸市) ・水戸市植樹祭 ・森林・林業協会	9回
苗木受領 協力団体	140人 1団	70人 1団	300人 7団	160人 3団	50人 2団	270人	990人
実施場所	茨城県一円						

「緑や水」「森林と木材の利用」「震災復興支援」など森林の総合的利用の促進（A-46）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

みどり豊かな環境を次の世代へ引継いでいくため、幅広い緑化運動を実施し、秋の緑化運動期間中に、県内23市町、24会場において苗木の配布会を行った。

県土緑化のPRのため任命したマロニエメイツも参加し、苗木配布会では知事の県土緑化メッセージ伝達や幟旗、緑化ポスターを掲出し、参集者への緑化の一層のPRを図った。県域ラジオを活用し県土緑化PRのスポットCMを放送し緑化機運の醸成を図った。

また、木と自然の体験教室を開催し、県産材を利用した親子木工教室や自然観察会に多くの親子が参加した。

2. 活動の成果

マロニエメイツの参加による苗木配布会はPR効果が高く、秋の緑化月間に併せ各市町イベント会場において、苗木の配布と緑の募金の呼びかけ、チラシの配布等で当機構の事業や緑の募金についてご理解をいただき、多くの県民の方々に緑化募金に協力いただいた。ラジオCM放送で、県土緑化の推進及び県民の緑化意識の醸成に努めた。

木と自然の体験教室では、県産材の良さをPRし、また森林の大切さを説明できた。

より一層の緑化の推進と県土緑化の機運醸成、県産材PR、森林の保全のPRに努めていきたい。

3. 参加者の声

- ①コロナ禍でイベントがなかったので、苗木配布会再開を楽しみに来ました。
- ②実がなる苗木の配布は楽しみがあるので大切に育てます。
- ③木工教室や観察会は、小さい子でも参加でき体験させられて楽しいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日～12月1日	10月12日	計
事業量	苗木 5,550本 県域ラジオ放送 28回	木工教室：44家族、136名 自然観察会：4家族、12名	苗木：5,550本 ラジオCM：28回 木と自然の体験教室：延148名
参加者数	約6,000名 放送回数計 28回	148名	約6,150人 放送回数計 28回
実施場所	苗木配布会：栃木県内24会場 木と自然の体験教室：1会場		

群馬県植樹祭開催（A-47）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの県民の参加のもと、緑化思想の普及・啓発を図るため、群馬県、上野村及び林業関係団体等8者共催で、「第78回群馬県植樹祭」を開催。

参加者自らが苗木を植えることで、身近な環境緑化の運動推進と緑化思想の高揚を図ろうとするもの。

2. 活動の成果

・群馬県植樹祭は、緑豊かな住みよい郷土を作るために昭和21年から続いている郷土緑化運動の中心的行事であり、参加者による記念植樹を通じて、県民の森林に対する愛情と理解を培うことを目的に開催されている。伝統ある行事ではあるが、開催地選定や開催規模など効率的な方法を引き続き検討している。

3. 参加者の声

- ・いつまでも森のささやきが聞こえるように自然を大切にしていきたい。
- ・県植樹祭は、上野村での開催は初めて。貴重な経験ができて良かった。
- ・いただいたブルーベリーの苗木、自宅で育てるのが楽しみです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月7日
事業量	第78回群馬県植樹祭
参加者数	800人
実施場所	群馬県多野郡上野村「上野村運動公園」

「木育」活動促進事業（A-48）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

群馬県植樹祭の開催に合わせて、将来を担う子どもたちに森林の大切さや木材利用の有用性を普及啓発するため、開催地の幼稚園、保育園に「木育」教材を提供し、「木育」活動を促進する。

2. 活動の成果

上野村森林組合の協力を得て、「木に触れる」「木で作る」「木で遊ぶ」をテーマとした「木育」セットを提供し、木育インストラクターの資格を有する保育士を中心に「木育」活動を実践し、子どもたちに木材の良さを体感してもらうとともに、保護者にも木材利用の大切さを普及啓発した。

①上野村へき地保育所【園児数45人】

※学童保育児含む

3. 参加者の声

- ・「森っ子」という遊び場で木のおもちゃで遊べてうれしかった（園児）
- ・木で作るキットを活用して親子で製作する活動につなげたい。（保育士）
- ・子どもたちは木のおもちゃが大好きです。（保育士）

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和7年5月30日
事業量	木育セット 4セット
参加人数	45人
実施場所	多野郡上野村大字新羽35

巨樹・古木巡りツアー事業（A-49）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内各地に点在する巨樹・古木の現状と治療状況を樹木医の解説を交えながら観察し、保全の必要性や重要性等の認識と理解を深め、緑化思想の高揚と啓発を行う事を目的として、毎年年2回春、秋に県内4コースにわかれて巡る日帰りバスツアー

2. 活動の成果

県内各地の代表的な巨樹・古木を樹木医の解説を交えながら観察し、直接木々に触れ、歴史を学び、自然を思いやる心、森林の重要性を伝えることが出来た。

また、令和4年から令和6年に樹木医認定された3名が、解説補助として学び、今後のツアーの解説者として期待できる。毎回抽選するほどで、4月5日実施の応募状況は、定員100名のところ367名の応募があり、吾妻コースが157名と一番人気であった。

一度参加された方は、4コース巡りたいと、毎回楽しみにしている。

3. 参加者の声

- ・このツアーは3回目で十数年ぶりの参加。秋も応募したい。
- ・道の駅でもう少し時間がほしかった。
- ・お昼もおいしく、お花見もできて良かった。
- ・浄蔵寺の大イチョウは枝だけで葉がなく残念。葉がついた時にきたい。
- ・センダンの実が落ちていて、鳥が運んでくる事を知り勉強になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月9日	4月5日	計
事業量	巨樹・古木巡りツアー	巨樹・古木巡りツアー	
参加者数	100人	96人	196人
実施場所	群馬県一円		

森と木のまつり（A-50）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

広く県民に森林の素晴らしさ、林業・木材産業の現状、山村の伝統文化・産業等を紹介し、森林・林業への理解の醸成を図るとともに、森林・林業に親しむ機会を提供している。

2. 活動の成果

森林の新しい活用方法を提案し、森と人との関係を見つめ直す場所として“アロマの森”を整備するとともに、植樹・育樹活動を通じた交流人口の増大に寄与した。

会場には、“あなたと森の物語”のモニュメントが設置され、参加者は、アロマの森に香りの元となる様々な木を植樹したあと、食害防止用のネットの取り付けも体験した。

記念品として地元の神流杉、神流檜を使った匂い袋が提供され、木の香りを楽しんだ。

3. 参加者の声

- ・大きく育ってほしいと思った
- ・森と人と動物がもっと仲良くできるといいと思った
- ・アロマの香りに癒やされた
- ・また、来年も来てみたい など

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和7年3月23日		備考
事業量又は事業内容	神流森森と木のまつり&アロマの森植樹祭		
参加者数	県内	人	県内外の統計無し
	県外	人	
	計	100人	
実施場所	群馬県多野郡神流町大字黒田地内		

さいたま森林フォトコンテスト事業（A-51）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林と緑と水の豊かさを再認識すると同時に、林業及び環境保全への理解を深めてもらうため、県内の森林と緑の再発見を目的に、第34回さいたま森林フォトコンテストを開催した。

作品テーマは「森林や緑などの自然風景、またそれらと人間との結びつきを感じさせるもの、または林業への理解を深めるもの。」として募集した。

2. 活動の成果

応募期間は令和7年3月から令和7年5月15日までとして実施し、応募作品は391点であった。同年5月に審査会を行い、特選（知事賞）1点、準特選（緑化推進委員会賞、埼玉新聞社賞）2点、優秀賞（埼玉りそな銀行賞、埼玉県治山林道協会賞、ガイドードリンコ賞、日本製紙賞、AGS賞）5点、佳作12点を選定し、6月24日に表彰式を行った。

表彰式会場での展示のほか、今後埼玉県庁で展示を行う予定である。また、6月23日の埼玉新聞紙上で全入選作品が紹介された。併せて、埼玉新聞社のホームページでも紹介されている。

3. 参加者の声

審査総評：

第34回のお応募点数は391点と昨年のお応募点数を上回った。今年お応募いただいた作品は、森林や公園を訪れた際に出会った光景や、計画を練って万全な準備の者に撮影されたものなど、さまざまな視点から埼玉の四季折々の自然をとらえている。

バリエーション豊かな作品の中から、受賞作品はいずれも心理や緑と人間の結びつき、林業への理解を表現した、コンテストのテーマに沿った作品が選ばれた。撮影者の意欲やユニークな視点により、埼玉の森林と人の関りを彩り豊かに伝えてくれている。受賞作品のコメント欄により、改めて作品の奥深さ、込められた意図に気づくこともあった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月1日～5月15日	5月19日	6月24日
事業量	作品募集	審査会	授賞式・展示
参加者数	391人	15人	40人
実施場所	埼玉県内		

緑の少年団活動支援事業（A-52）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団育成のため、指導者研修を実施した。

また、森林についての理解と相互の交流を深めるため、緑の少年団交流会を開催した。交流会では活動発表のほか、埼玉の自然クイズ、全国植樹祭に関するクイズ、カエデの種まき体験、植樹体験を実施した。

様々な活動を通じて、木に対して親近感を持ってもらうとともに、森林の大切さについて理解を深めてもらった。

2. 活動の成果

次代の緑化運動の担い手である「緑の少年団」活動の推進が図られ、継続して森を守り育てることの大切さが普及啓発された。

3. 少年団の声

- ・研修会で、少年団の活動方法について参考になった。
- ・交流会での発表で、他の団の活動が参考になった。
- ・クイズで、埼玉の自然や木のことが勉強できた。
- ・種まき体験で、埼玉に植わっているカエデの種類がたくさんあることを知った。
- ・植樹は大変だったが、大きく育ったら嬉しい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月29日	10月12日
事業量	研修会	交流会
参加者数	29人	99人
実施場所	埼玉県寄居町、秩父市（秩父市）、秩父市・小鹿野町（秩父ミュージアムパーク）	

緑化普及啓発事業（A-53）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民に対し緑化活動への参加促進を図るため、森林ボランティア団体の活動を情報提供するとともに、秋に開催される農林業イベントにおいて、ボランティアの活動状況等を展示した。

活動情報については、8月から5月の地元新聞に森林イベント情報を掲載し、森林ボランティア活動への参加を呼びかけるとともに、緑の募金についても協力の呼びかけを行った。

イベントについては、11月16日、17日に埼玉県熊谷市のくまがやドーム前広場で開催された彩の国食と農林業ドリームフェスタの会場において、森林ボランティアの活動状況の展示や緑の募金のPRを行って、緑化の大切さやボランティア活動参加を呼びかけた。

2. 活動の成果

新聞の情報を見て問い合わせがあり、森林ボランティア活動の参加者が増えた。

また、イベントにおいて、展示を見ていただいたり募金をしていただくことにより、緑の募金や緑化活動に関心を持ってもらうことができた。

3. 参加者の声

- ・新聞などにより、県内各地で森林ボランティア活動を実施していることを知り、体験活動に参加した。
- ・学校などでも緑の募金に協力している。募金により色々な緑化活動が行われていることを知った。
- ・緑の募金が県内の緑化などの取り組みをしていることがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R6.8～R7.5	R6.11.16～17
事業量	1月を除き、毎月1日にイベント情報掲載	イベント展示2日
実施場所	埼玉県、埼玉県熊谷市	

令和6年度国土緑化運動ポスター原画コンクール（A-54）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

国土緑化運動・育樹運動ポスター原画募集に呼応した、県内コンクールを実施し、次代のみどりづくりを担う少年少女たちに、緑の重要性、自然の素晴らしさ等を絵に表現することを通じ、普及啓発する。

2. 活動の成果

当県のコンクール参加者は全国的にも群を抜いて参加者数が多く、子ども達の関心が極めて高い。作品集の作成、表彰式の実施、入賞作品の展示等、多様かつ一体的に行うことで、単なるコンクールとして一過性の行事に終わらせることなく、学校、保護者等をも巻き込みながら、みどり（森林）に一層親しみを寄せ、理解を深めることができた。

3. 参加者の声

児童生徒（作者）：今後実施される作品展示会に自分の作品を見に行くことを楽しみにしています。

保護者：作品集を遠く離れた祖父母に送って見せてあげたいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月	11月
事業量	応募者数	受賞者数
参加者数	363校、6,585人	366人
実施場所	県内全域	

ふるさとの杜活力調査事業（B-2）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

都内には小さな公園や寺社など、多くの「杜」が点在する。これらは、市街地における美観風致の維持に加え、地域住民の憩いの場や災害時の避難場所としても、古くから重要な役割を果たしてきた。

こうした公共的評価の高い「杜」のうち、区市町村が指定する保存樹や保存林などを中心とした樹林を対象に、樹勢診断と健全度評価等を実施し、その成果を樹林の整備に還元した。

また、本事業を通じて過去に調査を行った「杜」についても、その後の保全や活用の状況を追跡調査して再評価し、地域の取組みの中で「杜」を有効に活用する方策等をまとめた。

2. 活動の成果

今回は、計4か所で調査を実施し、それぞれの報告書を作成した。

杜の活力調査では、中台しいのき公園・中台さとやま公園（板橋区）、岡本静嘉堂緑地（世田谷区）、向川原堤緑道（日野市）にて、樹木や植生の現況、活力度等の調査・評価を行い、今後の管理方法について提言等を行った。

追跡調査では、隅田公園（台東区）にて、前回調査後のサクラの生育状況を再調査し、今後の保全・管理、活用に資する提言等を行った。

上記4箇所の「杜」における樹木の腐朽や枯損等の問題点と課題を明らかにし、具体的な対策を提言としてまとめ、地元自治体へ還元した。今後、利用しやすい「杜」の環境整備と安全確保がいっそう進み、景観の維持や生物多様性の保全等が図られることが期待でき、都市緑化の推進に寄与した。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月9・10日	11月23・24日	令和6年8月～ 令和7年1月	10月26・27日	計
事業量	中台しいのき公園、 中台さとやま公園 樹勢調査、樹木点検	岡本静嘉堂緑地 樹勢調査、 樹木点検	向川原堤緑道 樹勢調査、 樹木点検	隅田公園 生育状況調査、 樹木点検	
参加者数	調査参加者 7人 報告書作成 4人	調査参加者 12人 報告書作成 6人	調査参加者 3人 報告書作成 3人	調査参加者 3人 報告書作成 3人	調査参加者 25人 報告書作成 16人
実施場所	・活力調査：中台しいのき公園・中台さとやま公園（板橋区）、 岡本静嘉堂緑地（世田谷区）、向川原堤緑道（日野市） ・追跡調査：隅田公園（台東区）				

普及啓発卒寿の森づくり事業（A-55）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

22世紀の県民に緑の遺産を贈る木を植える県民運動を広く普及啓発するため、県民一人一人が吐き出す二酸化炭素を自らの植樹活動によって相殺させることを目的とする、県民運動を象徴する森づくりを実施する。

2. 活動の成果

水害で荒廃した三条市大谷ダム周辺で、卒寿の森づくり実行委員会を立ち上げ、参加者を募り、ブナ・コナラを植樹した。活動については会報誌やラジオ、新聞等を通して周知した。

3. 参加者の声

・来年もまた植樹したい。木を植える大切さを知った。もっとたくさん木を植えたい。（関係者）

実績報告とりまとめ表

実施時期	R6年7月～R6年10月
事業量	植樹ブナ・コナラ150本
参加者数	100人
実施場所	新潟県三条市

「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業（秋期）（A-56）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続可能な社会の実現に向け、当委員会は21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、守り育てる「にいがた『緑』の百年物語－木を植える県民運動」を展開している。

この運動への県民参加を一層促進し、「国土緑化の森林づくり」への具体的な行動を喚起するため、①YouTube配信周知、②森づくり活動情報パンフレットの作成、③「国土緑化運動/育樹運動ポスター・標語コンクール」の入賞作品等を展示する「みどりの展覧会」の開催、④新潟県が新潟日報社と共催する脱炭素プロジェクト「だつたんそうしよう！」への参画（協賛）、⑤緑の募金記念植樹用「樹木プレート（樹名板）」の作成・配布を行い、普及啓発活動を展開する。

2. 活動の成果

①ふるさとの環境について理解を促進するため、YouTubeで「当委員会の活動」を発信し、県民一人一人が身近な森林について考え、保護し活動を促し発信内容を通して、新潟の森林について考え、森林への理解を深めること、「緑の募金」協力を広く県民に呼びかけることができた。

②県内で実施される森づくりの活動情報が記載されたパンフレット（秋期版）等を作成して広く県民に配布し、ホームページにも掲載したことで、活動の参加促進を図ることができた。

③「令和6年度用国土緑化運動育樹運動ポスター・標語コンクール」の優秀賞・奨励賞受賞作品や当委員会の活動を紹介するパネル、新潟県産木材を使用した積木などの木製品を展示した。来場者が作品等の鑑賞や木製品に直接触れることにより、森林や自然環境の大切さの理解促進、「緑の募金」の協力や緑化活動等への参加、県産木材の利用によるSDGsへの貢献などについて普及啓発できた。

④「未来のチカラにいがた脱炭素プロジェクト」に参画（協賛）、「緑の募金」への協力や当委員会の活動への参加が、誰にでもできる身近な脱炭素活動であることを紙面やWeb記事にて県民に伝えた。また、プロジェクトを記念し、植樹活動をボランティア団体と市内小学生のコラボにより行った。記事や植栽体験を通じ、森林や自然環境の大切さの理解促進、「緑の募金」の協力や緑化活動等への参加促進に寄与することができた。

⑤新潟県産木材「樹木プレート（樹名板）」を作成・配布し「緑の募金」の協力や緑化活動等への参加を促進、木材利用の重要性について理解を深めることができた。

3. 参加者の声

・「素敵な絵画が見られて良かったです。こどもたちが森や山に興味を持ってくれる未来が作れたら最高ですね」、「みどりの展覧会を開催していただき、ありがとうございます。広い場所で鑑賞できてうれしい限りです」などの感想が聞かれた。（みどりの展覧会）

・脱炭素という言葉はニュースで聞いているけど、なかなか意味は分からなかった。（植えた）苗木が大きく成長して、たくさんの二酸化炭素を吸ってくれる立派な木になってほしいという思いで植えました。（脱炭素プロジェクト）

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～12月	7月～9月	8月	7月～3月	7月～9月
事業量	YouTube 放送周知	パンフレット	みどりの展覧会	脱炭素プロジェクト	樹木プレート
参加者数	人	5,500人 (配布枚数)	82人	30人	626人
実施場所	新潟県全域				

「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業（春期）（A-57）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続可能な社会の実現に向け、当委員会では、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語—木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、会報誌、事務局だより、森づくり活動情報パンフレットの作成を行った。

2. 活動の成果

にいがた「緑」の百年物語県民運動及び国民参加の森づくりへの一層の参加の促進を図るには森づくりや緑化の活動情報を県民に提供する必要がある。会報誌では、植樹した樹木の成長した姿、森からの恵み、活動するボランティア団体の紹介等を広く周知することができた。特に今号では委員会設立25周年を記念した特集記事を組み、委員会のこれまでの取組みをまとめて周知することができた。

また、事務局だよりでは、当委員会の運営を深く理解し、「緑の募金」を促すため、当年度の事業計画のほか、国土緑化運動・育樹運動のポスターや標語の入賞作品、褒賞の受賞者を広く周知することができた。

そのほか県内で実施される森づくりの活動情報が記載されたパンフレット（春期版）を作成し、広く県民に配布することにより、活動の参加促進を図ることができた。

会報誌と活動情報パンフレットにより当委員会の活動は着実に県民に浸透してきており、今後も春期と秋期の2回に分けて継続していく。

3. 参加者の声

- ・自分たちだけで広報するには限界があるので、パンフレット等で活動等の県民への周知はとてありがたい。
- ・イベント情報の掲載期間の範囲が広まったため、年間を通した活動が周知できるようになって良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2月～4月	4月～5月	2月～4月
事業量	会報誌	事務局だより	パンフレット
参加者数	4,000人 (配布枚数)	2,300人 (配布枚数)	7,500人 (配布枚数)
実施場所	新潟県全域		

すが池ビオトープ観察ポイント整備設計・調査委託事（A-58）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

上越市くわどり市民の森内のすが池にビオトープ観察スポットを設置し、訪問した方々が、すが池の植生、水生昆虫や両生類に触れ合える環境を整備する。このため、環境を生かしたビオトープ観察ポイントを造成するために、詳細設計を委託する。委託する内容は、①安全に観察できる場所の確保。②地形改変。③木材、石材、苗木等の配置及び導線計画とする。この業務を通じて、森づくりと一体となった水辺環境整備を促進し、市民の訪問促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起し、身近な森づくりの推進を図る。

2. 活動の成果

整備設計に基づき3箇所のビオトープ観察サイトの整備ができた。

3. 参加者の声

- ・すが池を中心とした豊かな森林を再生させることが着々とすすんでいる。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R6年7月～R6年12月
事業量	すが池ビオトープ設計
実施場所	新潟県全域

森林・木材等普及啓発事業（A-59）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林・木工教室の開催支援

林業関係団体や森林ボランティア団体が実施する、森林教室や木工教室に助成を行った。

緑に親しむ集い

令和7年5月4日（みどりの日）、県民公園頼成の森において「緑に親しむ集い」を開催し、親子連れなどを対象に森林観察やシイタケの植菌体験を実施した。

森林・緑普及広報

事業活動をホームページで紹介し、県民に森林・緑の大切さを普及啓発した。

学校への苗木配布、各種コンクールの募集、表彰を行い、県民の緑化思想の醸成を図った。

県産材を使った木製「緑の羽根」やみどりの募金事業の「PRプレート」を作成し、森づくりや地域緑化の普及啓発と併せて、県産材のPRを行った。

2. 活動の成果

森林教室等の森内散策やシイタケの植菌体験を通して、森の恵みについて楽しく学び、持続的な森林づくりについて普及啓発を行った。

ホームページでの情報発信を通して、身近な森林や緑化に関するイベントへの参加や理解に繋がることが期待できる。

学校への苗木配布、各種コンクールの募集、表彰を行うことで、未来を担う青少年に森づくりや地域緑化の重要性について理解を深める機会となった。

「緑の羽根」を県産材で作成したことで、県の幹部や市町村の首長などが好んで付けていただいた。また、みどりの募金を活用した活動場所にPRプレートを設置したことで、県産材とみどりの募金の「見える化」につながった。

3. 参加者の声

- ・森林の散策は楽しかった。先生（講師）が丁寧に説明されたので森の大切さがよく分かった。
- ・シイタケの作り方が分かった。自分が植えたシイタケを食べるのが楽しみ。
- ・県産材で作った「緑の羽根」はとても良い。付けたくなる。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和7年4月9日	令和7年5月4日	計
事業量	森林・木工教室等の開催 （おおしょう保育園）	緑に親しむ集い	
参加者数	55人	47人	102人
実施場所	富山県富山市	富山県砺波市	

花とみどりの少年団活動支援事業（C-20）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

次代を担う子供たちが「緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる」活動を通じて、緑豊かなふるさとづくりの担い手となるよう、各少年団に運営費と事業費（花とみどりの教室開催費）の助成を行い、各団の活動状況を取集した。

また、花とみどりの少年団員が集う「サマーキャンプ2024」を国立立山青少年自然の家で開催し、自然の中での活動を通じて森林・緑の大切さを学ぶとともに、各団及び団員相互の交流と連帯を深めた。

2. 活動の成果

運営助成を行うことで、各団独自の地域での活動が継続している

また、「サマーキャンプ」については、前年はコロナ禍により休止していた宿泊体験学習を再開したが、参加者が著しく少なかったことや、昨今の教員の働き方改革の流れを踏まえ、事前に各少年団に実施方法と参加希望を照会したところ、参加を希望する団の全てが日帰り実施を望んだ。

このため、午前中は「森林観察」、午後は「木工教室」と「うんこドリル」を使ったふり返りというプログラムで実施したところ、以前ほどの人数ではないものの参加者が増加し、また、少人数ならではの安全に配慮した体験学習が実施できたことから、今後も団や指導者の負担を考慮しつつ、効果的なプログラムに取り組みたい。

3. 参加者の声

- ・森で植物の名や香り、さわりごちを教えてもらった。とても良い香りがした。
- ・日本には森林がたくさんあるので、この状態を保つことが地球温暖化防止につながるということがわかった。
- ・スギの木は主に住たくのはしらになることがわかった。
- ・木を切ったら悪いと思っていたが、木を再利用すれば人間にも環境にも良いということがわかった。
- ・今日の活動によって森林の良さや不思議な所が分かったので、課題を見つけて調べてみたい。

実績報告とりまとめ表

①運営費・事業費の助成

実施時期	通年	計
事業量	運営費・事業費の助成	
参加者数	32団	32団
実施場所	少年団設置校	

②サマーキャンプ

実施時期	8月1日	計
事業量	交通費の助成	
参加者数	6団 39人	6団 39人
実施場所	国立立山青少年自然の家	

緑化思想の普及啓発事業（A-60）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

幅広い県民の緑化意識の高揚を図るため、緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクールの県審査における入選作品の表彰を行った。

また、「県民みどりの祭典」や県立図書館等において、入選作品の掲示を行った。

2. 活動の成果

表彰により応募者のインセンティブが高まるとともに、緑化ポスターに対する関係者の関心が高まった。

また、イベントや県立図書館等における作品の掲示を通して、広く県民に対する緑化思想の普及啓発に役立った。

3. 参加者の声

- ・森や緑の大切さについて、子供たちの視点で絵に表現されている。
- ・表彰や作品展示は、児童・生徒のインセンティブの向上になる。
- ・作品を鑑賞して、子供たちの自然に対する想いの一部が伝わってきた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和7年4月～5月	計
事業量	・緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール優秀作品 ・県民みどりの祭典：掲示、表彰 ・県立図書館：掲示	
参加者数	1,000人	1,000人
実施場所	金沢市、河北郡津幡町	

県内産緑化苗木無償配布事業（C-21）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

幅広い県民の緑化意識の高揚を図るため、緑の募金の推進活動や緑化の普及啓発活動時に県内産緑化苗木の無償配布を実施した。

2. 活動の成果

緑化苗木の無償配布を通じて、広く緑の募金運動や緑化の大切さに対する意識の高揚が図られ、新たに募金に協力する動機付けにつながった。

また、県内における緑化苗木生産部門の振興に寄与した。

3. 参加者の声

- ・森や緑の大切さについて、改めて感謝したい。
- ・今後、緑を守り育てるための協力をしていきたい。
- ・無償配布で頂いた緑化苗木は大切に育てていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和7年4月	計
事業量	400本	400本
参加者数	2,000人	2,000人
実施場所	河北郡津幡町	

森づくりボランティア・キャンペーン事業（C-22）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林に対する国民の期待が多様化、高度化する中、国民参加の森づくり。

運動推進の中核的役割を担う森づくりボランティアのリーダー養成を目的として、県内各地で森づくりボランティア・キャンペーンを展開し、活動基盤の整備及び森林ボランティアリーダーの養成、資質の向上を図った。

ボランティアについては、一般県民を対象に広く募集し、地元の住民との交流、連携に努めながら、各フィールドの森林の現況に応じて、植栽、下刈、施肥、除間伐、竹林伐採等の作業を実施した。

また、現地での作業のほか、セミナー形式で森づくりに関する基礎的知識や、安全のポイント、森林整備の道具・機械類の扱い等の研修を開催し、人材の育成に努めた。

2. 活動の成果

各フィールドの整備が促進されたことに加え、計画的に県内の森づくりボランティア活動を担う人材の育成が図られた。

また、地元住民等との交流を通じて、農山村の活性化に役立った。

3. 参加者の声

- ・里山保全活動についての理解が深まるとともに、今後も積極的に参加したいと思った。
- ・森林・林業・里山の現状を実際体験して理解することができた。
- ・経験豊かな指導者の下、森林整備は重労働だが楽しいと感じた。

実績報告とりまとめ表

①森づくり活動

実施時期	9月28日	10月5日	10月26日	11月16日	11月23日	計
事業量	下刈、除伐 0.3ha	下刈、施肥 0.3ha	竹伐倒整理 0.3ha	竹伐倒整理、植樹 0.3ha	除伐、植樹 0.4ha	1.6ha
参加者数	33人	59人	42人	52人	47人	233人
実施場所	小松市	能美市	金沢市	津幡町	輪島市	

②研修講座

実施時期	7月～11月
事業量	講義7回
参加者数	157人
実施場所	金沢市他3市町

もりとふれあい推進事業（普及啓発事業）（A-61）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくりを通じて次世代の育成を目指した森林教育の推進と、山村地域の活性化・地域づくりの推進を図る。

- ①森の宝でクラフト作り体験（蔓、木の実、枝など使用） ②森の生き物観察（樹木、キノコ、昆虫、野鳥） ③森の散策で健康増進（エビデンス計測） ④森からSDGsを学ぶ（ネイチャーゲーム） ⑤学校林を使った環境教育の推進（混交林の造成）

2. 活動の成果

森からの新たな恵みを体感し、リースやクラフト作りなどを通して親と子が楽しく自然体験ができたこと、森林内でキノコや昆虫、野鳥に接し生物の多様性を感じられたこと、キノコが森からの恵みであることと元気な森づくりに繋がることを理解出来たこと、森林内を歩く事で健康増進が図れることをエビデンスを基に理解できたこと、荒廃したスギ林の現状と森林の循環利用を学習できたこと、森の働きや間伐の必要性が理解できたことなど、森林の散策等を通じて広く県民に森林づくり運動の大切さや、森と緑・水・きれいな空気などの関係の認識が深められた。

今後も大人から子供まで県民が森の中に入り、森の恵みを体験できるイベントを実施する。

3. 参加者の声

- ・普段見ることが出来ない昆虫やキノコ、野鳥や植物が沢山あることが分かった。
- ・森を歩くと色々な発見があって興味が湧いた。
- ・森は季節や天気によって違った景色があり、色々な想像を沸き立たせてくれる。
- ・森林内での有酸素運動（ウォーキング）は、癒し効果がいっぱいと感じた。
- ・リース作りを通して子どもと森の中で自然に触れ合えることが出来た。
- ・荒廃したスギ林の現状と新たな活用方法を学べて良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月8日 10月6日 10月19日	10月26日 11月2日 11月3日	11月10日 11月24日 10月9日	計
事業内容	・クラフト作り ・森の生き物観察 （植物、昆虫） ・森の生き物観察 （草木染体験）	・秋の森林観察 ・森の生き物観察 （野鳥、昆虫） ・各種ネイチャーゲーム体験	・森のウォーキング ・リース作り体験 ・多様な森の造成	9回
参加者数				201人
実施場所	福井市真栗町、福井市角原町、勝山市村岡町 鯖江市西山町、越前市別印町			

ふくいの森林づくり推進事業（活動基盤の整備）（C-23）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくり活動の実践と森林整備の担い手や支え手の森林ボランティアリーダーの養成を図る。

- ・ふくいの森づくりを知る研修会
- ・森を元気に育てる体験会

2. 活動の成果

育樹の大切さの体験、低コスト化して伐採する林業技術、森林資源の循環利用講習で、森林の大切さ、地域材・山村資源の活用等について、子どもから大人まで広く県民に啓発ができた。これからも植樹体験会や効率的な森林整備研修会を実施し、森林所有者や一般県民、ボランティア団体に積極的に森林づくりに参加して貰えるよう努めたい。

3. 参加者の声 参加者の感想

- ・初めて見る機械で初めて木を伐るところを見た。
- ・年輪が出来る仕組みと木の成長の仕組みが学べた。
- ・樹木のシカ被害の現状を見た。
- ・自分の手入れした木が大きくなるのが楽しみ。
- ・森林管理の必要性がわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月27日	11月26日	計
事業内容	森林の循環利用を学ぶ 林業の先進技術を学ぶ	育樹体験 森の働きを学ぶ	2回
参加者数	41名	25名	66名
実施場所	あわら市清滝地区、小浜市学園地区		

普及啓発事業 教職員森林・林業研修 (A-62)

1. 活動の概要

森林内での間伐体験や製材加工施設の視察、木工体験等を通じて、ESDの視点から山梨県の森林、林業の現状や課題と課題解決の取組としての県産木材の利用等について理解を深め、理科・総合的な学習の時間・生活科・環境教育等の指導法の向上を図る。

2. 活動の成果

参加した教員が森林・林業への理解を深め、木材の特徴を学んだ上で木工を体験することにより、児童生徒に対して教育する際のポイントが身につくなど実践力アップが図れた。

3. 参加者の声

- ・午前中は講義、午後は実際に視て体験する流れだったので『知る・見る・体験する』ができて有意義な研修だった。
- ・木材が便利な『道具』となるとところまで見ることは貴重な体験だった。
- ・山梨県の森林の現状・課題が非常にわかりやすく勉強になった。生徒たちにも還元したい内容だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年7月31日	令和6年8月8日	計
事業量	・森林・林業についての講義 ・森林組合施設の見学 ・県産木材を使った木工	・森林・林業についての講義 ・森林内でのネイチャーゲーム体験 ・間伐体験と自然素材を活用した木工	
参加者数	16名	17名	33名
実施場所	・南部町森林組合 南巨摩郡南部町南部8013-1 ・増穂ふるさと自然塾 南巨摩郡富士川町平林3337-11		

普及啓発事業 緑化ポスターコンクール等開催 (A-64)

1. 活動の概要

県土緑化運動の一環として、森林の適切な管理を促すとともに県民の緑化思想の高揚を図るため、県内小中学校の児童・生徒を対象にポスターコンクールを実施する

2. 活動の成果

ポスター、標語の応募を通じて、応募者及び県民の森林や緑に対する関心を深めてもらい、森林環境教育の充実が図られた。

3. 参加者の声

- ・自然と緑とが深く根を張ればいいと思った。強く残り続ける原風景を大切にしたいと思った。
- ・自分のできることで少しでも緑を増やしていけたらいいと考えた。
- ・人間が生まれた理由は、きっと自然を守り今よりもっときれいな世界をつくる為だと思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年7月～10月	令和6年7月～10月
事業量	緑化・育樹ポスターコンクール	国土緑化運動・育樹運動標語コンクール
応募者数	571作品	582作品
実施場所	山梨県内全小中学校（標語は、高等学校・特別支援校・一般も含む）	

普及啓発事業 子ども樹木博士認定事業（A-65）

1. 活動の概要

近年、地球の温暖化防止、山地災害防止、水源のかん養など森林の役割が見直されている中で、森林の中で樹木に触れて名前を知ることを通じて、子どもたちが森林や自然に関心を深め、さらには子どもと親とのふれあいの場を提供するため、子ども樹木博士認定事業を実施する。

2. 活動の成果

森林内の樹木を見たり触れながら樹木の名前や識別方法を学んだ事により樹木に親しみを持っていただけたので、今後も樹木に触れる機会を作り森林環境に対する意識を高めていきたい。

3. 参加者の声

- ・子どもが木についてたくさん関心を持つことができるとも良いイベントでした。
- ・実物を見て触れることはとても大切なことだと思います。
- ・今度森へ行く時に今日習った木を見つけないと思います。
- ・子どもたちが喜んでいました。工作も楽しかったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年7月15日	令和6年8月10日	計
事業量	小学生6名、 未就学児1名 に認定書を授与	小学生4名に認定書を授与	小学生10名、 未就学児1名 に認定書を授与
参加者数	14名（保護者を含む）	10名（保護者を含む）	24名（保護者を含む）
実施場所	武田の杜 山梨県甲府市山宮町片山3371 河口湖フィールドセンター 山梨県南都留郡富士河口湖町船津6603		

普及啓発事業 親子緑の集い（A-66）

1. 活動の概要

森林空間を活用した体験活動や、地域の木材等を利用した工作の学習の場を提供し、親子により緑への親しみを深めるため、親子緑の集い事業を実施する。

2. 活動の成果

親子で森林の散歩やツリークライミング、木工工作の体験を通じて緑や樹木への関心が高まった。このような機会は少ないので、今後も継続することでさらに理解を広げていきたい。

3. 参加者の声

- ・とても充実した時間を過ごす事ができた。
- ・ツリークライミングは高くて怖かったけど『木となかよし』になれた。
- ・一つのを親子で製作する機会もないので良い体験になった。
- ・森林浴して葉っぱのことが知れて楽しかった。子どもも親も勉強になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年7月27日	令和6年11月9日 令和6年11月10日	令和6年11月24日	計
事業量	森の散歩と山梨県の木を使った木工	親子でツリークライミング	クリスマスリース作り	
参加者数	親子20組 46人	親子23組 61人	親子18組 47人	親子61組 154人
実施場所	山梨県甲府市山宮町武田の杜サービスセンター			

普及啓発事業 森林環境教育・木育支援事業（A-67）

1. 活動の概要

- ・木の文化を継承し、森づくりに貢献する豊かな感性を高めるため、次代を担う子どもたちが、木に親しみ、木の魅力を知ることができる場を創設する者を支援する。
- ・令和6年度は、山梨県に事務局を置き、木育を推進する「やまなし森林環境教育・木育推進協議会」が実施する「木製玩具等購入事業」に補助金を交付した。
「やまなし森林環境教育・木育推進協議会」からは、2件の社会福祉法人に木製玩具の購入費を補助した。

2. 活動の成果

子どもたちが木の玩具で遊ぶことで、五感で木の良さを体験することができているので、今後さらに木の玩具の利用者を増やし木の良さを普及啓発していきたい。

3. 参加者の声

- ・子どもたちに、県産木材を使用した木のおもちゃについてみんなと同じように呼吸をしている話をした。自ら気づき、考え、大切にものを扱う姿が見られる。
- ・本物の木に触れることで、ぬくもりや木の重さや材質を感じ、時間が経つ事で変化する木の姿を感じ、ものを大切に扱うことの大切さを知ること繋がる。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年8月30日から 令和6年12月23日まで	令和6年9月3日から 令和6年12月23日まで	計
事業量	○社会福祉法人神苑福祉会こども園 仁 木製玩具5個購入	○社会福祉法人ゆうゆう キヅキ 木製玩具2個購入	木製玩具7個購入
参加者数 (利用者数)	68名	49名	117名
実施場所	社会福祉法人神苑 こども園 仁 社会福祉法人ゆうゆう キヅキ	山梨県上野原市鶴島2292 山梨県韮崎市栄1丁目2-5	

緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業（A-68）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑豊かな住み良い郷土づくりを進めるため、森林の重要性等について県民の一層の理解と関心を深めるべく、県内各地区の実情に応じた植・育樹祭、講演会・表彰式、緑化木の頒布、みどりの少年団交流集会、学校での森林・環境に関する図書購入等の普及啓発活動を実施した。

青少年の森林環境教育としては、郷土の森林と川を題材とした当基金オリジナル絵本（第10作目）『森のくまさん北アルプスのたび②』を発刊し、県内の全小学校、特別支援学校をはじめ、題材となった地域の全保育園・幼稚園に寄贈した。

また、当該絵本のPRとして「木曾おもちゃ美術館」で絵本の常設展示及び8月の夏休み期間には、絵本原画展、大型スクリーンを使った読み聞かせ会を開催した。安曇野市穂高の「絵本美術館森のおうち」及び長野市の「信濃教育会博物館」でオリジナル絵本原画展の開催、大阪市の万国博覧会会場でオリジナル絵本の読み聞かせライブイベントを実施した。読み聞かせライブイベントでは、絵本場面16点を大型印刷し、紙芝居形式で場面展開と朗読を行った。

2. 活動の成果

植樹祭や育樹祭においては、地域住民に対して森林環境の大切さや森の恵み・木材利用について理解を深めてもらい、さらなる健全な森林づくりの機運を盛り上げるとともに、緑豊かな住みよい県土づくりの推進が図られた。

また、当基金のオリジナル絵本を発刊、原画展の開催や読み聞かせ会を通して次代を担う青少年育成に良好な効果が期待できると考える。

3. 参加者の声

クリーンブック活用事業（森林、自然、緑化関係図書購入）に寄せられた児童生徒の声。『いきものづきあいルールブック』より「身近な動物についての法律はもちろん、長野になじみのない海についての法律もマンガを読めば、だいたいわかって、いいなと思います。』『びっくりまつぼっくり』より「まつぼっくりが水にぬれると閉じ、乾くとまた開くことを知らなかったの自分でも実験したいと思いました。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年7月1日～令和6年6月30日	計
事業量	植・育樹祭等の開催	4地区（4市村）
	講演会等の開催	3地区（3市）
	環境緑化	1地区（1町）
	環境教育	2地区（7市町村）
	緑化木の頒布	2地区（12市町村1,535本）
	絵本発刊・贈呈	11地区（77市町村）
参加者数		2,055人
実施場所	松本市、飯田市など	延77市町村

緑化推進キャンペーンと資材供給事業（A-69）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

樹木を増やすことや守り育てることの理解の深まりと将来の緑化を担うみどりの少年団活動を支援するため、緑化用の苗木の提供やみどりの少年団活動に必要な教材の提供を行い、緑化推進に繋がる活動を行った。

(1) 植木祭り

生活環境保全林などでのイベントで苗木を配布したほか、地域の植樹祭において、苗木を植栽した。

(2) みどりの少年団活動支援

みどりの少年団の活動を支援するため、活動手帳「スケジュールノートブック」と「名木ノートブック」をそれぞれ6,200部作成し、みどりの少年団へ配布した。

2. 活動の成果

(1) 植木祭り

苗木の配布や植栽を契機に緑を大切に地域住民の意識が高まった。

イベントについては、苗木の無料配布により、「緑の募金」への協力が繋がった。

(2) みどりの少年団活動支援

少年団活動に必要な冊子や資材を配布し、子どもたちに身近な緑や樹木に対する興味を喚起することができた。

今後もテーマに配慮して作成していきたい。

3. 参加者の声

(1) 植木祭り

中津川市川上地内の総合グラウンド周辺は毎年植樹祭を開催し、モミジの名所にもなっていることから、これからも植樹活動を続けていきたい。

子どもたちが植えた苗木がすくすく育って行ってほしい。

いただいた苗木は大事に育てたい。

(2) みどりの少年団活動支援

県内には、いろいろな名木があることがわかり、身近にあるものを見つめることにした。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和7年4月～6月	令和7年4月～6月	計
事業量	植木祭り 苗木本数 748本	みどりの少年団用冊子 12,400部	
参加者数	718人	6,200人	6,918人
実施場所	植木祭りは岐阜県大垣市、東白川村、御嵩町、中津川市、下呂市 みどりの少年団は県内全域		

恵みの森づくり事業（C-24）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

恵みの森づくり事業は、人々と森林や樹木とのふれあい機会を創出するとともに、森林や樹木の恵みを得られるよう、地域のシンボルとなる森林や樹木を整備することを目的としている。

山いささの会は、「せせらぎ街道」沿いの伐採跡地を放置することなく、街道を通行する観光客にも景観を楽しめるよう花や紅葉の美しい広葉樹の森を整備するため、地域の住民、小学生、企業の職員とも伐採跡地への植樹活動を通じて子どもたちとともに育む豊かな源流の森づくりに取り組んでいる。

2. 活動の成果

今回の活動では、地域住民、子どもたち及び地域の企業職員が協力し、実施することができた。

今後も観光の主要道路でもある「せせらぎ街道」沿いの森林を整備し、景観を維持していくともに子どもたちの未来につなぐ源流の森づくりに取り組んでいきたい。

3. 参加者の声

- ・長良川の清流を森林が守り育てていることが実感できた。
- ・植えた木の成長を見ることができ、樹木に対して愛着がわいてきた。
- ・地域の人達と力を合わせて植樹したので、連帯感や達成感が得られた。
- ・街道沿いの景観整備が出来て通行の際に見るのが楽しい。

実績報告とりまとめ表

恵みの森づくり 実施時期	山いささの会 令和7年4月1日～5月21日	計
事業量	里山の広葉樹植栽 150本 面積：0.5ha	広葉樹苗木 150本
参加者数	18人	18人
実施場所	岐阜県郡上市八幡町初納地内	

森づくり県民大作戦支援事業（A-70）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林・緑・水に対する理解促進と森林を社会全体で支える県民意識の醸成を図るため、①森づくりグループ、②県との連携により森づくり活動への参加の拡大を推進した。

① 森づくりグループとの連携による参加拡大

「森づくり県民大作戦」の参加者を拡大するため、参加を呼び掛けるチラシを秋と春の2回作成し、森づくりグループなどに送付するとともに、県自然ふれあい施設など55箇所にて配架した。

② 県との連携による参加拡大

県と連携し、県内各地で、森林・林業体験、木工作など森林・里山の大切さを知る「森づくり県民大作戦」を県民の参加を公募して7回開催した。

2. 活動の成果

① 森づくりグループとの連携による参加拡大

森づくりグループとの連携による「森づくり県民大作戦」は、県内各地で491行事が開催され、10,053人の県民が参加した。

② 県との連携による参加拡大

県と連携した「森づくり県民大作」には、公募等を通して226人が参加し、参加した県民は森林に触れ、楽しみながら、森林の大切さを学べた。

今後も、静岡県とともに、県民参加の森づくり活動を推進する。

3. 参加者の声

- ・参加者からは、「木を切った後、林内に光が差し込むのを見て、間伐の必要性を改めて感じた」「5年生の社会科の中で、身近に見えて教師も実はわかっていることが少ない内容だと実感した。子供たちにもプロの姿を見て欲しいと感じた」「自然と触れあう貴重な体験ができて満足している」などの感想を聞くことができた。
- ・スタッフからは、「キノコ図鑑を持参して参加する子どももおり、森林環境教育に触れるきっかけとして有効であると思った」「申込初日に定員を超える申込があった。この時期の恒例行事として地域の方々に認識されていることが感じられた」などの感想を聞くことができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月1日～6月30日				県主催	計
	4月1日～6月30日	9月15日～12月15日	その他	小計		
事業量	176行事	201行事	114行事	491行事	7行事	498行事
参加者数	4,471人	3,722人	1,860人	10,053人	226人	10,279人
実施場所	静岡県内 各地					

森林ESD推進事業（C-25）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

① 緑の少年団交流集会

次代を担う緑の少年団と団員の育成と交流を図るため、夏、秋、冬の3回実施し、森林や緑の大切さを学んだ。

第1回：富士山樹海トレッキングと洞窟探検

第2回：アウトドア・アドベンチャー体験

第3回：森のめぐみでクリスマス☆

② 森林ESD出前授業

協力の得られた市町の小学校を対象に、改訂された小学校学習要領に対応した森林ESD出前授業を実施した。

推進チームによるプログラムのブラッシュアップと、インタープリターの養成、普及啓発等を行った。

2. 活動の成果

① 緑の少年団交流集会

・開催場所を変えることにより東西に長い静岡県の森林を体感するプログラムを実施することができた。

・企画運営団体の特色を生かしたプログラムによる交流集会を継続して実施する。

② 森林ESD出前授業

・16校で、909人が森林ESD出前授業を受けた。

・市町の理解を促すとともに、出前授業を実施できる人材を育成する。

3. 参加者の声

① 緑の少年団交流集会（指導員）

・森の中には、日常の生活と繋がりあるものが次々発見できた。

・いずれのプログラムも新鮮で、いっそう森林に興味を持てた。

② 森林ESD出前授業

・森林や林業は、遠い存在だったが、身近に感じる事ができた。

・子どもたちから「つぶやき」が出て、自ら学ぼうとしていた。

・「人工林・天然林」等、今後の授業に役立つ内容であった。

・楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7.26	10.5	12.21	9月～2月	年間
事業量	交流集会 (第1回)	交流集会 (第2回)	交流集会 (第3回)	森林ESD出前 授業の実施	推進チーム運営 人材養成 普及啓発
参加者数	39人	26人	20人	909人	-
実施場所	山梨県鳴沢村	浜松市	静岡市	富士宮市ほか	-

普及啓発 みどりに親しむ集い事業（A-71）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域の住民各層が自然とふれあい、みどりに親しむと同時に、森林整備作業や間伐材の木工工作などを体験することを通し、森林や緑の大切さを理解し、緑化意識の高揚を図った。

2. 活動の成果

森の手入れをすることで、暗かった森林が明るくなり多様な生物が生息できるような環境になっていく様子が分かった。「市民参加による子ども森林ひろば作り体験」などの体験イベントには715人の参加があり、森林整備・緑化推進の意識が高まった。

また、木工教室には1,408人の参加があり、子どもから大人までが工作を通し木とのふれあい体験を行った。山村交流では、イベント等を通じて森林・林業に理解と関心を深める機会を提供した。

3. 参加者の声

暑かったけど山の中の作業は気持ちよかった。

山で切った木を運びましたがとても重かった。

森の中でブランコに乗りました。楽しかったです。

お母さんと木に絵をかきました。家にかざります。

木の工作を楽しみに毎年来ています。

どんぐりでかわいいどうぶつができました。

実績報告とりまとめ表

・山村交流

実施時期	令和6年9月28日～令和6年10月19日
事業量	・木の体験（積み木） ・三河材のPR ・箸、プランター作り ・ゲームを通じた木育の展開
参加者数	524人
実施場所	桜淵公園・豊橋商工会議所

・作業体験

実施時期	令和6年7月21日～令和7年1月13日
事業量	・遊歩道整備体験 ・遊び場作り体験 ・木つかい体験 ・森林作り体験 ・みろくの森除伐体験 ・木工、クラフト工作 ・シイタケ菌打ち体験
参加者数	715人
実施場所	瀬戸市上半田川町「遊々の森」、春日井市廻間町（みろくの森）他

・木工教室

実施時期	令和6年10月12日～令和6年11月17日
事業量	・ミニチュア椅子作り、木製輪投げ ・プランターカバー、花台、ミニベンチ、黒板、箸作り ・椅子、木箱、木製踏み台作り
参加者数	1,408人
実施場所	犬山市民文化会館、岡崎市乙川河川敷、豊富小学校運動場

みどりフェスティバル24秋・25春 事業 (A-72)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然や緑とふれあい親しむ機会を通じ、森林・木材の大切さを理解していただくため「みどりフェスティバル24秋・25春」を開催した。

身近な自然を感じる缶バッジの作成や、最も身近である家庭での緑化を推進するため、果樹・アジサイの苗木等を秋・春で1,030本配布した。

今回は、晴天に恵まれ多く来場者があった。また本館講堂では、令和6年度の緑化ポスター原画コンクールの入賞作品の展示も行った。

2. 活動の成果

みどりフェスティバル24秋・25春のイベントに参加された多くの方が、自然や緑と親しむ機会を得て、各々が緑化の大切さを理解する契機となり、地域緑化の推進にも大いに貢献できた。

来場者には家族連れが多く、子供たちが緑とのふれあいを楽しむ声が多く聞かれた。また、春・秋を通じて来場していただいている方からは、フェスティバルの継続を望む声も聞かれた。

今後も、多くの方に自然や緑と親しんでいただけるイベントとして取り組んでいきたい。

3. 参加者の声

緑の募金に募金できてよかった。

緑の募金の使われかたがよく分かった。

缶バッジがとても気に入りました。

フェスティバル、楽しい時間を過ごすことができました。

貰った苗木を家で大切に育てたいと思います。

イベントが楽しみです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2024年11月23日・24日 2025年5月3日～5日	計
事業量	みどりフェスティバル 24秋 催し物 25春 催し物	
参加者数	24秋 44,000人 25春 146,200人	190,200人
実施場所	愛知県豊田市西中山町（愛知県緑化センター）	

苗木の育成と配布事業（愛知県植樹祭）(A-73)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑化に対する意識の高揚を図り、みどり豊かで快適な環境づくりを推進するため昭和23年から愛知県植樹祭を毎年開催している。植樹祭では参加記念として緑化木を配布（フェイジョア）している。

開催市内の小学校にアジサイの挿し木を行い、学校で育てる苗木のスクールステイを実施し、成果を植樹祭で披露した。

2. 活動の成果

小学生の児童が挿し木を体験することにより、緑の大切さを感じ、知ることができた。また、緑が将来に繋がる活動にもなった。

児童にとって挿し木は経験もなく興味を持って取り組んでいた。挿し木苗が大きく成長する話では、みな驚いていた。

植樹祭で多くの方が苗木（フェイジョア）を持ち帰ることにより、身近（家庭）な緑化の推進に繋げることができた。

3. 参加者の声

挿し木をしたのは初めてです。

アジサイが来年の春にさくのが楽しみです。驚きです。

私が挿したアジサイが、育つことに感動します。

植樹祭に参加ができた。緑の大切さを感じた。

子どもから大人まで、多くの方が緑化表彰をうけている。緑の繋がりを感ずることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年10月	令和6年10月～ 令和7年5月	令和7年5月31日	計
事業量	挿し木（3小学校）	育成（3小学校）	愛知県植樹祭 （小牧市）	
参加者数	44人	44人	500人	588人
実施場所	挿し木（小牧市 3小学校）・育成（小牧市 3小学校）・愛知県植樹祭（小牧市）			

調査研究 ふるさと樹木診断事業（B-3）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

古くから地域の人達に愛され親しまれてきた巨樹・名木等（ふるさと樹木）を県民の財産として守り育て後世に引き継ぐために、その樹勢等を診断し、保護・保存のための基礎データを収集した。

樹勢診断は、市町村条例等で指定されている樹木、又は地域のシンボリックな樹木のうちから市町村の要望に基づいて31本の診断樹木を選定し、一般社団法人愛知県樹木診断協会に委託し実施した。

診断終了後、報告書を関係市町村、所有者に戻し、今後の樹木の手当に役立っている。

2. 活動の成果

ふるさと樹木を保護・保存する基礎データを収集することにより、後世まで、大切な「ふるさと樹木」を引き継ぐ方法を検討するのが容易になる。また、診断結果から手当に結びつくこともあり、貴重な事業として評価を受けている。

緑化意識の高揚、地域緑化の推進に大いにつながっている。また、地域からの要望も非常に高く、今後も継続して実施する予定である。

平成6年からのデータの蓄積（1,547本）もあり、保護・保全に役立っている。

過去のデータをまとめ、情報の共有を進めている。

3. 参加者の声

- ・地域には多くの名木があるので、事業の継続をお願いする。
- ・年間の診断本数を増加していただきたい。
- ・手当の方針や経費の算定に役立っている。（過去の診断木）
- ・診断結果を参考に、地域のシンボルをいつまでも守っていききたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期 (委託)	委託期間 委託完了	令和6年9月11日～令和7年2月20日 令和7年2月12日
事業量	樹木診断本数	31本
実施場所	愛知県内	21市町

活動基盤整備（活動基盤の整備）（C-26）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森の応援団となる間伐ボランティアを育成するため、森づくりへの考え方やチェーンソーを用いた間伐方法などを学ぶ。

2. 活動の成果

受講者によって新たなボランティア団体が設立され、市内の森林で継続的な自主活動が行われた。今後、山村地域にはボランティアの方々が何度も訪れ、その活動が様々な人の目に留まることによって、山主や地域、ひいては社会に対して森林整備の重要性が普及していく。

3. 参加者の声

- ・林分調査を実際に行い自分の感じた見た目と必要なことに差があり驚いた。
- ・すごく力仕事かと思いましたが、非常に頭を使うもので難しいと思う反面、面白いと思いました。
- ・山林の荒廃は下流域に大きな影響を与えること。木の正しい倒し方の実演とチェーンソーの取り扱い方を学べた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年9月～12月		計
事業量	① 間伐ボランティア初級講座（3日間）	② フォローアップ講座（3日間）	
参加者数	48人	27人	75人
実施場所	愛知県豊田市		

みどりの少年隊活動推進 (A-74)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内のみどりの少年隊の活動の活性化を図るため、県内の4隊にそれぞれ4万円の活動助成を行い、体験活動の施設利用や必要な装備品や資材の購入などを支援した。

また、みどりの少年隊交流集会については、令和6年12月7日(土)に名張市赤目市民センターで開催した。隊員たちは活動発表、竹あかりの制作体験を行った。

2. 活動の成果

令和6年度は4隊に対し施設利用や装備品、活動資材を支援することで、各隊の活動の支援を行うことができた。

また、交流集会では、午前と午後交互に2つの体験活動を実施した。野外での体験活動ではネイチャーガイドによる楽しい話に見聞が広がり、屋内での体験活動では竹あかりの制作体験で道具の使い方を学び、物を作りあげることの楽しみを実感することができた。体験活動終了後に各隊から活動発表を行ったことで隊員同士の交流が活性化することができた。

森林や林業への関心や理解を高めるため、引き続き、みどりの少年隊の活性化に向けて引き続き取り組んでいきたい。

3. 参加者の声

- ・体験活動が楽しかった。
- ・竹あかりを自分の部屋に置いて楽しめます。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月～12月	12月17日	計
事業量	活動支援4隊	交流集会	
参加者数	61人	26人	87人
実施場所	三重県内一円 名張市赤目市民センター(名張市)		

森林教室開催 (A-75)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

第1回「マイ箸作り」(令和6年10月27日)

松阪市農業公園ベルファームで開催された「第14回くるくる環境フェスタ」で、木工工作体験教室を実施した。

第2回「シイタケ菌打ち体験」(令和7年1月11日)

松阪市森林公園で、原木シイタケの試食とシイタケ原木の菌打ち体験教室を実施した。

2. 活動の成果

森林教室では、森林教育指導者「森のせんせい」に体験指導だけでなく、森や木、きのこの話など森への理解や関心を深めるような話をさせていただいており、森林や樹木に対する理解や関心を深めることができた。

3. 参加者の声

- ・作ったマイ箸を家で大切に使いたい。
- ・シイタケができるのが楽しんだ。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月27日	1月11日	計
事業量	木工体験マイ箸作り	シイタケ原木菌打ち体験教室	
参加者数	親子14組40名	親子24組77名	38組117名
実施場所	松阪市森林公園ベルファーム (松阪市)	松阪市森林公園 (松阪市)	

森林ボランティア活動促進（A-76）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- (1) 概ね20名以上の県民が参加する森林教育等のイベントを実施する森林ボランティア団体に対する10万円を限度とする助成
- ①手づくり木工房「春と木の風」は、伊賀市内の小学校及び工房において、森林学習及び間伐材を使った木工工作体験を行った。(延べ16回開催、112名参加)
 - ②竹林整備隊は、小学生等を対象に丸太切り体験や竹ポックリ制作体験教室を実施した。あわせて来場者に対して県産材の利用に関するアンケート調査を実施した。(76名参加)
 - ③鍋坂里森保全の会は、昨年度森とのふれあい促進事業において整備した林地において、四季を通じた自然観察会の開催や自然遊具探しイベント等を開催した。(98名参加)
 - ④特定非営利活動法人桑竹会は、放置竹林の解消を目指す活動の一環として、小中学生や地域住民とともに竹あかりの幽玄の空間における音楽会を開催した。(575名参加)
 - ⑤特定非営利活動法人竜の森林は、近隣の「木育の森」において、自然観察指導員を交えて森林散策やコナラやアラカシ等の苗木50本を植栽し、市民の方々に親しんでいただける森づくりを行った。(25名参加)
 - ⑥里山を知る会は、近隣の森で採取し自家養苗したクヌギの苗木を一般公募の参加者44名とともに植樹活動を行った。
 - ⑦山造り研究所は、小学生が森林の有する公益性や多様性を理解していただくために、人工林を科学的に調べる林業体験イベントを開催した。(45名参加)
 - ⑧いなべ薪倶楽部は、いなべ市民の方々に森林管理の大切さを学んでいただくため、間伐や薪割り体験イベントを開催した。(103名参加)
- (2) 森林ボランティア団体研修交流会の開催
令和7年1月18日、津市の三重県教育文化会館において研修交流会を開催した。16団体27名が参加し、基調講演「集客に向けた広報活動とイベントの安全管理について」及び各団体の活動報告を行った。

2. 活動の成果

森林ボランティア団体等の活動に支援することで、県内各地で一般参加を得て森林関係イベントが開催され、森林活動の大切さ、森と触れ合うことの楽しさ等の普及啓発を図ることができた。

3. 参加者の声

各団体が実施するイベントの参加者からは好評をいただいているとのことで、活動基盤の弱い団体にとっては、当助成によって活動が広がり子どもたちに森林教育の機会を提供することができるため、事業継続を求める声が寄せられている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	活動支援5隊	1月18日	計
事業量	助成団体9団体	研修交流会	
参加者数	1,078人	27人	1,105人
実施場所	三重県内一円（活動助成） 三重県教育文化会館（津市桜橋）		

県民参加の森林づくり運動推進（巨樹・古木見学会、クマノザクラ観察会）（A-77）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

一般県民に森や木とのふれあいを通して森林や樹木への理解を深めてもらう目的で、令和6年11月9日（日）に、東紀州地域（御浜町、紀北町、尾鷲市）の巨樹・古木をバスで巡る見学会を実施した。

また、令和7年3月20日（木）には、新種の野生サクラとしては約百年ぶりに発見されたクマノザクラの観察会を熊野市紀和町で実施した。

いずれも、日本樹木医会三重県支部に案内を依頼して実施した。

2. 活動の成果

地域にある巨樹・古木や地域固有の樹木を知ってもらうことを通じて、森林の良さや樹木保護の大切さを認識してもらうことができた。

いずれも募集人数を大きく上回る多数の応募があり、また参加者からも好評をいただき、引き続き実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・有意義な一日をありがとうございました。頂いた資料で県内の多くの巨樹・古木を知ることができ感謝しています。
- ・ソメイヨシノと違ってクマノザクラをはじめて見ることができ感激した。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月9日	3月20日	計
事業量	巨樹・古木見学会 1回	クマノザクラ 観察会1回	
参加者数	28人	30人	58人
実施場所	東紀州地域（御浜町、紀北町、尾鷲市） 熊野市紀和町内		

海・山連携植樹活動実施（A-78）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山村地域と漁村地域の相互理解を深め、森林づくりについて自発的な協力関係を築くことを目的に三重県漁業協同組合連合会に対して漁業者が行う植樹活動の助成を行った。

植樹活動は令和7年3月8日（土）に地元の森林組合の協力のもと実施され、漁業関係者など50人が参加し伊勢湾に注ぐ雲出川上流にイロハモミジ22本、ヤマザクラ22本を植樹した。

2. 活動の成果

海・山連携で漁業関係者による植樹活動が森林組合の協力を得て実施された。漁業関係者からは引き続き植樹を実施してきたとの声をいただいております。森林が川や海にもさまざまな恩恵をもたらしていることの理解が深まっていることが感じられる。

3. 参加者の声

- ・様々な団体が参加することで、漁業者以外との交流が増えた。
- ・マスコミに取り上げられるなど活動を広く周知することができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月8日	計
事業量	植樹活動	
参加者数	50人	50人
実施場所	津市美杉町八手俣（君ヶ野ダム湖周辺）	

活動基盤整備・緑の少年団育成強化事業（C-27）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団50団、5,610人の日常の活動を支援するとともに指導者研修会や交流会等を実施し、緑の学習や実践的な活動等の促進を図ることが出来た。

2. 活動の成果

緑の少年団への育成強化活動の支援により、緑を愛する心豊かな人間に育っていくことが期待出来る活動を実施することが出来た。

具体的には、「緑の少年団地区交流会」（県内5地区）の開催により、団員間の交流や団結・協力が図られ、互いに緑化意識を高めることが出来た。

また、平成26年度に創設した「緑の少年団サポーター制度」に基づき、滋賀森林インストラクター会の協力のもと、指導者研修会を県内8か所で開催し、またそのフォローアップとして個別指導を4団で実施した。これらによって、各団指導者の緑化に対する意識の高揚と資質の向上を図ることができた。

今後は、さらに当制度の充実を図り、より一層指導者の育成と少年団活動を推進していく。

こうした取り組みを機関紙「びわ湖緑の少年団」を発行して、広く広報していく。

3. 参加者の声

支援活動を通じて、森づくり・緑づくりの重要性を十分に理解することができ、それらを支える緑の募金の啓発活動をより一層積極的に進めていく必要があることを実感する声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	通年	7月～9月	8月～3月	7月	計
事業量	個々の緑の少年団の一年間の様々な活動に対して支援	指導者研修会 8回	緑の少年団地区交流会 5地区	広報誌の発行 7,000部	
参加者数	5,610人	65人	171人		5,846人
実施場所	県下一円	みなくち子どもの森 (甲賀市) 他7箇所	高取山ふれあい公園 (多賀町) 他4箇所		

京都モデルフォレスト運動連携強化事業（A-79）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

モデルフォレスト運動における多くの「人とのつながり」「地域、企業、団体間をつながり」をさらに強め、活かし、広げることによる運動のさらなる発展を目指して、各種の活動を行った。一般府民を対象とした「府民公開講座」「日帰りツアー」のほか、次世代を担う子ども向け企画として緑の少年団、保育園・幼稚園を対象とした事業を実施した。また、国際モデルフォレストネットワーク加盟団体としてのネットワークを活かし、情報発信を行った。

2. 活動の成果

一般府民向け、次世代向け行事では、多様な参加者層を対象とし、京都の森林に親しみ、学びを深めてもらう場所を提供し、継続しての参加など運動への理解を広げることができた。また、フィールドでの行事開催以外にも、自宅や保育園等で森林や自然への親しみを持っていただくための事業を展開し、その後の行事参加に繋げるなどの効果を得た。

3. 参加者の声

- ・中川八幡宮にある北山杉の母樹の存在感に圧倒され、その長い歴史に感動を覚えた。北山林業の長い歴史に改めて想いを巡らせ、時間をかけて丁寧に生産された北山杉について触れ、もっと学びたい、魅力を知る人を増やしたいと強く感じる一日となった。（府民公開講座—北山杉を知る）
- ・林業の現場見学では、最新の重機による木を倒すスピード、枝を打つ速さ、カットする正確さ、次の動作へ移る重機との連携など、ほんとうに作業が進化していることに衝撃を受けた。林業経営は新たなフェーズに入り、環境保全や森林との好循環を果たすSDGs経営の視点を持つ新たな人材の育成が今後の課題と感じた。（府民公開講座—ふるさとの森と木づかい）
- ・カスタネット用の丸太のスライスを見て、この木は17歳か！と年輪を数えて楽しそうでした。（未就学児向け—森のえほんクラブ）
- ・おもちゃを開けた瞬間に木のいい香りが漂いました。児童たちも「いい匂い～」と言いながら嗅いでいました。物語が書かれた絵本だけでなく、写真絵本など多様な種類の絵本をいただけたので、小学部の児童だけでなく、中学部の生徒も本を楽しむ姿が見られました。（園向け環境教育支援事業—絵本と木のおもちゃの提供）

実績報告とりまとめ表

事業量	府民公開講座・日帰りツアー				次世代向け環境教育事業				
	北山杉を知る	片波川源流の伏条台杉群	芦生研究林の自然	京丹波で巡る-ふるさとの森と木づかい	夏休み森の教室2023	木工教室五感体験	森のえほんクラブ2024春	緑の少年団向け「京都の木を使った木工キット」提供	園向け環境教育支援
実施時期	R5.10.13	R5.10.27	R6.5.17	R6.6.14	R5 7～8月	R5.11 25、26	R6 4～5月	R6 4～5月	R6 5～6月
参加者数(人)	22	9	8	29	50	280	30	175	320
実施場所	京都市北区	京都市右京区	南丹市	京丹波町	自宅	京都市南区	自宅	各団	府内各園

府民参加の森づくり (A-80)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの府民が森林・みどり・水、あるいは、そこに培われる多様な生き物を身近に感じ、森林と生物多様性の重要性について理解を深めるため、情報発信を行うとともにイベントを開催した。

①情報発信・普及啓発

- ・事業報告発行部数：1,840部
- ・メールマガジン配信回数：9回（2024年7月～2025年3月・月1回）配信数：約600件/月
- ・SNS（Facebook）記事掲載回数：39回平均リーチ122（3月平均）
- ・SNS（Instagram）記事掲載回数：35回
- ・リーフレット配布数：約1000部
- ・パネル展示 7/8～7/31
- ・イベント出展（10/6、10/26、11/9、11/16、11/17）

②イベントの開催

- ・7/28地黄湿地観察会：参加者18名
- ・9/22タガメの田づくり：参加者36名
- ・10/23地黄湿地観察会：参加者15名
- ・11/23三草山山麓ハイキング：参加者10名
- ・12/1 タガメの田づくり：参加者49名
- ・12/14・12/21三草山防鹿柵設置大会：参加者延べ47名

③自然環境保全地域支援

府内5か所の社寺林において自然環境保全活動に対して助成。

2. 活動の成果

大阪府内での貴重な自然環境、それを保全管理する必要性について、理解者が増えた。特に、鹿による下層植生の食害について、防鹿柵設置大会というイベントを開催し、対策の重要性を伝える機会を設け、多くの方に普及啓発することができた。

3. 参加者の声

- ・さまざまな生きものが見られて楽しかった。
- ・もっとたくさんの方が参加されるといいと思う。
- ・初めて知ることばかり。専門の方の知識を教えてください、感謝です。

実績報告とりまとめ表

実施時期	通年	通年	計
事業量	イベント実施	情報発信	
参加者数	のべ175人	のべ約20,000人	のべ約20,200人
実施場所	大阪府内		

地域緑化イベント開催事業（A-81）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

第17回里山のふれあい祭りの開催

実施主体：なか・やちよの森公園協会

日時・場所：令和6年11月17日（日）、なか・やちよの森公園

参加人員：約700人

内 容

丸太切体験、自然木のおもちゃ体験、木の自動車づくり、ウグイス笛づくりなどの体験コーナーのほか、里山スタンプラリー、地元特産品の販売等、森の働きや恵みが体験できる催しを実施した。

2. 活動の成果

- (1) 里山の保全と創造の重要性を啓発するとともに、地元住民と都市住民との交流、世代間交流の場とできた。
- (2) このイベントの開催により、県民総参加の森づくりの一層の促進を図ることにつながった。

3. 参加者の声

里山のふれあい祭り

- ・すばらしい環境の中で、それらをテーマとした体験から食までのコーナーで構成されており、自然の中でゆったりした時間を過ごしながら、里山の自然や文化を楽しむとともに、里山の環境を大切に保全していくことの必要性を認識することができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月17日
事業量	第17回里山のふれあいまつり 12ブース
参加者数	約700人
実施場所	兵庫県 多可町

ひょうご木材フェアの開催（A-82）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

第39回ひょうご木材フェアの開催

実施主体：兵庫県木材利用推進協議会

日時・場所：令和6年10月27日（日）、神戸市中央区ハーバーランド内（煉瓦倉庫通）

参加人員：約25,000人

内 容

- ア 木材利用によって森林整備が進み、森林の多面的機能が高度に発揮されることに関する展示
- イ 木製遊具や木製玩具、木製サウナ等の展示・販売
- ウ 兵庫県木材青年クラブ会員による親子工作体験の開催
- エ 神戸木材業協同組合によるこども棟上げ体験 等
- オ 特に親子連れには、木製玩具等の展示・販売、親子工作体験、こども棟上げ体験が好評であった。

2. 活動の成果

- (1) 木製品、パネル展示、各種パンフの配布、木工作ワークショップを通じ木材利用促進につながる情報発信を行うことができた。
- (2) このイベントの開催により、県民総参加の森づくりの一層の促進を図ることにつながった。

3. 参加者の声

- ・木材として使うには山での間伐などの作業が必要なこと、大きくなれば木造住宅や家具に使っていけば、資源として循環していくことが解った。
- ・木工作は自分の好きなものが作れて楽しい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月27日
事業量	第39回ひょうご木材フェア 参加20団体（事業体）20ブース
参加者数	約25,000人
実施場所	兵庫県 神戸市

緑の少年団活動支援事業（C-28）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- (1) 活動発表会の開催
各地域代表の緑の少年団による活動発表会、森林観察会の実施。
- (2) 緑の少年団のつどいの開催
「ひょうご里山フェスタ2024」に合わせ開催し、ひょうご森のインストラクターによる森林利用体験会、炊飯体験会、緑の募金活動を実施した。
- (3) 緑の少年団地域活動の支援（各少年団活動の支援）
兵庫県内の地区連絡協議会に地区活動費及び少年団活動費を助成した。

2. 活動の成果

- (1) 緑の少年団活動発表会を開催することにより、各地域の少年団同士の交流ができ、森林活動への意欲が高まった。
また、森林観察会を行い、指導者である森林インストラクターとの繋がりや、森や緑への理解と知識が深まった。
- (2) 緑の少年団のつどいを「ひょうご里山フェスタ2024」で実施することで、少年団の活動を広く県民に知らせることができた。
また、宝塚自然の家で、火起こしや薪を利用した炊飯・カレー作りを体験してもらい、森林を守り育てることの大切さを認識することができた。
- (3) その他、各地区協議会・各少年団への活動助成を行い、日頃の少年団活動の活性化に繋がった。

3. 参加者の声

- ・必要であった活動が放置され、危険な場所になりつつある事を知って、自然を学ぶこと、誰かに伝えること、後世に残すことの重要性を理解した。
- ・様々な観点を持ち、広い視野で森林について考えることが、とても大切だと気がついた。
- ・森と人との関係性を知り、自分たちの活動の意義を理解することができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月5日	11月3日	7月～3月	計
事業量	緑の少年団活動発表会	緑の少年団のつどい	各地区での活動	
参加者数	24人	30人	12,073人	12,127人
実施場所	三木市	宝塚市	県内各地	

森の文化活動事業（A-83）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・「大和路花と緑のフェスティバル」「奈良技能フェスティバル」等に出席し、来場者へPR活動をした。出席している他団体へ参加される方が多く、立ち寄ってパンフレットや球根を手にとっていただいた。木工クラフトは評判が良く、大人も子供も「また参加したい」と好評だった。
- ・「緑化啓発PR展」
令和6年緑化啓発の一環として、緑化作品コンクール入賞作品の展示やパネル展示、花苗や球根の配布などを行った。
- ・その他、年間を通じて広報や啓発活動に努めた。

2. 活動の成果

イベントを通して様々な地域や年齢層の県民に、緑化普及啓発を行うことができた。
展示だけでなく木工クラフトを実施したイベントでは、来場者数があるものも多く、人や自然と触れ合う機会を多く持とうとする親子が多いように思われる。開放的な雰囲気求めて、家庭で草花を育てることから始める人や、昨今の災害により緑環境への興味を持つ人も多く、もっとたくさんの方々に興味を持ってもらえるよう、広報活動に力を入れていきたい。

3. 参加者の声

- ・物を作るのに熱中している子供たちを見られて嬉しいです。
- ・きれいな花をいただけで嬉しい。自分でも種から花を育てていますが結構難しいです。家の中も外も花を飾りたいです。
- ・災害が多く発生する昨今、森林の整備の大切さを考えさせられています。素人にでもできることはあるでしょうか。そういった事を勉強する機会があればいいと思います。
- ・木工クラフトがとても楽しい。自分で自由に色を塗ったり飾ったりする機会がありませんので、是非毎年開催してほしいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10/12.13	10/19～31	12月1日	12/25～1/10	12月21日	4/8～4/15	4/25～5/9	計
事業内容	展示、花の種子配布	展示、花の種子配布	木工クラフト、球根配布	展示	展示、花苗配布	展示	展示	7回
参加者数	200人	200人	200人	200人	100人	300人	100人	1300人
実施場所	橿原市	明日香村	奈良市	奈良市	橿原市	奈良市	橿原市	

ボランティア緑化活動事業（C-29）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内各地で活動する森林ボランティアの連携と活動の充実を目的とし、技術向上と事故防止への意識向上を図った。各団体への助成事業等の情報提供など、ボランティア活動の推進につながるものを紹介し、助成事業や物品提供の案内を行った。また、事業の紹介やイベントへの案内、対応など事務的な支援を行った。会報発行の補助をし、運営協力に努めた。

2. 活動の成果

各地で活動するボランティア団体が互いに連携して地域内での情報交換を行い、今後の活動につながる信頼関係を構築した。一時期規模を縮小した活動を行っていた結果、さらに活動を自粛や縮小した団体が多くあり、一度縮小した活動を正常に戻すのに苦労している団体が多い。

活動が自粛される中、会報等を作成し配付することでボランティアを意識し活動を維持した。会報等では安全を喚起するとともに技術の更なる向上に向け情報発信した。今後も情報発信や事務運用の効率化を図っていきたい。

3. 参加者の声

- ・いろいろな助成事業や苗木提供の情報等いただいて、活動に役立てています。コロナ禍を経て一旦活動が縮小したが、徐々に会員や活動範囲も以前のように回復しつつある。今後の参加者数回復に向けてどう取り組んでいくかが課題です。
- ・活動が年々縮小していく中、他団体の情報や連絡をもらえてありがたかった。今後の参考にさせていただく。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月日	計
事業量	年間通じ随時	
参加者数	300人	300人
実施場所	奈良県奈良市、大和郡山市	

普及啓発事業（A-84）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林や緑の公益的機能の重要性や、再生可能な循環資源である木材の需要拡大が地球温暖化防止等に果たす役割等については、継続して広く県民に普及啓発して行くことが重要であり、本会としては特に青少年に対する普及啓発活動を重点的に実施するとともに、県民総参加の森林整備活動、緑化運動を促進した。

今年度はみどりの少年団交流集会を実施するとともに、県内各地の少年団が「緑を愛し、緑を守り・育てる心を養う」ことを目的に行う学校及び周辺の緑化や自然学習活動に対し支援を行った。

2. 活動の成果

- ・みどりの少年団団員に森林・林業に関する普及啓発活動、緑化及び環境貢献活動の重要性を学んでもらうことができた。

3. 参加者の声

- ・みどりの少年団交流集会に参加の子供達からは、「森と海のSDGsの話聞いて勉強になった」、「紀州備長炭の風鈴や木のフォトフレームづくりをして楽しかった」、「名刺交換して新しい友達できて良かった」等の声があった。また、参加団体の引率者からは、子どもたちにとって普段体験できない貴重な経験が出来て、是非継続して実施して欲しいなどの意見があり好評だった。
- ・学校周辺や地域の保全活動に参加し、自然環境を守ることの大切さがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年7月1日～令和7年5月31日
事業量	<主な取組> ・森林や林業に関する研修会の開催 ・校内の緑化活動
参加者数	34団
実施場所	・伊都郡かつらぎ町 ・各みどりの少年団の活動エリア

活動基盤の整備（C-30）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

和歌山県は「紀州木の国」と呼ばれるように豊かな森林に覆われているが、近年は人と森林との接点が少なくなり、放置された森林が増加し、そのまま放置すれば森林の荒廃が広がる可能性があります。これらの問題に対処するためには、行政だけでなく森林ボランティア団体等の活動が重要であり、和歌山県森林インストラクター会と共催で、森林ボランティアリーダーの養成や既存の森林ボランティア団体の連携強化に取り組みました。

具体的には、「森づくり塾」を開催し、1年間を通じて座学と現地実習により、森林の現状と様々な問題点・里山の問題・獣害対策等に関する知識や、人工林間伐作業やチェーンソーの使い方・竹林整備方法・苗木の植栽・照葉樹林監察など、森づくり活動に必要な技術講習を行い、森林ボランティアの中核的担い手を育成し、健全な森林の再生を目指しました。

2. 活動の成果

年間を通じて座学・現地実習を毎月1回実施し、自然・森林・林業について見解を深めてもらう事が出来ました。また、毎年新規募集を行い確実にボランティアに参加する人数が増えています。今後は、行政等からの支援による森林整備事業などを紹介し、森林ボランティア活動への誘導を促していきます。

3. 参加者の声

講習会では「森林、特用林産物、動植物、森に住む生物など、多方面の講義が聞けてとても勉強になった。」、実習では「実際に山で活動して体験することで、山の知識や林業の現状など、実感をもって学べた」等の意見がありました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年7月～令和7年6月（毎月、座学1回・現地実習1回）
事業内容	1.座学 森林とはどんな空間か・木材の特徴と魅力・竹の種類と性質・竹林の整備・人のくらしと森林の関わり・森林の危険な生き物と怪我への対処・和歌山県の自然植生について・森林の荒廃について・植樹について・和歌山県の特用林産物・昆虫・野鳥・きのこ・哺乳動物・日本の林業・和歌山県の森林について 2.実習 竹林整備（ノコギリ・ナタの使い方）・チェーンソー実習・チェーンソーを用いた竹林整備・人工林間伐作業・苗木の植栽・植栽地整備・竹炭づくり・山菜料理・里山の観察・土壌動物・川の生物・照葉樹林の森林観察（夜：光るキノコ観察）・ブナ林の観察・人工林の観察、林業現場視察・紀州備長炭生産とウバメガシ原木林観察
参加者数	延べ371人
実施場所	座学：和歌山市中央コミュニティセンター 実習：和歌山県紀美野町・岩出市・有田川町・日高川町・田辺市・みなべ町・すさみ町

活動基盤整備事業「樹名板設置事業」(A-85)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域住民や児童などが樹木に親しみ、樹木を大切にすることを養うことのできる環境を整備するため、公園や学校などの公的な場所の樹木に樹名板を設置する団体等に対し、県産材を活用して製作した樹名板を交付する。

2. 活動の成果

学校・公園などの公的な場所の樹木に、県産材による樹名板を設置することで、地元住民や子どもたちに、県産木材の用途の普及や樹木の名前を覚えてもらうことで、樹木に親しみ自然を大切にすることを養うことができた。

3. 参加者の声

- ・学校等の校地内の樹木に樹名板を設置したことで、子ども達が樹木に興味を持ち始め、学習にも活用しています。
- ・公園や公的施設に設置したことで、利用者に高評価をいただきました。

実績報告とりまとめ表

実施場所・事業内容	鳥取県内	4市町	5箇所	40枚
-----------	------	-----	-----	-----

活動基盤整備事業「木工工作キット配布事業」(A-86)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県産材を使用した木工工作キット、杉板を配布し、小・中学校の児童・生徒に木材に触れ親しむ機会を作り、木材の良さの普及と木材需要の拡大を図る。

2. 活動の成果

鳥取県産の杉板、木材キットを使用することで、木に触れることにより、木の持つ独特の柔らかさ、温かさ、加工のしやすさや組立ての難しさ等感じる事ができた。

3. 参加者の声

- ・釘を折らないようにまっすぐ打つことをがんばりました。組み立てるのがおもしろかったし、家では本や物を置いて使おうと思います。
- ・あまり上手にできなかったけど、大工さんがどのような感じでやっているのかがわかりました。
- ・杉の木のにおいがとてもよく、気持ちよく作ることができました。
- ・1人で作るのは初めてなので大変だったけどすごく楽しかったです。
- ・初めて本立てを作るときに難しそうに感じたけど、作ってみれば簡単でした。家に持って帰ったら本をいっぱい置きたいです。壊さないように大切に使おうと思います。
- ・本立てと聞いて作ってみると楽しくて一生懸命作りました。完成したら本当に良い本立てができたので家で早く使いたいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月日	計
事業量	807組	807組
参加者数	807人	807人
実施場所	鳥取県内 27小・中学校	

活動基盤整備事業「青少年・民間活動グループ育成事業」(C-31)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

木材の良さを多くの子ども達に知ってもらう活動を通じ、森林整備の重要性を認識してもらうことを目的とする。

2. 活動の成果

民間の任意団体等が自主的な緑化活動等を実施することにより、森林や環境への認識の度合いがより強くなり、また中核となる森林ボランティア育成にも繋がり、周りへの影響力も大きなものとなった。

木材の良さを子ども達に体験してもらい、木材需要・森林整備・緑化推進の意識が高まった。

3. 参加者の声

- ・道具の使い方から作り方まで丁寧に教えていただきました。
- ・また、参加したいです。
- ・かなづちで釘を打つのが難しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月4日	
事業内容	親子木工教室の開催	
	A.小ベンチ	7
	B.ティッシュケース	2
	C.棚	2
	D.マガジンラック	2
	D.おもちゃ箱	5
参加者数	18人	
実施場所	鳥取県大山町	

活動基盤整備事業「森林空間活用推進事業」(C-32)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

過疎・高齢化が進む中で、地域のシンボリックな場所や県道沿いなど多くの人の目に触れる場所に、ハナモモ、河津桜、ホンキリシマなどを植栽して、地域の憩いの場、交流の場として活用することにより、地域を盛り上げる機運を高めようとしている。

2. 活動の成果

自分たちが苦勞して植えたものであり、今後も維持管理等の保全活動が行われる。

植栽木はいずれもきれいな花が咲き、多くの人の目に触れるところであり、地域の憩いの場となっていくことが期待される。

3. 参加者の声

地域住民の遊び場や憩いの場となることを期待している。

自分たちの植えた木々の生長がたのしみ。

刈り払いや植栽することを通じて久しぶりに会うことができた。

地域外の人も集まって桜など見て欲しい。

実績報告とりまとめ表

実施団体	① 菅福連合自治会	② 黒坂7区自治会	③ 小鷲河ふる里を守る会
実施時期	令和6年10月27日	令和6年11月10日	10月25日、11月7日、11月13日
事業内容	植栽作業 ハナモモ 15本	植栽作業 河津桜 10本	植栽作業 ハナモモ 10本 河津桜 3本 ホンキリシマ 100本
参加者数	20人	30人	50人
実施場所	日野町上菅・福長	日野町黒坂	鳥取市鹿野町小別所、鷲峯、来日

「森の誕生日」2025事業（A-87）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

ふるさと森林公園の開園日である「4月29日」に、一般県民を対象に森や緑、木などの自然と触れ合う総合イベントを開催することにより、県民の森林に対する興味や関心を深めるとともに「緑の募金」のPRを行った。

昨年度より出展ブースを増やし、目標来場者を4,000人に設定してイベントを開催した。

好天に恵まれ、家族連れなどを中心に終日途切れることなく来場者があった。体験ブースや展示パネルでの説明などにより、森林について学び、森林に対する関心を深めてもらうことができた。

会場をいくつかの複数のブースに分け、来場者が学び、触れ合い、体験できる場を提供した。

- ①森学びのブース：森づくり活動団体等がパネルや模型展示、体験コーナーを開設
- ②森とのふれあいブース：森づくり体験会、森とのふれあい講座
- ③ステージ：小学生による森のダンス、コンサート
- ④展示・ふれあい：はたらく車展示、移動動物園
- ⑤森のマーケット：木工品等の展示・販売、野菜等の販売
- ⑥緑化苗木の配布、緑の募金のPR

2. 活動の成果

家族連れなどを中心に4,000人の来場者があり、体験ブースや展示パネルでの説明などにより、森林について学び、森林に対する関心を深めてもらう機会となった。

また、イベントの様子が地元ケーブルテレビや新聞で報道され、県民に対して「森林保全の大切さ」や「緑の募金」の認知度向上などの効果が期待される。

3. 参加者の声

- ・親子で気軽に参加でき、いろいろなブースがあり楽しく学び、1日を過ごすことができました。
- ・模型やパネルを使ったわかりやすい説明や小物づくりを通じて、森の働きや重要性、木材の良さなどについて理解ができました。
- ・いただいた苗木を大切に育てます。大きくなるのが、楽しみです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月29日
事業量	1日
参加者数	4,000名
実施場所	・島根県ふるさと森林公園

緑の少年団育成強化事業（C-33）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団の育成や少年団相互の親睦と活動を促進するため、指導者講習会・活動発表大会・交流集会などを通じ、森林環境教育を推進することにより、子どもたちの「生きる力」を育む。

2. 活動の成果

●島根県活動発表大会・交流集会

島根県立少年自然の家で開催し、少年団6団が発表、その後の交流集会でも親交を深めた。発表大会の様子はDVDにまとめ、県内すべての少年団（127団）へ配付し、発表団の活動を幅広く紹介することができた。

●全国緑の少年団活動発表大会

今年度「瑞穂中学校緑の少年団」の「優良賞」受賞を同校に赴いて行った。邑南町教育委員会、役場などからも出席されて、緑の少年団活動のPRにもつながった。

●島根県緑の少年団指導者講習会

大田市の団体が市内の森林で開催する「里山再生ワークショップ」に参加する形で開催した。里山について改めて考える機会となった。

3. 参加者の声

●島根県活動発表大会

【審査員の感想】

・今回発表してくれた少年団の皆様の活動から、豊かな自然は学びの宝庫であり、そんな自然を大切にしながら地域の方々と一緒に活動している姿をととても頼もしく感じた。また、各々の学校の地域の特色を生かし、小学校から中学校までの継続的な取り組みもまた評価できる。

【発表少年団の感想】

・発表は緊張したけど、他の人の発表を聞いて勉強になった。
 ・キャンプファイヤーが楽しかった。
 ・知らない人と友達になれて良かった。

●指導者講習会

・里山におかれる現状や問題点などの話を聞くことができ知識を高めることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月1日～2日	11月29日
事業量	島根県緑の少年団活動発表大会	緑の少年団指導者講習会
参加者数	審査員4名、発表6団	16名
実施場所	島根県立少年自然の家	大田市温泉津町上村

第23回森林を考える岡山県民のつどい（A-88）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

環境の世紀にふさわしい森林の保全や美しい森づくりを推進するとともに、林業の振興と地域材の需要拡大を図るため、基調講演、県民参加の森づくりの推進等のPR活動、木工教室、木工製品・地域特産品等の展示販売を行い、広く県民に森林の保全や美しい森づくりの推進と森林・緑・水に対する認識を深めてもらう場を提供する。

2. 活動の成果

基調講演では、林野庁次長小坂善太郎氏を招き、「森林・木材の持続的循環利用に向けて」と題した講話を実施した。林業を取り巻く現状・課題や森林・木材の持続的循環利用に向けてこれからどのように取り組んでいくべきなのかについて学ぶことができ、県民の森林資源の保全・活用についてより一層の意識向上が図られた。

また、出店団体のテントの配置を一部変更し、テント同士が向かい合うようにしたことで、参加者と出店者の距離が近くなり、より一層の賑わいを確保することができた。

さらに、木工教室や苗木の無料配布などによって、多くの県民が木に親しみ、木の魅力を知るよい機会となった。

今後も、多くの参加者に地域産材の利用を紹介・推進し、県産材の利用向上につながるよう、取り組みを進めていきたい。

3. 参加者の声

- ・基調講演を聴いて、森林資源の現状や課題について理解することができた。
- ・木工教室は親子で参加できるので良いです。
- ・ブルーベリーの苗木、ありがたいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月26日
事業量	1日
参加者数	約1,500人
実施場所	グリーンヒルズ津山

県産木材フェア開催事業（A-89）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

岡山県産木材等の利用の一層の推進及び販路の拡大を図るほか、子供たちに木材や木製品とのふれあいを通じて木材への親しみや木の文化への理解を深めてもらうため、木工教室（県産スギ板をキット化した椅子製作）やMY箸づくり等を開催した。

また、木材利用促進に繋げる取り組みとして、優れた木造建築のポスターを購入配布した。

2. 活動の成果

- ・木材市場の関係者等の指導により、親子でふれあいながら椅子製作を体験してもらった。
- ・カンナくずのヒノキの香りに興味を持った児童も多かった。
- ・森林循環の大切さや木材は環境に優しい素材であることを訴えた。
- ・来場者からは「次回の開催」を期待する声も聞かれ、木育の効果を実感できた。

3. 参加者の声

- ・木のぬくもりや香りを感じながら工作するのはとても良い経験となった。
（親子で木工教室に参加した父親）
- ・ヒノキの香りに感動した。（MY箸づくりに参加した児童）
- ・こういった取り組みは継続してほしい。（親子で参加した母親）

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年11月2日（土）	令和7年2月2日（日）	計
事業量	1日	1日	2日
参加者数	木工教室：親子等20組	木工教室：親子等40組	60組
実施場所	岡山市中区平井小学校	倉敷市福田町ライフパーク倉敷	

第40回くらしき都市緑化フェア（A-90）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化による環境の破壊を止めるためには、今ある森林を保全し、美しい森づくりを推進する必要がある。そのためには、都市に住む人々にも森林の機能や緑の重要性について知ってもらう必要があり、各種木工教室、身近な木を使った小物づくり等を行い、広く人々に森林の保全や緑の重要性に対する認識を深めてもらう場を提供した。

2. 活動の成果

昨年に引き続き、好評であった樹木医による樹木観察会を実施したところ、幅広い世代に参加していただき、樹木についての関心や知識を深めることができた。

また、森づくりとみどりの募金の紹介のブースでは、岡山県産材の積み木で遊ぶなど、小さなお子様に塗料を施さない無垢の木材の手触りの良さや匂いを体感していただけた。

さらに、庭木の剪定教室では、庭師からマツの剪定指導を受けることができたことから、難しいとされているマツの剪定方法を熱心に学んでいた。

今後も、参加者に身近な緑の重要性を説明し、県産木材を身近に感じてもらえるような取組みを行っていきたいと考えている。

3. 参加者の声

- ・秋晴れのもと、樹木に触れ合うことができ、緑の持つやすらぎの効果のようなものを感じることができた。
- ・ちびっこ木工教室で触れた無垢の木の感触は、プラスチックや合板と違い、気持ちが落ち着くように感じました。今度、玩具を買う時は、無垢の積み木を選び、大切に使用していきたいと考えています。
- ・競り市では、お店で買う値段よりかなりお安く購入することができました。花や樹木は好きですが、購入して家で育てる程まででは無かったので、これを機会にお家の緑を増やしたいと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月20日
事業量	1日
参加者数	2,359人
実施場所	倉敷みらい公園

緑化普及推進事業（C-34）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「みどりの少年隊交流集会」は、自然の中で共同生活と学習活動を通じて、緑の持つ重要性や必要性を学んでもらうとともに少年隊相互の交流を図ることを目的に、県内各地のみどりの少年隊が、1泊2日で加賀郡吉備中央町吉川の国立吉備青少年自然の家を集い、少年隊自己紹介、自然探検（樹木ビンゴ）、木工クラフト（貯金箱）、うどん作りなど、集団行動での宿泊体験を通じて交歓した。

また、「みどりの少年隊指導者研修会」は、指導力の向上を目的に毎年、開催しているが、今年度は、岡山県森林研究所内の研修棟で県研究員や県指導員による森林・林業の現状・課題や研究内容の説明を受け、施設の見学と伐木のVR体験をした。

その他、巨樹老樹名木の樹木診断調査は、令和2年に刊行した書籍「新岡山の巨樹老樹名木」の掲載樹木を大切に次世代へ引き継ぐために、保存事業の参考にするために実施している。

春のみどりの月間を中心に、令和6年5月に開催された全国植樹祭の開催機運を盛り上げるため、PRグッズを作成・配布するとともに、関連植樹イベントの開催に助成した。

2. 活動の成果

交流集会は、4年ぶりに夏休み時期中に1泊2日で再開した昨年度と比較して参加者数が増加した。

来年度は、その施設でしかできない体験プログラムを積極的に取り入れることなどにより、魅力的な企画運営を心掛けて、参加者増につながるよう計画し、開催に向けて準備したい。

指導者研修会は、例年、交流集会開催に向けての研修施設の確認や子ども達へのプログラムの事前研修等を行っており、森林・林業の現状を知ってもらうための研修を含め、指導者・関係者等の指導力を効果的に向上できるよう工夫していきたい。

巨樹老樹名木の樹木診断調査は、1年間に数本しか実施できないため、樹木の状態や地元地域の要望など、調査の優先順位を勘案し、効果的に実施したい。

3. 参加者の声

- 交流集会では、天候に恵まれ、自然の中で伸び伸びと活動出来て気持ち良かったこと、樹木ビンゴやうどん作りは初めての体験だったが、班のみんなと協力してうまくできたこと、バイキング形式の夕食がおいしかったこと、大勢で入った大きなお風呂や二段ベッドの宿泊が楽しかったことなど、子ども達からは、仲間と協力して普段と違う生活を楽しく体験できたこと、新しい仲間と交流ができたことがよかったとの声が多かった。
- 指導者研修会では、これまでと違った研修内容で、県研究員や県指導員から森林・林業の現状や課題、研究内容を直接聞けて大変勉強や参考になったとの意見をいただいている。
- 巨樹老樹名木の診断調査では、市町村から専門家の診断調査と今後の保存に向けての事業の参考になると喜ばれている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月2日～3日	6月4日	8月1日～18日	計
事業量	みどりの少年隊交流集会の開催 1泊2日	みどりの少年隊指導者研修会の 開催	「新岡山の巨樹老樹名木」 樹木診断調査	3回
参加者数	77人	19人	4人	100人
実施場所	加賀郡吉備中央町吉川	勝田郡勝央町植月中	県内2ヶ所	

「みどりの集い」開催事業（A-34）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然に親しむとともに、その恩恵に感謝し、豊かな心を育むという主旨を踏まえ、身近な緑とのふれあいや郷土の自然を学ぶことを通じて、みどりを「つくり」「守り」「育てる」意識の醸成を図るため、みどりの効用を体験するイベントを開催した。

体験ブースにおいては、①寄植教室、②たね団子を作ろう、③粘土で作ろう、④オカリナを作ろう⑤ネイチャーゲーム、⑥自由工作塾、⑦親子木工教室、⑧森の安全作業を学ぼう⑨空から森林を見よう等を開催し多くの家族連れで賑わった。

また、販売ブースにおいては、①地元加工品、②草花販売等を開催したほか、キッチンカーの出店等好評を博した。

展示コーナーにおいては、モミジの苗木の配布とともに、広島県、広島県みどり推進機構、「森林づくり活動・森林の働き」に係るパネル展示及び当該展示に係る質問並びに各種相談会が催された。

2. 活動の成果

森林ボランティア団体・林業関係団体・広島県緑化センター等が、一体となって「みどりの集い」を実施した結果、多くの一般県民の参加があり、森林・緑に対する県民の関心と理解を深めることができた。

当日は、好天に恵まれ、約3000人の県民の方々に参加していただいた。本年度第29回の開催となり、多くの県民が家族連れで楽しむイベントとなっている。

3. 参加者の声

粘土細工等の体験ブースについては、大人・子供を問わず一生懸命取り組まれていた。

寄植教室については、直ぐに定員オーバーになるなど、根強い人気を感じられた。

体験ブースでは、テント内で多くの家族連れが作品づくりに熱心に取組み、今後も継続を求める声が多かった。

無料で配布する物品は好評で、閉会後の会場内の装飾花苗を手に喜んで会場を後にされました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月29日	計
事業量	10:00 開会式 各種行事を実施 14:00 閉会式	
参加者数	3,000人	3,000人
実施場所	広島市東区ひろしま遊学の森「広島県緑化センター」	

木材利用に係る人材育成支援事業（A-92）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

木材利用を推進する建築士・木材供給者を対象とした木造技術研修会等を開催し、木材利用促進活動の強化を図るとともに、将来の木造建築等に携わる担い手確保のための人材育成を通じて木材利用を総合的に推進する活動を実施した。

- ①ひろしま木づかい推進協議会等において木材利用技術の知識向上のための研修会を開催。
- ②林業・木材産業の魅力を知るための「学生のための木を活かす仕事体験ツアー」を開催。
- ③建築関係学生に対して木材の基礎知識を知っていただくための「ベンチ試作」の実施。
- ④県民へ木に触れ合う機会を設けるため、試作ベンチを公共施設への展示活用。

2. 活動の成果

- ①建築士、木材供給者を対象とした木造技術研修会においては、8月20日のひろしま木づかい推進協議会の総会後の記念講演会に30名が参加、8月23日のひろしま木造建築協議会の研修会で25名が参加し、木造建築技術について活発な意見交換が行われた。
- ②9月4日の「学生のための木を活かす仕事体験ツアー」に31名の大学生が参加し、森林の現況視察、家具づくりの講演、木造建築物の視察を行い、木材利用の機運醸成に繋がった。
- ③ベンチ試作については、広島工業大学の学生を対象とした講座に10グループ（110名）、学生のための担い手講座に広島大学ほか3大学の学生が3グループ（12名）が参加し、ベンチ試作と試作内容のプレゼンを行った。
- ④広島工業大学生が試作したベンチ10脚は三次市と北広島町の公共施設に寄贈・展示し、学生のための担い手講座で試作したベンチ3脚は3箇所の幼稚園に寄贈し展示活用された。
今後も引き続き、建築士・木材供給者の資質向上研修会や将来の木造建築に携わる担い手確保のための人材育成等を通じて木材利用促進に取り組む。

3. 参加者の声

（木造建築技術研修参加者）

○非住宅の中規模建築物以上については、技術的な工夫も必要なことから、多様な情報を得て取り組むことが必要なため、継続的な実施が必要と感じる。

（仕事体験ツアーに参加した大学生）

○森林の状況から木材利用まで木材の一連の流れで視察ができ、環境のためにも木材利用を積極的に取り組むべきと感じた。

（ベンチ試作に参加した大学生）

○グループで市町の特徴など踏まえてデザイン画を決定し、グループ員で話し合いながら設計から試作まで体験できて良かった。

○幼稚園用のベンチは、どのような時に園児が利用するのか、利用上の安全性に問題はないかなど、グループ員で検討しながら試作できて良かった。

（ベンチ展示施設者）

○素敵なベンチ寄贈ありがとうございます。木に親しんでいただけるよう、市民が利用しやすい場所で展示活用します。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月1日～ 9月16日	8月20日 8月23日	9月4日	12月～3月	計
事業量	木製ベンチ試作・ 審査表彰式	記念講演会・ 技術研修会	仕事体験ツアー	ベンチ展示活用13点	
参加者数	122人	55人	31人	-	208人
実施場所	広島工業大学等	広島YMCA国際 文化センター	庄原市、三次市	三次市、北広島市、 東広島市、福山市	

緑の少年団交流集会開催事業（C-34）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団が一堂に会し、自然に親しみながら、交流と親睦を図るとともに、自律・友愛・協同・奉仕の心を養うため、交流集会を開催するとともに、緑の少年団の活動を支援するため、活動の参考となる図書を配布した。

2. 活動の成果

実習型の森林環境学習に参加して、自然に対する知識を増やすとともに、これからの活動に活かすことができた。

活動を通じて、他の少年団と交流するとともに、自然を愛し、仲間を愛するなど、心豊かな人間を培うことに寄与する。

活動メニューの充実を図っていきたい。

3. 参加者の声

森林環境学習に参加することによる学びが、活動の参考になるとの感謝の声を頂いている。

また、他の少年団との交流や、農業体験、クラフト教室など、日頃出来ない体験が出来て面白く、楽しい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月	8月	計	備考
事業量	交流集会	図書の配布		みどりのおもしろ発見ノート（4年生） みどりの手帳（5年生）
参加者数	71人	328人	399人	
実施場所	広島県内			

森林体験学習支援事業（A-93）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山口県が山口県林業研究グループ連絡協議会と連携して実施する森林体験学習に参加した県内小中学校の児童生徒及び指導者に学習教材を配付し、森林環境教育・森林ESDの促進を図る。

2. 活動の成果

山口県が山口県林業研究グループ連絡協議会と連携して実施する森林体験学習会に参加した県内小中学校、高校41校の児童生徒及び指導者等861人に「みどりの手帳」を配布し森林体験学習会を行った。

自然環境の保全や緑化推進の重要性について理解が深まり森林環境教育・森林ESDの促進を図ることができた。

3. 参加者の声

- ・児童達はみどりの手帳を手にして熱心に体験学習に取り組んでいた。
- ・森林や自然に関する新しい発見もあり、興味深く学習する児童生徒の姿が見られた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月18日～2月28日		計
作業内容	41小中学校、高校で森林体験学習を実施、学習教材を配布		
参加者数	県内	861人	861人
	県外	人	人
	計	861人	861人
実施場所	山口県岩国市、柳井市、周防大島町、下松市、光市、周南市、山口市、美祢市、宇部市、山陽小野田市、下関市、長門市、萩市、阿武町		

都市と山村ふれあい交流促進事業（C-36）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

林業研究グループ会員が都市住民を対象に森林をフィールドとした自然体験等の交流活動を実施することにより、都市住民に対する森林の重要性や森林整備の重要性の理解促進を図る。

2. 活動の成果

森林林業体験、木工体験、椎茸駒打ち体験、学習会等を通じて、都市と山村の住民が交流を図り、森林の持つ役割や林業の重要性について理解が図られた。今後も事業の継続を望む。

3. 参加者の声

- ・身近な場所で貴重な体験ができて楽しかった。また参加したいので、今後も続けて欲しい。
- ・地域の皆さんと一緒に交流ができ、森林や林業についても理解が深まった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月14日～3月1日		計
作業内容	7林業研究グループが8箇所で行った森林林業体験等を実施		
参加者数	県内	923人	923人
	県外	人	人
	計	923人	923人
実施場所	山口県岩国市、下松市、山口市、山陽小野田市、下関市、阿武町		

記念の森造成事業（C-37）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

植樹、保育等の森林整備、地域住民や児童生徒を含めた植樹祭等、記念の森の緑化活動を通じて、緑化思想の高揚と緑化運動の推進を図る。

2. 活動の成果

県内の5箇所において、子どもを含めた地域住民320名が参加し、記念植樹や植樹イベント等を開催し、緑化思想の高揚に成果があった。この事業は地域住民のコミュニケーション、連携を深める機会ともなっている。事業要望も多く継続していきたい。

3. 参加者の声

- ・貴重な体験ができた。今後も続けて欲しい。
- ・夏の草刈り作業が大変ですが、記念植栽した苗木の生長が楽しみです。
- ・自分が植樹した森が、将来どのようなようになるか楽しみです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日～3月10日		計
作業内容	県内6箇所での記念の森を造成、植樹、森林整備等実施		
参加者数	県内	382人	382人
	県外	人	人
	計	382人	382人

企業の森づくり普及啓発イベント（C-38）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

豊かな森林を次世代へ引き継ぐため、森林整備を実施している。協働の森づくり事業協力団体を対象に植栽や間伐、木育や森林教室などの体験イベントを開催し、森林の持つ機能や役割そして森林サイクルの重要性を理解していただくことを目的として実施している。

植栽活動では、獣害対策の必要性を学び設置方法などの説明を受け実施した。また、地元高校生（環境資源科）が学校林を活用して製作した木製品の販売、林研グループなどが森林資源を活用したハーバリウム作りやコースター作りなどを行い、参加者との交流を図った。

また、ブナ林の散策では、子どもたちがいろいろな形の葉っぱや木の実を拾い、木や自生している草花についても学んだ。

2. 活動の成果

毎年イベントを開催することで、参加者の会話などから獣害対策の事や木の成長の事などが増え、意識の変化を感じるようになった。また、森林のサイクルの重要性を企画段階で説明し、森林の役割などが広く浸透するよう努めている。また、国土緑推が作成した子ども向けの資料を活用し、森林教室を行い未来を担う子どもたちの理解を深めている。

そして開催地域の地元林業従事者や林研グループなどの参加により地域貢献のPRや開催地域の活性化に繋がっている。

参加者や地域住民からは、毎年開催してほしいとの声が多く、「緑の募金」を活用した森づくりとして活動が幅広く認知されている。

3. 参加者の声

○初めて植栽をした。1本1本にシェルターを被せるのが結構大変でした。動物の被害にあわないためには必要なですね。来年も参加して成長を見たいです。(男性30代)

○ハーバリウムには興味があり作りたかったので今回体験できて良かった。紅葉した葉っぱや若葉などを併せてまた作りたい。(50代女性)

○1年でどのくらい大きくなっているか来年も参加して見てみたい。(小学生)

○普段味わえない環境で子どもと一緒に植樹活動ができ、山について学び貴重な経験が出来ました。(女性30代)

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月18日	11月16日	11月30日	計
事業量	少花粉スギの植栽・ チューブラーの設置 1,400本	カラマツの植栽 300本	コナラ700本 イロハモミジ700本	植栽3,100本
参加者数	123人	62人	157人	342人
実施場所	徳島県 三好市・上勝町・美馬市			

緑化普及活動事業（A-94）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

（目的）

森林・緑・水に対する県民の認識を深めるための普及啓発活動を行うとともに、森林ボランティアや緑の少年団の活動を支援した。

（内容）

- ① どんぐり銀行活動を通して県民の森づくりへの関心を深めるために、「どんぐり預金」を実施し、預金高に応じて苗木やグッズ等を預金者に払い戻した。
- ② 香川県の水源である早明浦ダム上流にある高知県大川村で「早明浦交流の森づくりプロジェクト」を実施した。
- ③ 10月に開催した「森とみどりの祭典」において、緑の少年団の活動発表やパネル展示を行うなど、緑の少年団の活動を支援した。また、小中高生を対象に緑化ポスター、書道コンクールを実施した。

2. 活動の成果

熱心な県民（小学生・保護者等）に「どんぐり銀行」や「森とみどりの祭典」への参加を得て、森づくりへの理解と関心を深めることができた。

今後とも、県民参加の森づくりを推進するため、森（里山）に親しむ体験の場を提供していくこととする。

3. 参加者の声

①（早明浦交流の森づくり）

「森づくりの大変さ・必要性を感じた。」「森づくりに関わっていきたい。」

「勉強になった。30年、50年と継続することを祈る。」

②（森とみどりの祭典）

「緑の少年団の発表やパネル展示を通して、少年団の活動や環境、森林の大切さがよく分かった。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	年間	10月8日	7月20・21日	計	備考
事業量 （内容）	どんぐり銀行 活動	「森とみどりの祭典」	早明浦交流の森プロジェクト2024		
参加者数	1,635人	119人	41人	1,795人	
実施場所	香川県内一円	公測森林公園	高知県大川村		

木工作品製作キット配布事業（A-95）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【目的】

木材の利活用を促進するとともに、木材に触れ木や森に関心を高めてもらうために、次代を担う小中学校を対象に、県産材を使用した木工作品製作キットを提供し、実際に木に触れ加工することで木の良さを知ってもらい、県産木材の利用拡大を図る。

【内容】

県内の木材加工業者が県産スギ材で作製した本立てキットやティッシュケースキットを、総合的学習の時間やクラブ活動、図工の時間等で、製作希望のある県内小中学校へ配布した。

2. 活動の成果

木材加工の製品づくりの前段階として、県産材の木製品を活用し、下穴開け、くぎ打ち、やすり掛け、仕上げ作業（ニス塗等）を行ったことで、木材になるまでの過程や林業に携わっている人の思いや苦勞を想像し、実感してもらうことができた。

森林を受け継ぎ、後世に残すことができるように、今、さらにこれから自分たちができていることをしていきたいという気持ちを高めることができた。

今後も、子供の頃から木に触れ合うことによって森林や林業に興味を持ち、関わりを持ってもらえるよう、継続して事業を実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・やすりをかけると木の触感が心地よく、木の良さを実感できた。
- ・キットを開けたとき、木の香りがして心地よかった。
- ・くぎ打ちが難しかったが、何度も挑戦して作製できたのが嬉しかった。
- ・好きなイラストを描いたり、自分好みの作品にしたので、家で飾りたい。
- ・のこぎりを使ったり、釘を打ち込んだりといろいろ苦勞したが、作品が無事できてとても良い体験ができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～12月配布	計
	7月～製作	
事業量	2,658セット	2,658セット
参加者数	2,658人	2,658人
実施場所	愛媛県内の小中学校	

愛媛の森林友の会育成及び現地研修会開催事業（A-96）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【目的】

県民の森林・林業についての知識を向上させ、理解を深める。

【内容】

えひめ森林公園森林散策の実施（令和6年11月30日）

えひめ山の案内人会と愛媛森林管理署の協力を得るとともに、えひめ森林公園にて森林散策を行った。

2. 活動の成果

森林を散策することで、森林が生み出す綺麗な空気、川、水を体感し、森林の良さを身体全体で実感してもらうことができた。また、えひめ山の案内人会の説明により詳しく植生や木について知ることができ、この森林を保全することの必要性を理解してもらうことができた。

今後も、森林と触れあう活動を通して、森林保全、森林資源の活用について、広く一般県民に普及啓発していきたい。

3. 参加者の声

- ・散策しながら、美しい景色を楽しむことができた。
- ・樹木の解説などをしていただいて、知識を深めることができた。
- ・森林散策を通して、森林の良さを体感することができた。
- ・えひめ森林公園には、たくさんの植物や木があり、知らないことが多く、興味がさらに沸いた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月30日	計
事業量	1回	1回
参加者数	55人	55人
実施場所	伊予市	

森のようちえん推進事業（A-98）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内で森のようちえん等の自然体験活動が広まり、より多くの子どもたちが質の高い自然体験の機会を得られるように、高知市「アジロ自然の森」でイベント型の森のようちえんを開催した。実施にあたっては、自然の中で子どもが伸び伸びと遊ぶことで豊かな感性や好奇心が芽生えるように、過保護にならない見守りをボランティアが行った。また、子どもたちの自然体験のみならず親への普及啓発や指導者育成を視野に入れて行った。定期的なフィールド整備を行い、年間を通じて安心して遊べる森の環境整備を行った。

2. 活動の成果

自然に囲まれた高知県でも安心して遊べる森は少なく、自然を活かしつつ少し手を加えることで安心して遊べるフィールドを確保し、継続的な自然体験活動を行うことができています。イベントがない時でも地元の子どものたちや家族連れなどが森に遊びに来ており、気軽に自然体験できる場を提供することができた。スタッフには森林ボランティア活動や里山整備に関心のある大学生も参加し、里山の利活用や森林体験学習に携わった。

3. 参加者の声

- ・不法投棄されたゴミを見て、子どもも驚いていた。森の現状を知った。
- ・森が整備されているので安心して子どもを遊ばせることができる。
- ・参加するごとに子どもの変化を感じている。
- ・竹でご飯を炊いたのは初めてで、こんなに美味しく炊けるとは思わなかった。
- ・この活動も16年目を迎え、スタッフの高齢化は進んでいるが地域の方や森林ボランティア、大学生等の協力で活動が続けられている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～3月	7月21日	9月8日	2月16日
事業量	アジロ自然の森のフィールド整備	アジロ山を清掃して森で遊ぼう	散策&バードカービング	お山のとっぺんに登ろう
参加者数	のべ85人	52人	32人	32人
実施時期	3月16日	5月18日	6月15日	計
事業量	春の息吹を探そう	新緑の森で遊ぼう	竹飯を炊いて防災を考えよう	
参加者数	50人	18名	41名	のべ310人
実施場所	高知市			

高知県森林インストラクター養成講座（A-99）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

全国一の森林率を誇る高知県は、亜寒帯から亜熱帯まで多様な森林に恵まれている。時勢はSDGsを配慮した人と自然の共生社会づくりや地球温暖化対策などへの関心へ移行しつつあり、これらに即応した人材の育成が求められている。そのため、森林に関する幅広い知識や技術を持った森林インストラクターの養成を図ることで、体験活動や自然観察、森林づくり等を通して、森林・林業に関する正しい知識を一般県民等に広く普及啓発する人材を育成する。

今年度も「高知県森林インストラクター会」が実施主体となり、森林に対する幅広い知識、技術を習得するため、「森林」「林業」「森林内の活動」「安全及び教育」の4分野の講習及び実習を全7回で実施した。樹木実習においては国有林、森林総合研究所等の協力を得て、実際の樹木標本を入手するなど充実した内容で開催することができた。講座内容は全国森林レクリエーション協会の実施する「森林インストラクター」の受験に対応できるものとしており、養成講座の修了証書（写）提出により、森林インストラクター資格試験の二次試験「実技」が免除される。

2. 活動の成果

過去の受講生がスタッフとして参加し、知識と技術の向上を図っている。令和6年度の森林インストラクター資格試験に修了生を含む2名が合格した。森林・林業分野における指導者の育成となっており、今後の普及啓発の広がりが期待できる。

3. 参加者の声

- ・多くの知識と経験が役立つことを身をもって感じる事ができた。
- ・講座で学んだことをベースに、今後技術力を向上させたい。
- ・森林・林業の奥深さを実感することができた。
- ・内容が多岐にわたるので、回数を増やして更に充実した内容にしてほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～2月
事業量	森林インストラクター養成講座（全7回）
参加者数	22人
実施場所	高知市、香美市

森の魅力普及啓発事業（A-100）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森の魅力や森林の持つ機能、木の良さ等を広く伝え、森林を守り育てることの必要性を普及啓発するためのイベントや学習会を実施した。

①都市緑化祭・みどりの週間行事

10月と4月の緑化イベントで、緑の募金のPRや木工体験、チャリティコンサート等を行った。

②ファーストスプーンづくり

乳幼児の保護者を対象に、地元の木を材料に初めて使う離乳食用のスプーンを作る講座を3回開催した。講座の中で子どもの自然体験の大切さや森林保全、木育推進等について伝えた。

2. 活動の成果

緑化イベントでは、身近な都市部や家庭等での緑化による樹木保護・育成の大切さや樹木の働き等を伝えた。また、木工体験やファーストスプーンづくりで木に触れる体験を通して、木の良さや自然体験の大切さを伝え、家庭での木育推進を図った。これにより森林保全への関心を高め、木材利用の促進し、林業の活性化につながることを期待したい。

3. 参加者の声

- ・初めてスプーンを作りました。手触りの良さに驚きました。子どもに安心して持たせられると思います。一緒に森や公園を散歩したり、木製のおもちゃで遊ぶなど家庭でも木育に取り組んでみたいです。
- ・世界に1つだけの木のペンダントができました。
- ・初めて子どものためのものを作ることができ、良い思い出になりました。早く使いたいです。
- ・結構根気のいる作業でしたが、どんどん変化していく木の手触り等が楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月・4月	5月・6月	計
事業量	都市緑化祭みどりの週間	ファーストスプーンづくり	
参加者数	のべ169人 (木工体験のみ)	30人	のべ199人
実施場所	高知市	須崎市・越知町・中土佐町	

森林ふれあい交流（A-101）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- **少年団視察（クスノキ林と緑地観察）** 森林や自然にふれあい、新たな発見をしたり、森林学習やSDGs意識した取組を学ぶ視察を行う。
- **親子木工教室** 木工製品を組み立てることで、木材の良さ、自然の大切さを感じてもらうとともに、共同作業を通じて親子の絆を深める。
- **写真展** 福岡の自然と四王寺山に関わるものと題して、一般の方々から募集することで、写真を通じてその対象物への認識や愛着を深めてもらうとともに、これらの作品を展示公開することで、見学される方々にも同様の意識を広げていく。
- **モミジの森を整備しよう** モミジの森で育成体験を通して、森林の機能向上や美しい景観づくりを学んでもらう。
- **森の恵みで作る正月飾りづくり** 木の枝葉・竹等で正月飾りを作り、森の豊かさを感じながら新年を迎えてもらう。
- **葛伐りで森を整備し、葛細工を作ろう** 木の生育を妨げる葛を取り払って、葛細工を作って有効利用する。

2. 活動の成果

- **少年団視察（クスノキ林と緑地観察）** 初めて見た大型河川矢部川やたくさんのクスノキ林を見学し森の働きを学習した。
- **親子木工教室** 多くの親子と一緒に笑顔で作業を楽しみ、自然も木材の香りや温もりに触れながら、森林の大切さも感じてもらえた。
- **写真展** 展示を見て、四王寺山の生きものや歴史を身近に感じてもらえた。
- **モミジの森を整備しよう** 林内に光がさして、美しい景観が出来るとともに樹木の成長が促せた。
- **森の恵みで作る正月飾りづくり** 松竹梅や常緑樹を使って正月飾りを作り、森の豊かさを感じた。
- **葛伐りで森を整備し、葛細工を作ろう** さまざまな葛を使って色々な葛細工を作り有効利用ができた。

3. 参加者の声

- **少年団視察（クスノキ林と緑地観察）** 公園内で樹木の特徴を学び、クスノキ林で森林の働きや歴史を知り楽しかった。
- **親子木工教室** 木の温かみを感じ木材の良さを再認識しました。
- **写真展** 四王寺山の野鳥や歴史、昆虫の営みを見れて良かった。
- **モミジの森を整備しよう** 初めて木の伐採をしましたが、作業後森がきれいになってとても気持ちよかったです。
- **森の恵みで作る正月飾りづくり** 松竹梅や木の実など自然の豊かさを感じながらとても素敵な正月飾りが出来ました。
- **葛伐りで森を整備し、葛細工を作ろう** ツルの生態を学び、葛を使ってこんな素敵な作品ができて良かったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月29日	11月3日	11月10日～ 12月8日	11月30日	12月14日	1月25日	計
事業量	少年団視察	親子木工教室	写真展	モミジの森を整備しよう	森の恵みで作る正月飾りづくり	葛伐りで森を整備し、葛細工を作ろう	
参加者数	25人	105人	1,000人	24人	35人	35人	1,224人
実施場所	福岡県 宇美町						

グリーンフェスティバル2025 (A-102)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの県民が直に緑に接し、樹木や森林の機能を体感し学習することによって緑が果たす役割及び保全の重要性について認識を深め、緑と水の豊かな郷土への意識を醸成することやSDGs「全ての人々の健康な生活」「陸の豊かさを守ろう」の普及啓発を推進することを目的として、令和7年（2025年）5月18日（第3日曜日）に、「グリーンフェスティバル2025」を開催した。緑や木材および樹木に身近に触れる機会を増やすため、緑化センター内でロープアスレチック、軽トラ植木市、寄せ植え作り、ハンギングバスケット作り、樹木探偵団、木工体験、竹工作、林業体験などに重点的に取組んだ。

2. 活動の成果

曇り空ではあったが、昨年と同様の参加者があった。参加者は様々な緑に関するイベントを体験・体感することで、緑への関心や大切にする心を醸成することができた。

緑のワークショップとして、子どもや親を対象とした間伐材を利用した親子丸太切り競争、木工体験、ジオラマツリー作成や竹を使った工作は用意した材料が全てなくなるほどの盛況で、木材や竹の利用について体感できた。樹木を利用したロープアスレチックや樹木探偵団は大変好評で樹木と親しむ場を提供できた。ハンギングバスケット展示では華やかで多くの鑑賞者が見られた。ハンギングバスケット作りや寄せ植え作りは参加希望者も多く、緑を手にとって体感する場を提供できた。花苗・花木配布では、用意した花苗・花木は全て配布でき緑への関心を高めることができた。

軽トラ植木市では、生産者と購入者が樹木医も交えて、木の特徴、育て方などについて直接対話する機会となり、昨年以上の購入者があり大変好評であった。

このイベントは、多くの参加者に森林・緑・水の大切さを伝え、体感してもらい理解してもらえることが出来る好適な機会であるため、今後も、活動目的に沿って続けていく必要がある。

3. 参加者の声

- ・大声大会に参加し、ストレス解消になりました。(大人男性参加者)
- ・竹馬体験は、初めてだったけど少し乗れました。(小学生低学年参加者)
- ・毎回、花苗のプレゼントを楽しみに来ています。(緑の募金者)
- ・ハンギングバスケットの展示と講習を楽しみに来ました。(大人女性参加者)
- ・親子丸太切り競争を楽しめました。(大人女性・小学生低学年参加者)

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和7年5月18日(日)
事業量	100%
参加者数	6,500人
実施場所	久留米市田主丸町益生田(福岡県緑化センター)

第34回世界子ども愛樹祭コンクール (A-103)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

かつて八女市矢部村は、豊かな水が地域の人々に恵みをもたらしていた。

今では豪雨での被害の拡大により人々の命、生きる場を奪っているのが現状である。

人は被害者でもあり、加害者でもある。人の手による自然破壊が温暖化・異常気象を起こしているのも事実である。愛樹祭事業は32年前よりこの事態を予期し、樹木・森との共生を行う事で自然環境だけでなく、心豊かな人間性を育むことを目的に「世界子ども愛樹祭コンクール」を企画・実施してきた。

今回、34回までに世界24ヶ国、国内46都道府県より絵画55,861点、詩・作文19,605点、木はがき9,806点と多大な成果を上げてきた。特に、今回の授賞式では、森林講話として地元の林業家による子ども達へ樹木の大切さや役割などの講話を取り入れ、小さな子どもにも分かりやすい内容で、盛会裏に終えることが出来た。

2. 活動の成果

今回、愛媛県、岡山県をはじめ、県内外の入賞者に出席していただいた。

授賞者を歓迎する民謡などは、矢部村を知っていただくうえで、なくてはならない演出となったようだ。

記念植樹は前日からの雨により、受賞者の安全を考慮したうえで予定の場所で行えなかったのは残念であったが、簡易的でも、記念の植樹を行うことで、皆さんに理解を得られ、式典の中の森林講話で樹木の大切さを学び、植樹が初めての方もよかったと思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月14日	1月14日	3月16日	3月16日	計
事業内容	一次選考会	最終選考会	授賞式	記念植樹	
参加者数	22名	9名	250人	30名	311名
実施場所	福岡県八女市	東京都台東区	福岡県八女市	福岡県八女市	

第12回もりもり広がる森林づくり (A-104)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

糸島市二丈福井のこの地は、昭和30年代の人工造林期に植栽され現在伐採適齢期を迎え、このままの状態では、山林の有する多面機能の低下が懸念される。

この地を糸島市民・環境ボランティア団体の協力を得て広葉樹の苗を植えて広葉樹林にし、将来子供たちが自然を感じ、また近くの真名子キャンプ場利用客が森林浴や自然観察会等の場として利用するとともに、水源涵養機能を発揮する森を目指している。今回の植樹イベントが、糸島市民の自然環境学習の場になるとともに市内の自然環境団体間の交流の場となることを願い開催した。

2. 活動の成果

植栽本数は、イロハモミジ・ヤマザクラ各150本・クスギ100本・ヤマボウシ・コナラ・スダジイ・タラヨウ各50本合計600本。今回の活動により、多くの参加者に「森の恵み」に関しての理解を深めてもらった。

3. 参加者の声

漁業協同組合の参加者からは、山に広葉樹を植えることにより森からの恵みが海に流れて来て、主産業のカキの養殖に役立つと植樹できたことを喜ぶ声があった。

参加した企業の社員からは、SDGsの活動がこのような形で実施できたとの声があった。

個人参加の中に0歳児の参加があり、この子の成長と樹木の成長が見られて楽しみが増えたとの話があった。

昨年、一昨年と植樹した木々との比較ができ、成長の度合いがよくわかる。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2月12・14日	2月15日	計
事業量	準備作業(資材搬入・配置)	第12回もりもり広がる森林づくり本番	
参加者数	14人	スタッフ含め 98人	112人
実施場所	福岡県糸島市二丈福井森林公園真名子木の香ランドキャンプ場付近		

花立山の里山保全作業 (A-105)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

花立山(標高130.5m)は小郡市内で唯一の里山であり、この山が持つ自然、歴史、景観などのすばらしさを地元住民をはじめとする市民に再確認してもらうため、下草刈り作業及び除伐、植栽作業及び里山の散策、木工教室等を実施した。

2. 活動の成果

下草刈り作業、除伐作業及び植栽作業は、山麓を中心に行っていたが、今回も昨年に引き続き山頂付近の作業を実施した。この作業において、地元立石校区の住民の方に参加していただいた。今後は山頂付近の保全作業にも力を入れ、広範囲での下草刈り作業を含めた保全作業を進めていきたい。

3. 参加者の声

初めてみんなで歩こう花立山の散策に参加された方からは、散策道以外のルートでの散策で、荒廃した山林、歴史的に貴重な山であることを再認識されていました。

公園内及び麓の山林には、梅及び山桜を植栽し、麓から見た景観を重視した。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	里山保全作業	令和6年7月13日 令和6年10月26日 令和7年2月15日 令和7年3月8日 令和7年4月26日 計5回 計72名	(植栽含む)
	環境教育	令和6年11月3日 令和6年5月3日 令和7年5月18日 計3回	巣箱作り 巣箱作り みんなで歩こう花立山
参加者数	県内	113人	
	県外 計	0人 113人	
実施場所	福岡県小郡市干潟(通称:花立山)		

里まちサイクルプロジェクト（A-106）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

未来の子ども達に豊かな自然環境を引き継ぐために、森林資源の整備を行う。また、青少年が森林を身近なものに感じるためには、参加して楽しく学習できる体験型の環境教育を行い、次世代のリーダー育成のための普及啓発事業を行う。多くの方々に森林の現状を理解し森林資源の整備等の必要性を理解してもらうためにも活動を行なっている。

「内容」①里山の保全活動を行う・・・竹林の整備により発生した竹林の有効利用（循環・再生）を行う。

②竹を活用した環境教育を通して、守り育てる学習・・・筍掘体験。迷惑物のカズラと木の実を取って、クリスマスリース作り等

③竹の再利用と活用・・・「ミニ門松作り」

2. 活動の成果

○里山の保全活動を通して、自然環境学習の開催を行い、多くの方々に里山の現状を見てもらい、森林の役割と大切さをご理解いただけた。自然環境教育を待ち望んでいる人々が多く、体験を通して子供達に森林の果たす役割の大きさと、守り育てていくことの大切さを理解してもらえた。また、竹の再利用では、「ミニ門松作り」等は、日本文化の良さを青少年から高齢者までもが、体験でき、大変好評をいただいています。多くの方々に森林の良さを体験していただくことができました。今年度で活動を終わることを告げると、参加団体の方がたから残念がられてたことが、16年活動してきてよかったと感じることでした。

3. 参加者の声

○森林や里山を身近に感じる事がなかったのですが、参加して、身近に感じ、もっと自然環境に関心を持ちたいと思いました。

○日頃体験できないことばかりで、いい体験になりました。

○また、ぜひ活動を再開してください、参加したいです。

○自然の木の実や、カズラでリースをつくる体験ができて楽しかったし、また、知らない木の実を初めてみました。

○初めて筍掘りに参加しました。初めての参加でしたが、楽しいやら掘るのが大変やら、竹林の状況を見ることができて、良かったです。また、続けてください。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2024年9月12日～2025年3月23日	2024/11/23～2025/3/29	
事業内容・実施回数	緑化維持活動	自然環境教育・竹の再利用 / 里山維持活動	30回
参加者数	整備 67人	環境教育 549人	計616名
実施場所	福岡県 福岡市・早良区・西区		

森を五感で感じよう（森林体験活動）（A-107）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然を五感で感じながら森林内で活動する。森林内で体感する驚きや発見を通じて森林に親しみ、その働きや仕組みについて学ぶ。

2. 活動の成果

- ・ヒノキの皮むき体験を通じてヒノキの特性を学び、間伐など森林整備の大切さを学びました。
- ・身近なシダの学習では普段見過ごしがちなシダ植物を観察学習して植物への知識を深め森林への関心を高めました。
- ・ネイチャークラフトでは森林内で採集した木や木の実を利用して作品を作ることで工作力を高め森林への関心を高めました。
- ・五感で森歩きでは五感を使って森を散策して森林の持つ様々な魅力を知り、植物に触れ学び森林への関心を高めました。
- ・紅葉の森歩きでは季節の変化を五感で体感、紅葉黄葉緑葉、熟した木の実、鳥の声など生命力豊かな森林を体感しました。様々な活動を通じて森林の持つ魅力を一層知り関心を高めました。これからも健全で豊かな森林を次世代へ引き継いでいく未来につながる森林活動を行っていきます。

3. 参加者の声

- ・ヒノキの皮がツルツルむけて楽しくて時間が過ぎるのを忘れるほどでした。ヒノキや木の実で素敵な作品ができていい思い出になりました。
- ・シダにもたくさんの種類があることを学びました。採集したシダをラミネートしたしおりはシダの裏側の胞子まで観察できていい勉強になりました。
- ・思っていたより作品作りは大変でしたが、出来上がった作品がうまく動いてくれて大満足でした。木を割るのが楽しく木の特性を学びました。
- ・目を閉じて耳をすまし自然の音を聞くネイチャーゲーム“音いくつ”は初めての体験でしたがいつもと違う自然を体験できてとても良かった。
- ・葉っぱにもいろいろな形があることを観察して名前も知れて勉強になった。
- ・色とりどりの秋の森や鳥の声を聞きながら、その名前や生態の説明を聞き散策してとてもいい勉強になりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月6日	8月4日	9月7日	10月5日	11月16日	備考
事業量 又は 事業内容	5回 ヒノキの皮むき体験	身近なシダの学習	ネイチャー クラフト	五感で森歩き	紅葉の森歩き	
参加者数	県内 26人 県外 0人 計 26人	20人 0人 20人	21人 0人 21人	21人 0人 21人	25人 0人 25人	合計113名
実施場所	福岡県糟屋郡宇美町					

木になるフェス開催事業（A-108）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「木を伐って、使って、植えて、育てて、また伐る」という森林資源の循環利用の意義についての県民の理解促進や緑化普及の推進を図るため、さがの木の住まいコンクール、木工工作コンクール及び高校生建築設計競技会の表彰並びに作品の展示を行うとともに、併催イベントや木材関係団体等のPRコーナーを設けて緑化や木材普及の推進を図った。

〔事業の実施内容〕

- ① 式典：さがの木の住まいコンクール及び県内児童・生徒木工工作コンクール、県下工業高校建築設計競技会の表彰式を行うとともに、木工工作コンクールと建築設計競技入賞者の作品展示を行った。
- ② 併催イベント：木工工作、木の実工作、かんなくず工作などの体験イベント及びさがの樹プレゼント、県産木材PR・林業就業相談コーナー、住宅・耐震相談コーナー、親子で学ぶゲーム、チェンソーアートや山の音楽家Shana トーク&ミニライブなど多彩な催しを行った。

2. 活動の成果

さがの木や木材に関する各種コンクールの表彰を実施することにより木や森林・緑化の大切さを認識してもらうとともに、木や木の実を使った工作などにより木のぬくもり、すばらしさ、楽しさを実感してもらい、森林・林業・木育の普及啓発、緑化活動の推進に寄与できた。

3. 参加者の声

アンケートの結果では、「森林を大切にしたい」、「木の良さが分かった」、「チェンソーアートが良かった」、「いろいろなイベントがあって良かった」などたくさんの感想を頂きました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月16日（土）～17日（日）
事業量	・木工工作コンクール等の表彰、作品展示 ・木工工作体験など各種イベント実施
参加者数	約5,400人
実施場所	佐賀市城内 SAGA ART PATH

緑の探検学習会（C-40）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団員と指導者を対象に、野外の体験学習を通じて自然や緑の大切さを実感してもらうとともに、少年団活動発表会などを盛り込むなどして、緑化活動や環境美化に積極的に参加する心を育てることを目的として、探検学習会を開催した。

〔活動の実施内容〕

午前

- ① 3団による活動発表
- ② 活動発表大会の表彰式及び閉会式
- ③ 自然研究会員による講話「身近な里山の動物たち」

午後

- ① 木の間伐、工作素材作り
グループに分かれて、公園内にある樹木の間伐、木の実や葉などによる工作素材を作成し、身近な樹木への関心を高めた。

2. 活動の成果

地区代表による活動発表を通じて、緑の少年団の活動の活性化が図られた。
また、自然史研究会員による身近な動物たちと森・川・海の関わりや森林の大切さを伝える講話や木の間伐、木の実や葉を使った工作素材づくりを体験することにより、樹木への関心を高めることができた。また、活動を通じ少年団相互の交流が図られた。

3. 参加者の声

子供たちは、大変元気よく、最後まで熱心に学習会に取り組んだ。「体験等を通じて、多くのことを学べた。」「友達と協力して楽しむことができた。」などの前向きな感想が多かった。

また、大人からは、少年団活動への理解が深まったことなどの声があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月23日（土）
事業量	・3団による少年団活動発表大会 ・自然研究会員による講話「身近な里山の動物たち」 ・木の間伐、工作素材作り
参加者数	73人（少年団員39人、指導者等17人、スタッフ17人）
実施場所	富士北部コミュニティセンター、神水川中原公園

森林のつどい事業（A-109）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・県民が森林と親しみ、ふれあい、楽しむ場の提供を通じて、森林を守り育てていくことの大切さを広く理解してもらうため、長崎県民の森で「ふるさとの森フェスタ」を計画したが、台風24号長崎県接近のため中止し、代替イベントとして、令和7年3月29日～30日に、長崎駅前のかもめ広場において、民放（長崎国際テレビ）主催の「春のデジタルシェ」に「ふるさとの森フェスタ in かもめ広場」として、長崎県樹木医会及び長崎県緑化推進協会ブースを出展した。
- ・長崎市日吉自然の家、西海市西彼青年の家で、小学校4年生～6年生を対象に、木育キャンプ（森のつどい）を開催し、間伐材搬出見学、植林体験、木こり体験、空中回廊体験等を通じて、森林、木材加工、資源の有効活用の大切さを学んだ。

2. 活動の成果

- ふるさとの森フェスタについては、民放テレビ局の長崎市市内でのイベントの機会をとらえて、県内の巨樹のパネル展示と「長崎県の巨樹・名木」の紹介、花苗やコラボピンバッジをプレゼントする募金活動実施により、森林・緑化の大切さを広くPR出来た。
- 長崎日吉自然の家での木育キャンプでは、森や木に関する学習をはじめに取り入れたことにより、活動が意欲的になり、森や木が自分たちの生活に深くかかわっていること、森や木を守ることがとても大切と思ったという発表があった。
- 西彼青年の家での木育キャンプでは、森林インストラクターを中心に地元西海町の森林と林業を座学し、間伐材搬出体験や、植林体験、木登り体験やロープ渡り体験など、体を使って体験するメニューを取り入れたことにより、非常に刺激を受け、興味深い体験となったようである。また自然と森林・林業に目を向ける機会となった。

3. 参加者の声

- ①長崎県内にもたくさんの巨樹・名木があることがわかった。②森林や木材を大切にしたいと思った。③こんなに木が人間の役に立っていることを知らなかった。④木を使えば地球温暖化の防止につながることがわかった。⑤西海市にはヒノキが多いので、自分も毎日どこかでヒノキを見ているんだろうなと思った。⑦植林体験をして、植林の大変さを実感した。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年 10月19～20日	令和6年 11月2日	令和6年 11月16～17日	令和7年 3月29～30日	計
事業量	木育キャンプ ～森のつどい～	ふるさとの森フェスタ 台風接近のため中止	木育キャンプ ～木の学び編～	ふるさとの森フェスタ in かもめ広場	
参加者数	14人	人	19人	300人	333人
実施場所	長崎市	長崎市	西海市	長崎市	

緑の少年団活動活性化事業（C-41）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・緑や自然と接することにより、緑を守り・育てる心、協調性豊かな心等を養成するとともに、「緑の少年団」活動の一層の活性化を図るために、6月の環境月間及び秋期における地域の公共施設等への花苗植栽活動を実施した。
- また、緑の少年団地域交流集會を五島地区、全県交流集會を国立諫早開催した。

2. 活動の成果

- ・県下緑の少年団19団の日頃の活動に助成した。・地域での花苗の植栽活動を集団で体験することにより、自然の大切さや地域の環境を守ることの大切さを学んでもらった。①秋期花苗植栽活動（参加団佐世保市祇園緑の少年団ほか12団、団員：278名、指導者ほか：61名、※他事業による植栽活動を含めると14団、花苗本数4,760本）
- ②6月環境月間花苗植栽活動（参加団壺是緑の少年団ほか11団、団員：227名、指導者ほか：71名、※他事業による植栽活動を含めると13団、花苗本数4,720本）
- ・コロナ禍で5年ぶりに「長崎県緑の少年団全県交流集會」を開催（令和6年12月7日（土）～8日（日）、国立諫早青少年自然の家、参加団：長与北緑の少年団、佐世保市祇園緑の少年団、五島市本山緑の少年団3団、団長指導者30名の参加、内容：第1日：活動発表大会ネイチャーゲームやクリスマスリース作りの交流活動、第2日：森林（もり）の話、伐木体験、モルック作り及びモルックゲーム）

3. 参加者の声

（全県交流集會）

- ・団長・指導者からは、「久しぶりの開催だったが、子供たちはすぐ仲良しになり交流集會に参加してよかった。」「来年はさらに各少年団が参加しやすいように、時期や開催方法を検討していただきたい」などの要望があった。
- ・少年団員からは「のこぎりで木を切るのが楽しかった。大きな木は切りにくかったです。」「モルック作りとモルックゲームが楽しかったです」「ほかの団の人とおしゃべりやゲームはとてうれしかったです」「発表会は緊張しました」など

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年 10月19日	令和6年 10月～11月	令和6年 12月7日～8日	令和7年 6月1日～ 6月30日	計
事業量	地域交流集會 ・五島市森林のつどい× 全国椿サミット ・県央・県北地区については台風接近で中止	秋期花苗植栽活動 4,760本	全県交流集會 第1日：活動発表大会ネイチャーゲームやクリスマスリース作り 第2日：森林（もり）の話、伐木体験、モルック作り及びモルックゲーム	6月環境月間花苗植栽 4,720本	
参加者数	3団 35人	12団 339人	3団 30人	11団 298人	29団 702人
実施場所	五島市	県下一円	諫早市	県下一円	

森のめぐみいきいき活用促進事業（C-42）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・林業に関する地域の中核的担い手である林業研究グループが、令和7年3月8日に長崎市浜の町アーケードにおいて、「森のめぐみ展示会を開催」。林産物の展示・販売や木工体験を実施し、都市の人々との交流を図ることで、山村の現状や森林資源の有効活用について理解を深めてもらうとともに、木材の多様な利用やその他の林産物の活用が促進された。

2. 活動の成果

- ・燻製チップや木製のちゃぶ台、ツバキの木工品、苗木、しいたけ等の林産物の展示・販売並びに木工製品の製作を通じて、間伐材の有効利用、木製品の良さ、森林の恵みの豊かさを都市住民へアピールすることができた。また、地元長崎のプロバスケットチームのマスコットLUCA協力による緑の募金も行い、緑の募金活動をPRすることが出来た。

3. 参加者の声

- ・普段は山の中で活動しているが、都市部の方と交流できて刺激になった。
- ・木工製品や林産物の展示・販売では多くの市民が立ち寄っていた。
- ・間伐材の木工品や椿の木工品では、製品の説明に興味深く聞く姿が見られ、多くの方に購入してもらった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和7年 3月8日
事業量	林研グループ7団体及び諫早農業高校他2団体 プロバスケットチーム長崎ヴェルカ
参加者数	46人
実施場所	長崎市

くまもと森づくり普及・啓発事業（A-110）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施主体：(公社) 熊本県緑化推進委員会

共催：(株) 熊本放送

目的：くまもとの豊かな緑を守り育てる「緑の財産づくり」を推進するため企業とともに緑化推進キャンペーンを展開している。募金期間に森林とのふれあいイベントを開催し、県民参加の森づくりの一層の推進を図る。

内容：公募による参加者（家族等）が熊本市立立田山の自然とふれあう「立田山グリーンウォーク」を開催し、熊本県インストラクター協会会員の指導のもと、秋になりつつある森林の様子を観察したり、森林の話聞きながら森を散策した。また、散策後竹トンボ協会の協力で竹クラフト教室を開催し、家族で楽しく木竹とふれあう時間を過ごした。（当日の状況は別添写真のとおり）

2. 活動の成果

森林にふれあうことで森林の大切さに対する理解者が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図れた。

3. 参加者の声

自然観察会では森林インストラクターの方々から秋の時期に特徴的な木や草花の話が聞けて勉強になった。

また、竹トンボ協会の方々の指導により作った竹トンボが非常に良く飛んで楽しかった。

暑さ対策も徹底しつつ、家族が楽しめてとても良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月14日	計
事業量	「立田山グリーンウォーク」開催	
参加数	110人	110人
実施場所	熊本市黒髪立田山いこいの森（多目的広場）	

緑の少年団活動育成事業（C-43）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然の中で緑を愛し守り育てる活動をはじめ、地域社会での奉仕活動や交流等の野外活動を通して心豊かな人に育つことを目的とした緑の少年団の交流集会を支援する。

2. 活動の成果

7月26日に御船町遊心にて開催。感染対策もしながら十分に注意を払って楽しく少年団間の交流ができた。

また、くまモンTシャツは希望の少年団に配付した。

3. 参加者の声

暑い中ではあったが昼食の間雨が降ったのでの午後からは少し涼しくてよかった。

烏笛を作って鳴らしたり木をみんなで引っ張って倒したりとても楽しかった。

来年も交流集会をたのしみにしています。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月26日	備考
事業内容	緑の少年団の交流集会の開催	
参加数	80名	スタッフ含
実施場所	御船町「遊心」	

シンボル森林の活用促進事業 (C-44)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

目的：県指定の「熊本ふるさとの森林」森林や市町村が設定したふれあいの森林等地域を代表する森林の利用促進を図るため、森林の内容や散策路等施設の情報を書いた総合案内板の設置や補修を行う。

内容：案内板の表示内容の改訂・補修

熊本県熊本市にある植木三ノ岳の森は、金峰山県立自然公園内の三ノ岳（標高681メートル）中腹に位置し、ヒノキの人工林及び多種多様な広葉樹が自生している18haの市有林で、利用者が気軽に森林浴や自然観察、野鳥観察等が楽しめるよう、遊歩道等が整備されている。眺望もすばらしく、熊本市街地や、遠方には雄大な阿蘇の山並みまで見渡すことができる。また、近傍には、西南戦争の激戦地として知られる田原坂（吉次峠）など、歴史的遺構にも恵まれている。

今般、案内板が劣化し板面が判読できない状況であったため、より多くの方に散策が楽しめるよう改修した。

・森林総合案内板 1基 ・表示板 W=2,500mm H=1,600mm

2. 活動の成果

森林にふれあうことで、森林の大切さに対する理解者が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図られる。

3. 参加者の声

当該地域はみかん園が多く、作業用道路が多く通っているため分りにくい状況であったが、今回の案内板の改修により、植木三ノ岳の森だけでなく、田原坂などの周辺施設への案内もなされており、利便性が向上したとのことであった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～12月	計
事業量	案内板1基補修	案内板1基
実施場所	熊本県熊本市北区植木町木留	

施工前



施工後



シンボル森林の活用促進事業 (C-44)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

目的：県指定の「熊本ふるさとの森林」森林や市町村が設定したふれあいの森林等地域を代表する森林の利用促進を図るため、森林の内容や散策路等施設の情報を記した総合案内板の設置や補修を行う。

内容：案内板の表示内容の改訂・補修

熊本県菊池市旭志の鞍岳は、阿蘇の北外輪山に位置する標高1,119メートルの山で、東に阿蘇五岳、北に九重連山、西は熊本市街地から有明海、雲仙まで見渡せる絶景の地である。四季を通じて登山客が多く、麓にはキャンプ場や温泉施設が整備されている。また、各方面からの登山道も多く整備されており、健脚者から登山ビギナーまで、幅広い層が楽しめる山となっている。

今般、最も標高が高い位置の駐車場に設置された案内板について、支柱の塗装がはげ落ちていたため、再塗装を行った。

・総合案内板 1基 ・表示板 W=2,900mm H=1,900mm

2. 活動の成果

森林にふれあうことで、森林の大切さに対する理解者が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図られる。

3. 参加者の声

登山口の駐車場に設置してある案内板であるため、多くの登山者が目にするものであるので、支柱のみではあるがリニューアルによりイメージアップにつながったと思われる。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月	計
事業量	案内板1基補修	案内板1基
実施場所	熊本県菊池市旭志麓	

施工前



施工後



ふれあい森林教室（A-111）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

キャンプ生活や自然観察会等を通じ、自然とふれあい、森林の持つ多様な機能を学ぶと共に、家族や友達の絆を深めることを目的として、ふれあい森林教室を開催した。

20日（土）森林教室（竹トンボ作り）、野外での食事、キャンプファイヤー、レクリエーション

21日（日）森林ネイチャーゲーム（カモフラージュ）、森の自然観察会

2. 活動の成果

- ①森林教室の竹トンボ作りでは、竹筒を竹トンボの羽の大きさに割り、トンボの羽になるようにナイフで薄く削ったり、錐を使って羽の中心に穴をあけたり、竹トンボがうまく飛ぶように考えながら作成し、竹の感触や硬さなど直接感じて貰った。
- ②夕食づくりでは、薪を燃やし火を使った飯ごう炊飯を行ったり、日常では経験出来ない事を体験して、より自然とのふれあいを感じて貰う事ができた。
- ③キャンプファイヤーでは、参加者の中から選出した、火の神・火の子が協力し力を合わせ点火の儀式を行った。その後指導者のもと、参加者同士一体となってレクリエーションを行い、楽しさを共有することが出来た。
- ④森林ネイチャーゲームでは、「カモフラージュ」を体験。自然とはミスマッチな物の数を1人1人に答えを聞く事で、個人の注意力を養った。
- ⑤自然観察会では、人と森との関わりを交えながら、自然の中で生きる生物や、植物の特性についての学習を行った。
- ⑥全体を通して、自然と人との関わりを理解し、自然に対する親しみや関心が深まった事を感じる事が出来た。今後も自然とふれあえるキャンプを継続すると共に、新たな活動を取り入れながら実施して行きたい。

3. 参加者の声

- ・とても楽しく子供たちも良い思い出ができたと思います。
- ・自然観察会でとても色々なことが知れて楽しかったです。
- ・生き物について楽しく学び、体験することが出来て良かった。
- ・小さい子供の意見も聞き逃さず、丁寧に答えていただきました。
- ・指導員と一緒に歩くことで、いつもと違う視点で森を歩くことができました。
- ・自然観察も指導員の解説があると深く学ぶことができました。
- ・自然観察会は、様々な視点を養えて良い経験になりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月20日	7月21日	計
事業量	・森林教室 ・野外炊飯 ・キャンプファイヤー ・レクリエーション	・森林ネイチャーゲーム ・森の自然観察会	
参加者数	48人	48人	48人
実施場所	大分県大分市大字高原	平成森林公園キャンプ場	

大分県農林水産祭林業部門（木と暮らしのフェア）（A-112）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林は、木材・竹材・椎茸など林産物の生産を通じて、水源のかん養や災害の防止、大気の浄化など、健康で快適な生活環境を形成するうえで大きな役割を果たしている。これら森林の持つ多面的な機能の発揮には、森林林業・木材産業が健全で活力ある状態であることが必要であり、そのためには木材利用の推進が不可欠である。

上記のことから、木材とのふれあいの場を広く県民に提供し、木材に対する理解を深め、さらに、県産材を中心とした需要を喚起し、県内の森林・林業・木材産業の活力を高めていくため、令和6年度農林水産祭林業部門を開催する。

2. 活動の成果

森林・林業体験・学習コーナー、木製品・林産物・緑化樹木苗木等の販売を通じて、森林・林業・木材に対する理解を深めてもらうことにより、木材の利用や森林の大切さについて普及・啓発を図ることが出来た。

これからもイベント・出店内容、駐車場を含めたアクセス、雨天対策、休憩場所等への要望をできるだけ反映し、秋の大分県の大きなイベントとして定着している当フェアをさらに充実させていきたい。

3. 参加者の声

- 大分県がどのような事に取り組んでいるかよくわかった。
- 普段食べないジビエ料理を食べることが出来てよかった。
- 子どもが体験出来るブースが多くあってよかった。
- 自然に触れたり学べたりしたのがよかったです。
- 毎年楽しみにしています。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月19日	10月20日	計
事業量	木製品・林産物・緑化木等の販売、ジビエ「森のレストラン」、木工教室の開催、日田もりあ下駄いによるパフォーマンス、○×クイズ、ミニ上棟式、木製品・林産物・緑化木等の販売、ジビエ「森のレストラン」、木工教室の開催木箱、コースターづくり等、林業体験・学習コーナーうまみだけPR鳥獣被害対策取組紹介、森林と防災のVR映像体験県森林環境税活用取組紹介 木育コーナー（2万枚の積み木広場、ジャンボジエンガ、木の卵釣りゲーム等） 木造ユニットハウスの展示 新世代の森林づくり展示コーナー （花粉粉、早生樹苗等の展示、森林クラウドシステムの体験）		
参加者数	一人	一人	71,000人
実施場所	大分県別府市（別府公園）		

大分県みどりの少年団のつどい（A-113）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

次代を担う少年少女に緑化思想の普及と定着を図るため、県下のみどりの少年団が一堂に会し、森に学ぶことによって相互の親睦と少年団活動の助長を図る。活動内容として、今回少年団員の交通事故防止など安全安心に参加できる環境を整えるため貸切バスによる送迎を行い、熱中症やケガ等の対策を講じる為、救護バックを整備し看護師を派遣した。また、日頃経験できない野外活動を始め、森林・林業教育指導者による自然観察会を行い、自然とのふれあいを通じて森林林業への関心を高めた。

8月1日（木）・河川プール体験・緑と水の観察会、飯盒炊飯・キャンプファイヤー

8月2日（金）・自然観察会・感想発表会

2. 活動の成果

河川プール体験や飯盒炊飯、自然観察会等を通じ、日頃できない貴重な体験をすることができた。また、バスによる送迎を行ったことによる少年団員の交通事故防止、看護師の派遣や救護バックの整備をすることで熱中症や怪我等の対策を講じることで、安全に活動を行うことができた。

豊かな自然の中で集団生活をする中で、次代を担う子どもたちの森林・林業に対する意欲関心を高めることができ、少年団活動の活性化に繋がったと考える。

3. 参加者の声

- ・河川プールの水が想像より冷たくてびっくりした。
- ・自然の中に色々な種類の植物があつて面白かった。
- ・家での生活とは違う雰囲気楽しかった。
- ・飯盒炊飯で思うように火がつかなくて苦労したけど、うまく出来て良かった。
- ・樹木が僕たちの生活にどんな形で関わっているか知ることができた。
- ・普段関わりのない、少年団と交流できて楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月1日（木）	8月2日（金）
事業量	<ul style="list-style-type: none"> ・河川プール体験 ・緑と水の観察会 ・飯盒炊飯 ・研修報告会 ・キャンプファイヤー 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会 ・感想発表会
参加者数	みどりの少年団7団114名 (団員67名、大人47名)	
実施場所	大分県県民の森平成森林公園キャンプ場	

名木保全事業（B-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

目的：県内の名木について現地調査を行ったデータに基づき、診断結果が不良な樹木について、保育・保全を行いさらに文化的な活用を図るものとする。

- 内容①実施主体 公益財団法人森林ネットおおいた
- ②実施時期 令和6年11月～令和6年12月
- ③実施場所 大分県全域（今回は津久見市）
- ④事業内容 樹勢等の健康度などを基に治療を行った。

2. 活動の成果

調査・治療木

①クスノキ（津久見市立花1-7津久見小学校）

創立150周年を迎える津久見小学校にある巨木のクスノキは枯れ枝が目立ち、着葉量も少なく生育状況が悪くなっている。幹内に空洞が認められ落枝による生徒の怪我の危険性があるため、枯れ枝除去や土壌改良、防護柵設置の保全治療を行った。

3. 考察

①クスノキ

手入れ不足であったため、樹木の生育状況は悪くなっていたが、枯れ枝除去と土壌改良により、樹勢が回復していくことが期待される。また、枯れ枝を除去したことや防護柵を設置したことで落下による建物や人への危険は防止された。

森林ボランティアリーダー養成研修（C-45）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

大学の森林ボランティアサークルを対象とした森林整備の研修を行い高度な知識、技能を有する森林ボランティアリーダーを養成する。

山林所有者と協定を交わしたフィールドを使い現況調査から森林整備の事業計画を作成し、実際に施業しながら、林業従事者の専門知識を活用し研修を行う。

2. 活動の成果

昨年度に引き続き山林所有者と協定を交わしたフィールドを使い、今年度は森林内歩道整備、竹等の除伐、ビオトープ池の整備、里山の特性についての現地研修を行った。森林内の整備では主に除伐した竹などを集積し歩道の補強をした。ビオトープ池の整備では、池内の泥を除去し、水生生物の観察を行なった。里山の特性については実際に現地の森林に触れながら研修を行った。

3. 考察

- ・年々整備していくことで、きれいになっていくのがわかり、森林に対する意識がより高まった。
- ・池を整備することで、水生生物について学ぶことができた。
- ・天然のヤマイモを採取することが出来、とても達成感があった。
- ・原木シイタケなど、山の中でとれる山菜に興味をもった。
- ・アカガエルの卵から、羽化の過程を観察することができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月21日	12月19日	1月16日	2月12日	3月25日	計
事業量	里山の特性について (研修)	森林整備 (研修)	森林整備 (研修)	ビオトープ池整備 (研修)	里山の恵み (研修)	
参加者数	7名	10名	8名	5名	7名	37名
実施場所	大分市久土（NBUの森）					

緑と花のふれあい推進事業（A-114）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民に身近な緑とふれあう機会を提供し、緑の大切さを認識させるとともに、緑を愛する心を育むため、県民から公募した受講生を対象に、専門講師の指導の下、

年間スケジュールに基づく「緑と花のふれあい教室」を開催し、土づくり・播種・挿し木・取り木・接ぎ木・病害虫防除等の技術・知識を習得させるとともに、受講生が実習で生産した緑化木等を広く県民に配布して、県民緑化運動推進の一助に資する。

2. 活動の成果

- ① 受講者は、緑化用苗木や花の養成技術の習得を通じて、緑への関心や理解をさらに深めることができた。
- ② 生産された緑化木を街頭やイベント等で配布することによって、緑に関する普及啓発活動や県民緑化運動の推進に寄与することができた。
- ③ 「緑と花のふれあい教室」を継続的に開催することで「緑の募金」の推進につながっている。

3. 参加者の声

参加の動機は、樹木や草花への興味、緑化木養成技術の習得、ボランティア活動への興味等が主である。参加者からは、①緑化木の種類を覚えるとともに苗木づくりの知識や技術が深まり、最新情報の交換ができる。②多くの方々と交流ができて楽しい。③家庭において緑化木を管理する上で、講義の中での質疑応答等、実践的な内容であり役立っている。④自分たちの育てた緑化木がいろいろな場所の緑化に役立っていることが嬉しい。⑤月々のボランティア活動が生き甲斐になっている等、多くの意見が寄せられている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年4月～令和7年3月	計
事業量	月1回のペースで当初の計画どおり実施	12回
参加者数	受講生 73名	延べ749名
実施場所	宮崎県緑化木養成圃場（宮崎県小林市野尻町紙屋）	

森林浴癒しの集い事業（A-115）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

広く県民から参加者を募集し、日南市北郷町森林セラピー基地（猪八重溪谷）において、森林セラピーに関する学習や散策を行うことにより、森林の持つ癒し効果と森林や緑への理解と認識を深めさせ、県民参加による森林・緑づくりを推進する「森林浴癒しの集い」を開催した。

2. 活動の成果

宮崎県内にある森林セラピー基地を散策することにより、参加者が自然に親しみ、森林の持つ「癒しの効果」を五感で満喫することによって、自然の大切さや環境、森林づくりなどの理解を深めることができた。

この集いは、参加者からの評判も良く、また、日常生活では味わうことの少ない自然体験を通じて、森林の素晴らしさを広く県民に再認識していただくことのできる重要な活動である。

3. 参加者の声

- ・自然の中でのウォーキングやテラリウム体験が良かった。
- ・講師の方々の説明が勉強になった。
- ・コケ、清流、森林楽しめました。
- ・ガイドの説明を受けながら自然散策して改めて自然環境の大切さを考えさせられた。
- ・ガイドの説明による散策が良かった。
- ・すべて大満足でした。
- ・溪谷沿いの樹木、瀬音が良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月19日（火）
事業内容	森林セラピーの講義 森林セラピーロードの探索 コケテラリウム体験等
参加者数	30名（参加者23名+講師5名+スタッフ2名）
実施場所	宮崎県日南市北郷町（森林セラピー基地猪八重溪谷ほか）

かごしまの緑・元気な森林体験事業（A-116）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・県や関係機関団体との共催で、「みどりの感謝祭」や「九州森林の日活動」「かごしま木材まつり」などの全県的なイベントを開催し、森林ボランティア団体の協力のもと、森林・林業体験として、木工クラフト教室や、緑の教室、森林内の散策などの体験教室を実施した。
- ・県内の各支部では、地区植樹祭や木材まつりを開催し、地球温暖化防止をはじめとする森林の多面的な役割を理解させるとともに、木材に触れて親しむ機会の創出に努めた。

2. 活動の成果

- ・「共生協働」の理念のもと、県や各市町村、森林管理署、林業関係団体、森林ボランティア団体と連携して、さまざまな普及啓発イベントを円滑に開催できた。
それぞれのイベントでは、森林ボランティア団体が周到な準備のもと、体験学習や環境教育に積極的に取り組んでいただき、初期の目的を十分に果たすことができた。
今後ともさらに連携・協力体制を充実させ、積極的な普及啓発や情報発信に努めることとしたい。

3. 参加者の声

- ・多くのイベントが通常開催ベースに戻り、参加者数も増えてきた。
来場者それぞれが、様々な森林・林業体験を楽しむ姿をととても嬉しく思った。
- ・降雨の後のぬかるんだ急斜面で木を植える活動は、なかなか困難であったが、子供たちと連携しながら、楽しく植えることができた。
苦労した分達成感も大きく、子供たちも喜んでいて、この貴重な体験は、大切な思い出として、いつまでも記憶に残ることだろう。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R6.10月～R7.2月	R7.4月	計
事業量	・かごしま木材まつり木製品展（9,000人） ・九州森林の日植樹祭（332人） ・支部植樹祭（4地区）（880人）	みどりの感謝祭	
参加者数	10,212人	1,200人	11,412人
実施場所	鹿児島市、霧島市他	始良市（県民の森）	

活力のある緑の少年団活動促進事業（C-46）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・緑を守り育てる活動を通じて、豊かな心を育成するため、県内で43団の緑の少年団が育成会や森林ボランティアの方々の指導のもと活動している。
その活動のより一層の活性化を図るため、緑の少年団活動発表大会を開催するとともに、交流集会等を開催した。また遠隔地からも参加できるよう交通費助成等を行った。
また各地域単位で開催される交流集会も、4地区で開催することができた。

2. 活動の成果

- ・例年開催している活動発表大会や緑化イベントを通じて、団相互の親睦が図られるとともに、情報が共有され、活動内容も多岐にわたってきている。
近年は、児童数の減少により小・中学校の統廃合が進み、緑の少年団数も減少傾向であるが、緑化活動を通じた情操教育は、郷土や自然を慈しむ心を育てるとともに自然界における人間の役割を理解させる大切な環境教育である。
今後とも、関係団体と連携を図りながら、側面から支援を継続していきたい。

3. 参加者の声

- ・多くの森林体験や木工体験を楽しむことができてうれしかった。
交流会では、色んなゲームを通して他の少年団の子とも友達になって、一緒に楽しく参加できた。
様々な自然体験に夢中になった。やっぱりとても楽しい体験だ。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R6.11月	R6.7～R7.2月	R7.4月	計
事業量	九州森林の日植樹体験	地区交流集会（4地区）	全県交流集会	
参加者数	60人	139人	73人	272人
実施場所	霧島市（国有林）	伊佐市 ほか	始良市（県民の森）	

森林ボランティア活動促進事業（C-47）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・一般公募による森林ボランティア養成講座（かごしま森林の学校）を開催し、新規育成に努めたほか、森林ボランティア活動の定着を図るため、実践活動や研修会を実施し、相互交流とスキルアップを図った。
- ・また、県森林ボランティア連絡会加盟団体22団体の自主活動を促進するため、年間活動費を助成し、組織の活性化を支援するなど、県民総参加による森林づくりの気運を醸成した。

2. 活動の成果

- ・森林ボランティア養成講座（かごしま森林の学校）は、地元の鹿児島大学等から外部講師を招き、計7回の講座を実施、9人に修了証を交付した。
 - ・森林ボランティア団体のリーダーを対象とした研修会（リスクアセスメント研修・森づくり現地研修）への参加も定着してきており、四半期毎に開催する森林ボランティア連絡会議と相まって、情報共有および相互交流が促進され、資質の向上が図られた。
- また、団体運営の年間活動費の助成により、森林ボランティア団体の自主活動が促進され、公募事業などに積極的に取り組む団体も増加した。

3. 参加者の声

- ・かごしま森林の学校に参加して、これまで何となく知っていた知識が深まり、とても勉強になった。室内の講話だけでなく、現場での実践活動もあって、さらに森林・林業に、興味が湧いてきた。
- ・森林に係わる人たちの日々の努力の積み重ねが、豊かな森林を守り育てることにつながっている。私たち森林ボランティアもささやかな協力者として、安全な基本作業に努めながら、多くの森づくり活動に貢献していくことで、ボランティアの輪を広げていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R6年10月～R7年5月	R6.10月4日	R6.10月9,10日	計
事業量	森林インストラクター養成講座 7回 修了者 9人	森林整備活動安全指導研修会 (救命救急処置研修)	森林ボランティアリーダースキルアップ研修会 (森づくり研修)	
参加者数	65人	21人	19人	105人
実施場所	県内各地	鹿児島市	熊本県	

令和6年度緑の育樹祭開催事業（A-117）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施日 令和7年2月22日（土）
 主 催 公益社団法人沖縄県緑化推進委員会、宜野湾市
 大会テーマ 「増やそうよ豊かな緑君の手で」

森林が地球温暖化防止に重要な役割を果たしている事について、理解を深め県民参加の森づくりを進めるため育樹祭を開催した。式典において、主催者、来賓のあいさつ、緑化コンクールの表彰、緑の少年団による大会決議を行い、式典終了後、参加者全員による施肥作業を実施。

2. 活動の成果

潤いと安らぎのある緑豊かな美ら島に育てるには多くの人手と時間が必要であることに理解を深め、保育の重要性を認識し実践した。

嘉数高台公園は、小高い自然林を利用して造成された公園である。また、平成30年全国育樹祭開催記念行事において、多くの市民や企業の協力により約1,000本のヒカンザクラの植樹を行い、桜を楽しめる公園になっている。本育樹祭により、ますます自然豊かに、そして桜の見どころの名所となり県民の憩いの場として活用されることを期待する。

今後、適切な保育管理を実施することにより観光立県を目指す本県において、緑の美ら島沖縄を目指し今後も緑化活動を取り組んでいく気運を高めた。

3. 参加者の声

今後、適切に保育作業をすることによりさらに緑豊かな憩いの場となるようにしていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和7年2月22日
事業量	緑の育樹祭の開催
参加者数	150人
実施場所	沖縄県宜野湾市

学校環境特別事業

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

学校を中心とした緑化活動は、次世代を担う児童生徒の緑化に対する意欲の高揚など、極めて重要な意義を持つ。復帰50周年を記念し学校緑化に対する気運の醸成と定着化を図ることを目的に本島地区で3校を選定し植樹事業を実施した。

北部地区：今帰仁村立兼次小学校
 中部地区：うるま市立天願小学校
 南部地区：那覇市立壺屋小学校

2. 活動の成果

学校環境の緑化を通じて環境教育を推進するため、学校の特色を生かしたサクラや草花の植栽など学校緑化事業を実施した。また、児童生徒が自ら植樹作業を実践することにより植樹・保育の重要性を認識し緑化への関心を高めることができた。

3. 参加者の声

植えた樹木を大事に育て学校の緑を大切に守り育て緑いっぱい为学校にしていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和4年5月
事業量	学校環境特別事業 3校
実施場所	沖縄県今帰仁村、うるま市、那覇市

令和6年度 緑と水の森林ファンド都道府県事業一覧

(単位：千円)

都道府県	区分	番号	事業名	助成額	実施額	備考
北海道	普	A1	令和6年度「美遊の森」体験学習会	100	100	
	普	A2	森林・みどり環境教育推進事業	100	0	事業廃止
	普	A3	青少年育成事業	116	116	
	普	A4	イベント家族きのご観察会事業	110	110	
	普	A5	森林ボランティア活動推進事業	360	360	
	普	A6	旭山希少種調査・保護 生物多様性保全事業	200	200	
	普	A7	利根別自然休養林観察会	171	80	減額
	普	A8	旧豊平川河岸に原始の森を創る 150年プロジェクト	270	270	
	普	A9	☆森林学習とツリークライミング体験会	490	490	
	普	A10	「羊蹄里山の森」における森づくり・森林空間利用事業	200	200	
	普	A11	☆原始の森を創る 150年プロジェクト	200	200	
	普	A12	松恵小学校緑の少年団育成事業	200	200	
	普	A13	☆羊を使った森づくり事業	100	100	
	普	A14	木になるフェスティバル	170	170	
	普	A15	普及啓発事業「森林（もり）の市（いち）」	315	315	
	普	A16	☆東川町キトウシの森 ボランティアリーダー育成事業	1,000	1,000	
	普	A17	日曜大工事業	200	200	
	普	A18	生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業	200	200	
	普	A19	森林及び木製遊具体験事業	150	150	
	普	A20	☆動物の力を活かした森づくり事業	150	150	
	普	A21	北海道木育フェスタ推進事業	1,228	1,328	減額
	普	A22	木育ひろば in チ・カ・ホ	500	500	
	普	A23	小学校の森林体験学習（総合学習）支援事業	450	450	
	普	A24	次世代に引き継ぐ森林づくり事業	250	250	
	研	B1	野付湾の流域河川の河畔林づくり事業	270	270	
	基	C1	馬追自然の森整備事業	50	50	
	基	C2	森林保全整備で地域環境へ寄与する！	100	100	
	基	C3	野幌の森再生事業と親子による植樹祭	200	200	
	基	C4	ルルマップ自然公園ふれらんど植栽事業	200	200	
	基	C5	令和6年度里見緑地内植樹・環境整備保全事業	100	100	
	基	C6	新ひだか町営林友の会森林づくり事業	60	0	事業廃止
	基	C7	市街地緑化事業	50	50	
基	C8	第30回サケの上る森づくり植樹祭	200	200		
基	C9	「ユネスコの森」青少年育成活動	50	50		
基	C10	「帯広の森」づくり事業	150	150		
基	C11	☆十勝牧場白樺並木再生事業	90	90		
基	C12	☆釧路湿原周辺丘陵地の自然林再生事業	100	100		
青森	普	A25	「未来の青い森県民植樹祭」実施事業	1,000	1,000	
	普	A26	木と森と人のふれあい事業	960	960	
岩手	普	A27	令和7年度遠野市緑化祭	200	200	
	普	A28	一関地方育樹祭	200	200	
	普	A29	緑の少年団育成事業	200	200	
	普	A30	木工工作キット配布事業	200	200	
	普	A31	ふるさとの巨樹・名木観察会	200	200	
	普	A32	第55回岩手県緑の少年団大会	1,650	1,650	
宮城	基	C13	宮城県みどりの少年団大会開催事業	2,040	2,040	
秋田	普	A33	緑と水のキャンペーン事業	1,250	1,250	
	普	A34	市民グループ森林づくり事業	700	700	
	基	C14	緑の少年団育成事業	450	450	
	基	C15	森林活動指導者支援事業	250	250	
山形	普	A35	山形県林業まつり開催事業	200	200	
	普	A36	庄内森とみどりのフェスティバル開催事業	150	150	
	普	A37	森を育む子どもたち育成事業	600	0	事業廃止
	普	A38	山形県緑の少年団交流研修・活動支援事業	1,010	1,610	増額
福島	普	A39	緑化普及啓発事業（第33回みどりの作文コンクール）	900	900	
	普	A40	普及啓発事業（第49回福島県林業祭）	700	700	
	普	A41	ファミリー緑の教室の開催事業	300	300	
	普	A42	ふくしま緑の醸成事業	300	300	
	基	C16	都市と農村の交流事業（第37回ふくしま緑の百景歩こう会）	900	900	
茨城	普	A43	青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業	150	150	
	普	A44	緑の体験教室開催事業	350	350	
	普	A45	グリーンフェスティバル開催事業	600	600	
	基	C17	森林ボランティア育成事業	300	300	
	基	C18	山村地域づくり活動助成事業	550	550	
基	C19	緑化樹木等苗木無償配布事業	410	410		
栃木	普	A46	「緑や水」「森林と木材の利用」「震災復興支援」など森林の総合的利用の促進	2,040	2,040	
群馬	普	A47	群馬県植樹祭開催事業	850	850	
	普	A48	「木育」活動促進事業	300	300	
	普	A49	巨樹・古木巡りツアー事業	1,000	1,000	
	普	A50	森と木のまつり事業	380	380	事業期間延長

(単位：千円)

埼玉	普	A51	さいたま森林フォトコンテスト事業	1,550	1,550	
	普	A52	緑の少年団育成事業	170	120	減額
	普	A53	緑化普及啓発事業	690	740	増額
千葉	普	A54	令和6年度国土緑化運動ポスター原画コンクール	1,660	1,660	
東京	研	B2	ふるさとの杜活力調査事業	2,250	2,250	
神奈川			該当無し	0	0	
新潟	普	A55	卒寿の森づくり事業	673	673	
	普	A56	にいがた緑の百年物語普及啓発事業（秋期）	1,903	1,677	減額
	普	A57	にいがた緑の百年物語普及啓発事業（春期）	1,161	1,161	
	普	A58	スガ池ビオトープ観察ポイント整備設計・調査委託事業	423	418	減額
富山	普	A59	森林・木材等普及啓発事業	1,140	1,220	増額
	基	C20	花とみどりの少年団活動支援事業	590	510	減額
石川	普	A60	緑化思想の普及啓発事業	120	120	
	基	C21	県内産緑化苗木無償配布事業	190	190	
	基	C22	森づくりボランティア・キャンペーン事業	1,450	1,450	
福井	普	A61	もりとふれあい推進事業	1,370	1,370	
	基	C23	ふくいの森林づくり推進事業	500	500	
山梨	普	A62	教職員森林・林業研修事業	230	420	増額
	普	A63	緑の少年隊活動発表会大会開催事業	350	0	事業廃止
	普	A64	緑化ポスターコンクール等開催事業	500	720	増額
	普	A65	子ども樹木博士認定事業	400	400	
	普	A66	親子緑の集い開催事業	500	500	
	普	A67	森林環境教育・木育支援事業	350	290	減額
長野	普	A68	緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業	4,160	4,160	
岐阜	普	A69	緑化推進キャンペーンと活動資材供給事業	2,380	2,380	
	基	C24	恵みの森づくり事業	800	800	
静岡	普	A70	森づくり県民大作戦支援事業	600	600	
	基	C25	森林ESD推進事業	2,740	2,740	
愛知	普	A71	みどりに親しむ集い事業	1,050	1,050	
	普	A72	みどりフェスティバル24秋・25春事業	600	600	
	普	A73	苗木の育成と配布事業	600	600	
	研	B3	ふるさと樹木診断事業	980	980	
	基	C26	活動基盤の整備	600	600	
三重	普	A74	緑の少年隊活動推進	460	460	
	普	A75	森林教室開催	130	130	
	普	A76	森林ボランティア活動促進	755	755	
	普	A77	県民参加の森林づくり運動推進	555	555	
	普	A78	海・山連携植樹事業	510	510	
滋賀	基	C27	緑の少年団育成事業	2,250	2,250	
京都	普	A79	京都モデルフォレスト運動連携強化事業	2,000	2,000	
大阪	普	A80	府民参加の森林づくり	2,850	2,850	
兵庫	普	A81	なか・やちよの森公園里山のふれあい祭り開催	200	200	
	普	A82	ひょうご木材フェアの開催	200	200	
	基	C28	緑の少年団活動支援事業	2,540	2,540	
奈良	普	A83	森の文化活動事業	1,510	1,510	
	基	C29	ボランティア活動推進事業	200	200	
和歌山	普	A84	青少年を対象とする森林ESDの推進など森林環境教育の促進事業	1,590	1,562	減額
	基	C30	森林ボランティアリーダーの養成・ネットワークの構築等の活動支援事業	640	642	増額
鳥取	普	A85	樹名板設置事業	100	106	増額
	普	A86	木工工作キット配布事業	1,040	1,184	増額
	基	C31	青少年・民間活動グループの育成支援事業	200	100	減額
	基	C32	☆森林空間活用推進事業	500	450	減額
	普	A87	「森の誕生日」2025事業	400	400	事業期間延長
島根	基	C33	緑の少年団育成強化事業	1,470	1,470	
	普	A88	森林を考える岡山県民のつどい	400	400	
岡山	普	A89	県産木材フェア開催事業	400	400	
	普	A90	くらしき都市緑化フェア	550	550	
	基	C34	緑化普及推進事業	1,140	1,140	
	普	A91	「みどりの集い」開催事業	1,770	1,880	増額
広島	普	A92	☆「木材利用に係る人材育成」事業	500	500	
	基	C35	「緑の少年団交流会」開催事業	750	640	減額
	普	A93	森林体験学習支援事業	640	640	
山口	基	C36	都市と山村ふれあい交流促進事業	360	360	
	基	C37	記念の森造成事業	1,000	1,000	
	基	C38	企業の森づくり普及啓発イベント	1,960	1,960	
徳島	基	C38	企業の森づくり普及啓発イベント	1,960	1,960	
香川	普	A94	緑化普及活動事業	1,410	1,410	
愛媛	普	A95	木工作品製作キット配布事業	1,880	2,080	増額
	普	A96	愛媛の森林友の会の育成及び研修活動	200	0	事業廃止
高知	普	A97	土佐の名所の樹木活性化事業	330	0	事業期間延長
	普	A98	森のようちえん推進事業	710	710	事業期間延長
	普	A99	高知県森林インストラクター養成講座	400	400	事業期間延長
	普	A100	森の魅力普及啓発事業	440	440	事業期間延長

(単位：千円)

	基	C39	森のようちえん指導者養成講座	450	0	事業期間延長
福岡	普	A101	森林ふれあい交流	570	570	
	普	A102	グリーンフェスティバル 2025	610	610	
	普	A103	第34回世界子ども愛樹祭コンクール	300	300	
	普	A104	第12回もりもり広がる森林づくり	350	350	
	普	A105	花立山の里山保全作業	300	300	
	普	A106	里まちサイクルプロジェクト	410	410	
	普	A107	森を五感で感じよう(森林体験活動)	150	150	
佐賀	普	A108	☆「森林・林業・木育イベント」開催事業	1,400	1,300	減額
	基	C40	緑の探検学習会開催事業	390	490	増額
長崎	普	A109	森林のつどい事業	1,250	1,220	減額
	基	C41	緑の少年団活動活性化事業	1,020	1,050	増額
	基	C42	森のめぐみいきいき活用促進事業	500	500	
熊本	普	A110	くまもと森づくり普及啓発事業	1,000	1,000	
	基	C43	緑の少年団活動育成事業	1,090	1,090	
	基	C44	シンボル森林の活用促進事業	600	600	
大分	普	A111	ふれあい森林教室	650	650	
	普	A112	木と暮らしのフェア	80	80	
	普	A113	大分県みどりの少年団のつどい	250	250	
	研	B4	名木保全事業	910	910	
	基	C45	森林ボランティアリーダー養成研修	150	150	
宮崎	普	A114	緑と花のふれあい推進事業	2,320	2,320	
	普	A115	森林浴癒しの集い事業	330	330	
鹿児島	普	A116	かごしまの緑・元気な森林体験事業	1,730	1,450	計画変更
	研	B5	かごしまの名木古木樹勢診断事業	200	0	事業廃止
	基	C46	活力ある緑の少年団活動促進事業	800	1,200	計画変更
	基	C47	森林ボランティア活動促進事業	900	980	計画変更
沖縄	普	A117	令和6年度 緑の育樹祭開催事業	1,470	1,470	
			合 計	117,940	115,202	

国 緑 6 第 2 号
令 和 6 年 2 月 1 日

都道府県緑化推進委員会 様

公益社団法人 国土緑化推進機構
理事長 濱田 純一

令和6年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業の助成申請について

令和6年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業の助成につきましては、別添「令和6年度緑と水の森林ファンド都道府県事業実施要領」（以下、「要領」という。）を踏まえ、[様式1]により令和6年4月5日（金）までに申請してください。

なお、最近の厳しい経済情勢から森林ファンド運用収入が減少傾向で推移しております。事業の助成申請に当たっては、必要性・効率性等に十分留意されますようお願いいたします。

また、具体的事業内容につきましては、地域の実態・特性を十分考慮するとともに重点課題（別添「実施要領」のⅡ）の趣旨を踏まえて申請するよう併せてお願いいたします。

（提出は、メール（ファイル添付、印略）でも受け付けます。）

担当：基金業務 大沼
03（3262）8457
E-mail: ohnumak2241@green.or.jp

令和6年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業実施要領

I 基本方針

社会環境の変化に伴い、国民の森林・みどりに対する関心はますます高まっております。具体的な「国民参加の森林づくり運動」を一層推進することが課題となっています。

また、持続可能な開発目標（SDGs）の達成や人生100年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林利用の促進を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中、公益社団法人国土緑化推進機構では、「緑と水の森林ファンド」の基本課題である森林資源の整備及びこれらを通じた水資源のかん養や森林の利用等に関する総合的な調査研究、普及啓発、基盤整備等の推進を図るため、民間団体の主体的・多様な参加による「国民参加の森林づくり」運動を展開することとし、以下により「緑と水の森林ファンド」都道府県事業を実施します。

II 重点課題の設定

令和6年度においては、以下の重点課題を設け、これらのテーマに沿った事業を重点的に実施することとします。

- ① 人生100年時代におけるライフステージに応じた森林空間利用の促進
- ② 「緑や水」「森林と木材の利用」「震災復興支援」など森林に関する総合的・効果的な普及啓発
- ③ 地域材の利用推進等山村資源の有効活用等による山村地域の活性化
- ④ リーダーの養成、森づくり活動における安全確保、ネットワーク形成支援等による森林ボランティア活動支援
- ⑤ 学校林活動など森林ESD（森林環境教育）の促進や緑の少年団活動支援、中高等教育との連携等による次世代の育成
- ⑥ 森林の公益的機能、持続的な森林づくり等に関する研究

III 具体的な事業の展開

普及啓発、調査研究、活動基盤の整備、国際交流の4分野において、以下の

事業を重点的に実施します。

1 普及啓発事業

- (1) 人生 100 年時代におけるライフステージに応じた森林空間利用の促進を図るための普及啓発活動
- (2) 「緑や水」「森林と木材の利用」「震災復興支援」など森林の総合的利用の促進
- (3) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育の促進
- (4) 地域材の利用促進・木材需要の拡大等の山村地域の活性化・地域づくり運動の推進

2 調査研究

- (1) 森林の保全・公益的機能の増進等に関する調査研究
- (2) 青少年を対象とする森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育に関する調査研究
- (3) 学校林や学校周辺森林の教育的活用のための調査研究
- (4) 山村資源の有効活用・地場産業の振興等山村地域活性化に関する調査研究

3 活動基盤の整備

- (1) 森林 ESD の推進（森のようちえんを含む）や緑の少年団活動など森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク形成等の活動支援
- (2) 森林づくり活動を通じた農山村と都市住民等との交流促進・山村地域活動支援
- (3) 青少年の教育、中高等教育との連携の場としての森林の活用促進
- (4) 地域のシンボリック森林の利用促進

4 国際交流

- (1) 国内で開催される森林・環境に関する国際会議への支援
- (2) 森林・林業に関する海外との情報交換

IV 事業の適切な実施

令和 6 年度も厳しい予算事情にあることから、事業の必要性、緊急性、効率性、独自性や地域の特性等を十分考慮し、適切な実施に努めるものとします。

緑と水の森林ファンド都道府県事業 報告集 Vol. 14

令和 8 年 3 月発行

発行 公益社団法人 国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館

TEL.03-6362-8457 FAX.03-3264-3974

電子メールアドレス : info@green.or.jp

URL : <https://www.green.or.jp>



緑と水の森林ファンド



令和7年度遠野市緑化祭（岩手県）